

令和4年度  
「障害者の生涯学習推進コンソーシアム形成事業」  
実施報告書

令和5年3月  
北海道教育委員会

## はじめに

平成 26 年の障害者権利条約の批准や平成 28 年の障害者差別解消法の施行等も踏まえ、学校卒業後の障害者が社会で自立して生きるために必要となる力を維持・開発・伸長し、共生社会の実現に向けた取組の重要性が高まっております。

こうした中、北海道教育委員会では、令和 2 年度から文部科学省委託事業「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業」を受託し、教育部局や福祉部局の垣根を越えて、大学等の高等教育機関や医療法人、社会福祉法人、NPO 団体等が連携した、障害者の生涯学習のための「地域連携コンソーシアム」形成のモデルを構築する事業に着手してまいりました。

今年度は、過去 2 年間のコンソーシアム会議における御意見や情報共有・実践交流の場として開催したコンファレンスでの議論を通して浮かび上がってきた成果や課題も踏まえて、「障害者の学びのニーズを踏まえた講座内容・実施方法、合理的配慮を含む必要な支援」「障害者の学びを支援する人材の育成」「障害者の学びの場を継続的なものとするための方策の検討」など、大きく 9 つの取組に分類し、コンソーシアムの構成団体等からの協力の下、推進してまいりました。

本報告書は、それらの取組の集大成として関係資料をまとめるなどしたものであり、障害者の生涯学習の推進に関わる方々と成果や課題を共有し、今後の全道そして全国的な障害者の学びを支援する際の参考にしていただくことを目的として作成いたしましたので、是非、関係する皆様の参考にしていただければ幸いです。

結びになりますが、本事業の実施に対して御協力、御尽力いただきました皆様方に深く感謝を申し上げますとともに、今後とも、北海道が取り組む事業に対する御支援と御協力をお願い申し上げます。

令和 5 年 3 月

北海道教育委員会

## 目 次

1	事業概要	…… P.1
2	具体的な取組	
	(1) 関係機関の参画による地域連携コンソーシアムの形成	…… P.5
	(2) 障害者の学びのニーズを踏まえた講座内容・実施方法、合理的配慮を含む必要な支援	…… P.9
	(3) 学校教育法第105条に基づく履修証明書の発行に向けた新たな学習プログラムの開発に係る具体的な検討	…… P.25
	(4) 特別支援学校等における障害のある児童生徒を対象とした生涯学習への意欲向上に資する取組の実施	…… P.31
	(5) 障害者の学びを支援する人材の育成	…… P.35
	(6) 障害者の学びの場を継続的なものとするための方策の検討	…… P.41
	(7) 障害者の学びに関する情報を一元的に収集・提供する仕組みの構築	…… P.67
	(8) 読書や図書館等の利用に困難を伴う障害者の支援に関する取組の実施	…… P.81
	(9) 障害当事者・関係団体・支援者等が参加するコンファレンスの実施	…… P.85
3	成果と課題	…… P.101

# 1 事業概要

## 1 事業の趣旨

障害者の生涯学習を推進していく上で、学びを最も身近で支える行政機関である地方公共団体の実施体制や連携体制の構築は大変重要であることから、社会福祉法人やNPO法人、企業等、障害者支援に関わる民間団体などの外部の関係機関・団体等との連携は欠かせない。

こうしたことから、道内で取組を推進する多様な関係者との連携の場として、障害当事者や家族、福祉、医療、教育等の関係者により構成する協議会を設置し、学校卒業後における障害者の学びの場の整備・拡充や情報共有の仕組みについて検討する。

また、コンソーシアムの構成団体等がもつネットワークを生かし、広域な北海道の市町村をつなぎ、障害当事者からの参画をより一層得るとともに、障害者の生涯学習に関する情報の収集・発信の充実に努めるなど、障害者の生涯学習の支援体制の構築を推進する。

さらに、地方公共団体の職員が障害者の生涯学習推進に関する基本的な考え方や先進事例について学び、理解し、必要な専門性を身に付けることができる研究協議会を道内178市町村で実施することにより、本事業終了後も見据えた取組を展開する。

## 2 令和2年度と令和3年度 of 取組

### (1) 初年度（令和2年度）の取組

本コンソーシアム事業においては、北海道教育委員会が事務局となり、大学等の高等教育機関、障害者雇用に知見のある社会福祉法人等や生涯学習の機会を提供する民間団体等の関係機関から幅広く参画を得て取組を推進してきた。

令和2年度については、地域連携コンソーシアムを形成して、構成団体が参画する会議において障害者の生涯学習についての現状と課題を共有するとともに、道内で実施される先進事例を交流するコンファレンスを開催することで、2年目以降の本事業の方向性を確認した。また、長年、障害者の生涯学習に取り組む医療法人稲生会によるモデルプログラムの成果と課題の共有も図った。

### (2) 2年目（令和3年度）の取組

令和3年度については、本事業で培ったノウハウを広く普及し、地域の実情に即した取組を行うキーマンとなる人材の養成が一層必要になるとの認識から、178市町村の社会教育行政担当職員等を対象とした研修会に取り組むとともに、文部科学省から受託した社会教育主事講習においても、障害者の生涯学習をテーマとした講座を開設した。また、北広島市教育委員会においては市町村単位の地域連携コンソーシアムも構築し、巨大アート制作等に取り組んだ。

## 3 3年目（令和4年度）で実施する9つの具体的な取組

本事業の3年目となる令和4年度には、過去2年間の取組を踏まえて、次の9項目の事業に重点的に取り組み、そこで得られた成果や課題について、コンソーシアム会議やコンファレンスの場で、障害当事者も含めた多様な関係者と共有することで、本事業の取組の普及に努めた。

- ① 関係機関の参画による地域連携コンソーシアムの形成
- ② 障害者の学びのニーズを踏まえた講座内容・実施方法、合理的配慮を含む必要な支援
- ③ 学校教育法第 105 条に基づく履修証明書の発行に向けた新たな学習プログラムの開発に係る具体的な検討
- ④ 特別支援学校等における障害のある児童生徒を対象とした生涯学習への意欲向上に資する取組の実施
- ⑤ 障害者の学びを支援する人材の育成
- ⑥ 障害者の学びの場を継続的なものとするための方策の検討
- ⑦ 障害者の学びに関する情報を一元的に収集・提供する仕組みの構築
- ⑧ 読書や図書館等の利用に困難を伴う障害者の支援に関する取組の実施
- ⑨ 障害当事者・関係団体・支援者等が参加するコンファレンスの実施

#### 4 取組の推移

	取 組 内 容	令和2年度	令和3年度	令和4年度
コン ソ ー シ ア ム	関係機関の連携	○	○	○
	コンファレンスの開催	○	○	○
	指導者養成		○	○
モ デ ル プ ロ グ ラ ム	稲生会によるプログラム開発	○	○	○
	北広島市によるプログラム開発		○	○
	ネイパルによるプログラム開発		△ 検討	○
	特別支援学校、高等教育機関によるプログラム開発		△ 検討	○
調 査 研 究	学習プログラム・実施体制等	△ 検討	○	○
	障害者の学びの実態把握	○	○	○
	障害者の学びに関する情報収集・提供のためのシステム構築	△ 検討	○	○

# 令和4年度「地域コンソーシアムによる障害者の生涯学習支援体制の構築」企画提案書

<b>事業名</b>	障害者の生涯学習推進コンソーシアム形成事業
------------	-----------------------

<b>提案者名</b>	北海道教育委員会
-------------	----------

## 事業の趣旨・目的

障害者の生涯学習を推進していく上で、学びを最も身近で支える行政機関である地方公共団体の果たす役割は大変重要であることから、社会福祉法人やNPO法人、企業等、障害者支援に関わる民間団体などの外部の関係機関・団体等との連携は欠かせない。

こうしたことから、令和2年度より引き続き、多様な関係者との連携の場として、障害者本人や家族、福祉、医療、教育等の関係者により構成する協議会を設置し、学校卒業後における障害者の学びの場の整備・拡充や情報共有の仕組み等について協議する場を設ける。

その際、本事業で培ってきた各団体等とのネットワークと広域な北海道の市町村をつなぎ、特に障害当事者の方の参画をより一層進めるとともに、障害者の生涯学習に関する情報の収集・発信の充実に取り組むなど、過去2年間の取組の成果と課題を活かし、これまでの取組を発展継承させる。

また、地方公共団体の職員が障害者の生涯学習推進に関する基本的な考え方や先進事例について学び、理解し、必要な専門性を身に付けることができる研究協議会を道内全市町村で実施することにより、本事業の趣旨の普及啓発を推進する。

事業については、次の9項目に取り組む。

- ①関係機関の参画による地域連携コンソーシアムの形成
- ②障害者の学びのニーズを踏まえた講座内容・実施方法、合理的配慮を含む必要な支援
- ③学校教育法第105条に基づく履修証明書の発行に向けた新たな学習プログラムの開発に係る具体的な検討
- ④特別支援学校等における障害のある児童生徒を対象とした生涯学習への意欲向上に資する取組の実施
- ⑤障害者の学びを支援する人材の育成
- ⑥障害者の学びの場を継続的なものとするための方策の検討
- ⑦障害者の学びに関する情報を一元的に収集・提供する仕組みの構築
- ⑧障害当事者・関係団体・支援者等が参加するコンファレンスの実施
- ⑨読書や図書館等の利用に困難を伴う障害者の支援に関する取組の実施

## 構成機関

- 構成員（予定）及び役割
- ①北海道教育庁生涯学習推進局生涯学習課【社会教育・生涯学習】→事務局を担う、道内市町村教育委員会との連絡調整等
  - ②北海道教育庁学校教育局特別支援教育課【特別支援教育】→特別支援学校との連絡調整等
  - ③北海道保健福祉部【保健福祉行政】→福祉との連絡調整、事業の実施等
  - ④医療法人稲生会【医療法人】→障害者対象のモデルプログラムの実施
  - ⑤社会福祉法人ゆうゆう【社会福祉法人】→社会福祉法人としてのモデルプログラムの実施、社会福祉法人等との連絡調整等
  - ⑥DPI北海道ブロック会議【障害当事者】→障害当事者としてのモデルプログラム実施への協力、連絡調整等
  - ⑦北海道大学【社会教育論】→社会教育・生涯学習関係の学識者による社会教育研究分野からの事業への助言等
  - ⑧北海道医療大学【医療福祉論】→高等教育機関としてのモデルプログラムの実施、福祉系大学等との連絡調整等
  - ⑨藤女子大学【特別支援教育論】→高等教育機関としてのモデルプログラムの実施等
  - ⑩いっしょにね！文化祭実行委員会【文化団体】→稲生会と合わせた障害者対象のモデルプログラムの実施、関係団体等との連絡調整等
  - ⑪道立特別支援学校【特別支援学校】→特別支援学校としてのモデルプログラムの実施
  - ⑫道立生涯学習推進センター【社会教育施設】→公民館など社会教育施設等におけるモデルプログラムの開発、調査研究
  - ⑬北海道教育大学【大学と地域との連携】→公開講座の実施、学生ボランティアの養成、研修会の実施
  - ⑭北海道社会福祉協議会【社会福祉】→道内各市町村の社会福祉協議会との連絡調整、各種事業への協力 など
  - ⑮北広島市【市町村】→市町村レベルの地域コンソーシアムモデルの形成
  - ⑯岩見沢市【市町村】→「地域連携による障害者の生涯学習機会の拡大促進」事業実施予定

# 令和4年度「地域コンソーシアムによる障害者の生涯学習支援体制の構築」企画提案書

## 事業実施体制

- 関係機関の役割
- ・地方公共団体→事務局としての全体調整、コンソーシアム会議の設置、事業計画の策定・推進、教育部局と知事部局の連携による情報集約と提供、コンファレンスの開催による普及・啓発等
  - ・社会教育施設→調査研究機能、学習相談機能の活用
  - ・高等教育機関→講座の企画・助言、講座の開設（オープンカレッジ等）、履修証明プログラムの作成に向けた具体的な検討、講師・指導者の派遣、学生ボランティアの派遣・養成、遠隔学習等
  - ・医療法人・社会福祉法人・企業等→障害者福祉サービスを通じた講座の提供、大学等の講座の運営支援、障害者の就労支援、ボランティア人材の養成協力等
  - ・地域民間団体・特別支援学校→講座の企画・ノウハウ共有・助言、多様な障害者の学びのニーズ対応（講座提供）、障害当事者・保護者のニーズの把握と共有等
  - ・連携市町村→市町村版地域コンソーシアムの検討、「地域連携による障害者の生涯学習機会の拡大促進」事業の実施
  - ・コーディネーターについては、北海道教育委員会社会教育主事が役割を担う。

## コンソーシアム体制イメージ

	情報収集と提供	コンファレンス	モデルプログラム	調査・研究
医療法人・企業等	○	○	○	
高等教育機関	○	○	○	
地域民間団体 ・特別支援学校	○	○	○	
北海道（保健福祉部）	○	○	○	
市町村	○	○	○	
北海道教育委員会 （社会教育課）	○	○	○	○
北海道教育委員会 （特別支援教育課）	○	○	○	
生涯学習推進センター	○	○	○	○
社会教育施設	○	○	○	○
障害当事者	○	○	○	

## 事業実施スケジュール

4月	
5月	
6月	・委託契約締結 ・再委託契約締結
7月	・第1回コンソーシアム会議の開催 （協定書等の確認、事業計画の確認、モデルプログラムの検討）
8月	・実態調査アンケートの検討 ・道内市町村対象研究協議会実施計画の確認（道内14管内において通年実施）
9月	・各構成団体における、各種事業の実施（通年で随時実施）
10月	・第2回コンソーシアム会議の開催 （モデルプログラムの検討、情報共有、実態調査アンケートの確認、学びに関する情報の収集・提供システム構築への情報収集、検討、コンファレンスの検討）
11月	・モデルプログラムの検討及び実施（通年で随時実施）
12月	・全道研修会（コンファレンス）の開催 ・コンファレンス参加者企画事業の実施
1月	★各プログラムで検討会議をもち、具体的な方策について協議の上、随時実施する。（オンラインでの開催も進める）
2月	
3月	・第3回コンソーシアム会議の開催 （今年度のまとめ）

# 令和4年度「地域コンソーシアムによる障害者の生涯学習支援体制の構築」企画提案書

## 具体的な内容

※事業については、次の8項目に網羅的に取り組む。

- ①関係機関の参画による地域連携コンソーシアムの形成
    - ・コンソーシアムは、これまでの取組の成果を継承し、北海道教育委員会が事務局となり、関係機関（大学等の高等教育機関、障害者雇用に見のある社会福祉法人等や生涯学習の機会を提供する民間団体等）から幅広く参画を得て協定等の締結を行う。
    - ・コンソーシアムにおいては、北海道立生涯学習推進センターが中心となり、道内市町村や当事者への実態調査を行い、障害者の生涯学習の推進についての実態把握を行う。さらに、各地域の教育局（教育事務所）の機能を活かし、令和2年度に実施した質問紙調査の結果をベースにしなが、令和3年度に引き続き、各教育局管内市町村の障害者の生涯学習推進担当者や首長部局福祉担当者、各市町村社会福祉協議会等の関係者を対象とした研究協議会を実施するとともに、道内の各地域の実情を踏まえた学習プログラムの検討や、地域のニーズを把握するためのヒアリングを行う。なお、ニーズ調査に当たっては、当事者の参画を得て進める。
  - ②障害者の学びのニーズを踏まえた講座内容・実施方法、合理的配慮を含む必要な支援
  - ③学校教育法第105条に基づく履修証明書の発行に向けた新たな学習プログラムの開発に係る具体的な検討
  - ④特別支援学校等における障害のある児童生徒を対象とした生涯学習への意欲向上に資する取組の実施
  - ⑤障害者の学びを支援する人材の育成
  - ⑥障害者の学びの場を継続的なものとするための方策（費用負担の在り方等）の検討
- ⇒②～⑥の事業については、多様な実施主体によるモデルプログラムを次のとおり実施する。
- ・②及び⑤については、社会福祉法人やNPO法人等が主体となって実施するプログラム（障害福祉サービスと連携した学びの場・費用負担と在り方等）を中心に関係団体や障害当事者からの意見を踏まえた事業を実践する
  - ・②については、大学の公開講座等と連携したプログラム（卒業生の主体的な学びへの参画を促進するプログラム）
  - ・③については、大学の研究機能を活用した公開講座等のプログラム（ボランティアの育成・履修証明書の発行に向けたプログラム）
  - ・④については、文科省が作成した「障害者の生涯学習推進」のためのリーフレットを活用した好事例の収集や、各モデルプログラムと特別支援学校との連携したプログラム（関係機関・団体等との連携プログラム）
  - ・⑤については、社会教育施設等における講座等のプログラム（継続的に学ぶことができる講座・人材育成等）
- また、北海道の広域分散型の特徴を踏まえ、ICTの活用が可能なプログラムについては、遠隔学習を実施する。各種会議についても、遠隔会議システム等を活用し実施する。
- なお、モデルプログラムについては、これまでの検討事項や、道内各地域の実態調査の結果を踏まえ、道内各市町村へ普及させることをめざし、各市町村で取り組めるモデルプログラムとなるよう開発を進める。
- ⑦障害者の学びに関する情報を一元的に収集・提供する仕組みの構築
    - ・北海道立生涯学習推進センターの有する相談支援や情報収集・提供体制を活用するとともに、他県における先進事例も参考としなが、障害者の生涯学習推進に向けたシステム構築への研究を行う。
  - ⑧地域における関係団体・支援者・障害当事者等が参加するコンファレンスの実施
    - ・上記に示す研究によって得られた成果について、周辺の都道府県・市町村等の行政、学校、関係団体等に対して、報告・普及を行う。
  - ⑨読書や図書館等の利用に困難を伴う障害者の支援に関する取組の実施
    - ・北海道立図書館と連携し、各市町村図書館等における障害者の支援に向けた取組の研究を行う。

## 文部科学省委託事業

# 障害者の生涯学習推進 コンソーシアム形成事業

令和4年度構想

### 事業の必要性

- H26年の障害者権利条約の批准やH28年の障害者差別解消法の施行等を踏まえ、学校卒業後の障害者が社会で学ぶことができる体制の実現が必要
- R1年7月障害者の生涯学習の推進方策について（文科省通知）→【都道府県に期待される取組】障害者の多様な学習活動の充実等

### 事業の概要

- ①関係機関（大学等の高等教育機関、障害者雇用を行う企業等、障害者雇用に見のある社会福祉法人等や生涯学習の機会を提供する民間団体等）が連携し、コンソーシアムを形成・運営する。
- ②効果的な学習を支援するための具体的な学習プログラム・実施体制等に関する実践研究。

### ①地域連携コンソーシアムの設置

- 関係機関が連携した体制の構築→事務局（道教委社会教育課）
- 関係者の資質向上⇒市町村教育委員会等職員対象研究協議会の実施（R3～4年度 道内178市町村対象）
- 関係団体・支援者・障害当事者等が参加するコンファレンスの実施（年1回）
- 障害者の自立や社会参加、ニーズ、生涯学習の機会提供等についての現状と課題を把握するための実態調査



### ②学習支援に関する実践研究

- 障害者の学びのニーズを踏まえた講座内容・実施方法、合理的配慮を含む必要な支援
- 学校教育法第105条に基づく履修証明書の発行を見据えた新たな学習プログラムの開発
- 特別支援学校等における障害のある児童生徒を対象とした生涯学習の意欲向上に資する取組の実施
- 障害者の学びを支援する人材の育成
- 障害者の学びの場を継続的なものとするための方策の検討
- 障害者の学びに関する情報を一元的に収集・提供する仕組みの構築

#### R2～継続

- ・市町村における障害者の生涯学習推進体制構築に関する実践研究【北広島市（石狩教育局）】
- ・みらいづくり大学校による実践研究【医療法人稲生会】
- ・関係団体等による事業【いっしょにね文化祭実行委員会 など】
- ・第6期北海道障がい福祉計画との関連事業（道保健福祉部との連携）
- ・「地域連携による障がいの生涯学習機会の拡大促進」事業との連携
- ・青少年教育施設との連携事業・大学との連携事業 など

#### R4～新規予定

- ・「共生社会コンファレンス北海道」と連動した事業
- ・特別支援学校との連携事業 など

成果 ○各地域で障害のある人の社会参加と活躍を推進 ○各地域における支援人材の増加と障害への理解を推進  
○障害のあるなしに関わらず生きやすい共生社会の実現へ

## 2 具体的な取組

## 取組 1

### 関係機関の参画による地域連携コンソーシアムの形成

障害当事者団体に加えて、医療・福祉・教育等の関係者によって構成される地域連携コンソーシアムを形成し、各団体で実施する取組の情報を共有するとともに、学校卒業後における障害者の学びの場の整備・拡充や情報共有の仕組み等について協議する場を設けた。

#### 1 関係機関の参画による地域連携コンソーシアムの形成

コンソーシアムは、北海道教育委員会が事務局となり、関係機関から幅広く参画を得る体制を構築して、学びの持続性を確保する取組の在り方について協議するとともに、次のような実証研究に取り組んだ。

- 学習プログラム・実施体制に関する実証研究
- 障害者の学びの実態把握のための調査研究
- 障害者の学びに関する情報の収集・提供のためのシステム構築のための研究
- コンファレンスの開催
- 継続的な講座運営に向けた検討

#### 2 コンソーシアム構成機関

本事業の調査研究事業の成果を生かし、事業終了後も障害者の学びに関する調査や取組を継続することを見据え、幅広い分野の関係機関からの参画を得た。医療福祉や特別支援教育だけでなく、社会教育や地域との連携を専門分野とする大学関係者から協力が得られたことで、学びの持続性や地域と連携した学びの構築について幅広い取組が可能となった。

専門分野	所 属
医療法人	医療法人稲生会
社会福祉法人	社会福祉法人ゆうゆう
社会福祉	北海道社会福祉協議会
大学	北海道大学
	北海道医療大学
	藤女子大学
	北海道教育大学札幌校
特別支援学校	北海道真駒内養護学校
	北海道札幌あいの里高等支援学校
文化団体	いっしょにね！文化祭実行委員会
障害当事者団体	D P I 北海道ブロック会議
行政関係者（市町村）	北広島市教育委員会社会教育課
	岩見沢市健康福祉部
行政関係者（北海道）	学校教育局特別支援教育課
	保健福祉部福祉局障がい者保健福祉課
	生涯学習推進センター

事務局：北海道教育庁生涯学習推進局社会教育課

## 令和4年度「障害者の生涯学習推進コンソーシアム形成事業」 地域連携コンソーシアム会議（第1回）報告書

- 1 日 時 令和4年8月17日（水）13:30～15:00
- 2 会 場 オンライン開催（配信：かでの2・7創作実習室）
- 3 参加者 構成委員11名、代理出席3名、同席者4名、オブザーバー等1名、文部科学省3名、事務局・説明者5名
- 4 内 容 (1) 開 会  
(2) 委員紹介  
(3) 議 事
  - ①挨拶及び行政説明（文部科学省）
    - ・本事業を実施する背景・課題等についての説明と、北海道のこれまでの取組に対する評価をいただいた。
  - ②本事業の概要についての説明（社会教育課）
    - ・資料をもとに説明を行ったが、特に意見はなかった。
  - ③実勢研究事業（モデルプログラム）について
    - ・医療法人稲生会  
資料をもとに説明が行われたが、特に意見はなかった。
    - ・北広島市教育委員会  
今年度予定する取組の紹介と先進地視察についての報告が行われた。
  - ④調査研究事業について（生涯学習推進センター）
    - ・資料をもとに説明を行った。
    - ・「調査を行う上での物差しが不明確に感じる。結果をどのように活用すべきか検討した上で調査を行うべきではないか。」と質問及び要望が出された。
  - ⑤コンファレンスについて（医療法人稲生会）
    - ・資料をもとに説明が行われた。
  - ⑥その他
    - ・資料をもとに、卒業後の就労と学びの接続についての研修及び協議を行う機会の設定について、新たな提案がなされた。また、大学生が運営に参画する障害者スポーツの事業について、新たな取組の報告がされた。
    - ・履修証明書の発行に向けた可能性について議論を行った。
- (4) 閉 会

## 令和4年度「障害者の生涯学習推進コンソーシアム形成事業」 地域連携コンソーシアム会議（第2回）報告書

- 1 日 時 令和4年11月22日（火）13:30～15:00
- 2 会 場 オンライン開催（配信：かでの2・7創作実習室）
- 3 参加者 構成委員9名、代理出席3名、同席者4名、オブザーバー等1名、文部科学省2名、事務局・説明者5名
- 4 内 容 (1) 開 会  
(2) 議 事
  - ①報 告：事業の進捗状況について（社会教育課）
    - ・8月に開催した第1回会議以降の取組について報告した。
    - ・過去2年の取組の成果と課題をもとに、取組を9つの柱に分類して、取組を推進することを順に報告した。
  - ②協議1：コンファレンスについて（社会教育課、医療法人稲生会）
    - ・資料をもとに説明を行った。
  - ③協議2：実態調査の報告について（北海道医療大）
    - ・第1回会議で継続協議にするとした履修証明書の発行について、北海道医療大学の行ったニーズ調査の結果をもとに、構成団体が意見を交わした。
    - ・北海道医療大学による報告のあと、4つのグループに分かれて協議を行った。
    - ・グループ協議では、「事業を実施する人と障害のある人が、互いに対等な関係性（互いに利害が一致する関係性）で循環していく仕組みになるよう、本事業による取組の効果の分析・検証が必要である」「人材育成や地域住民に向けたアプローチは、福祉や社会教育の土壌であり、支援する・されるではない障害者の生涯学習というところに学びがある」などの意見が出された。
  - ④その他
    - ・本会議について、文部科学省出席者2名より、感想や情報提供をいただいた。
- (3) 閉 会

## 令和4年度「障害者の生涯学習推進コンソーシアム形成事業」 地域連携コンソーシアム会議（第3回）報告書

- 1 日 時 令和5年2月13日（月）14:00～15:30
- 2 会 場 オンライン開催（配信：かでの2・7創作実習室）
- 3 参加者 構成委員9名、代理出席2名、同席者4名、文部科学省3名、事務局・説明者4名
- 4 内 容 (1) 開 会  
(2) 議 事
  - ①報告1：共に学び、生きる共生社会コンファレンス in 北海道について（医療法人稲生会）
    - ・資料をもとに、事業内容やアンケート結果等の報告が行われた。
  - ②報告2：卒後のキャリア支援と生涯学習アクセシビリティ向上に向けた協議について（社会教育課、北海道医療大学）
    - ・12月に実施した本協議で出された意見を報告した後、協議に参加した特別支援学校や北海道医療大学より改めて感想等をいただいた。
  - ③報告3：今年度および次年度の取組について（社会教育課）
    - ・資料をもとに、今年度および次年度の取組についての報告を行った。
  - ④協 議：次年度以降の取組の充実に向けて
    - ・次年度以降の取組充実に向けて、各構成団体から意見をいただいた。主な意見としては、学校の現状への配慮、取組を広げるネットワーク作りの充実、当事者ニーズのさらなる把握であった。
  - ⑤その他
    - ・本会議について、文部科学省出席者2名より感想や情報提供をいただいた。
- (3) 閉 会

## 取組 2

### 障害者の学びのニーズを踏まえた講座内容・実施方法、合理的配慮を含む必要な支援

障害者の学びのニーズを踏まえた学習プログラムを開発するため、医療法人稲生会が実施する「みらいつくり大学校」の実証研究の成果を最大限に活用した講座や、道立青少年体験活動支援施設ネイパルが有する教育資源を活用した新たなイベントについては、今後の取組推進に大きな可能性を示す先行事例となった。

#### 1 医療法人稲生会による「みらいつくり大学校」の実証研究事業

##### ○概要

昨年度までの実証研究の成果と課題を踏まえて、当事者及び家族のニーズを踏まえた講座等を定期的で開催することにより、学びの機会の整備・拡充に向けた実証研究を実施する。

##### ○定期講座等

アイヌ語講座、アイヌ食講座、音楽講座、オンライン\*ハワイアン、みらいつくり哲学学校、みらいつくり映画同好会、オタクの語り場、みらいつくり読書会など

##### ○二風谷コタン見学ツアー（博物館との連携によるモデルプログラム開発）

令和3年度に取り組んだ、博物館等の利用を促進する動画が好評だったこともあり、その成果を生かしたバスツアーを実施して、博物館等の社会教育施設と連携・協働した講座の実施ノウハウを蓄積する機会とした。



#### 2 道立青少年体験活動支援施設ネイパルにおける実証研究事業

##### ○概要

障害の有無に関わらず、全ての人が体験できるプログラム開発のため、青少年体験活動支援施設ネイパルにおける実証研究事業を行った。

##### ○事業内容

##### ア、アダプテッドスポーツを体験する取組

- ・日時 令和4年12月3日(土)～4日(日)
- ・会場 ネイパル砂川
- ・参加 小学生から中学生まで 25名
- ・内容 パラリンピック競技やアダプテッドスポーツの体験、チーム対抗ボッチャ体験、自由参加活動 等

##### イ、テントサウナを体験する取組

- ・日時 令和5年2月11日(土)～12日(日) (足寄会場)  
令和5年2月13日(月) (厚岸会場)
- ・会場 ネイパル足寄、ネイパル厚岸
- ・参加 障害当事者、介助者など 5名(足寄会場)、5名(厚岸会場)
- ・内容 テントサウナ体験(講義含む)、ボッチャ、コーヒー教室、フィットネスマシン体験等



取組名：みらいつくり大学校 定期講座等

団体名：医療法人稲生会（みらいつくり大学校）

## 1. 趣旨・目的

障害当事者の学びのニーズを踏まえた講座内容、実施方法及び合理的配慮を含む必要な支援など、多様な学びの機会の拡充に資することを目的に、障害の有無にかかわらず参加できる講座等を継続して開催した。

## 2. 主な取組内容

- アイヌ語講座  
アイヌ語による会話など通して、アイヌ民族の言語や文化を学ぶ。
- アイヌ食講座  
アイヌ民族の伝統的な料理の調理等を通して、アイヌの知恵や文化を学ぶ。
- 音楽講座  
音楽家などを講師に招くほか、札幌コンサートホール kitara の見学ツアーも実施した。
- オンライン＊ハワイアン  
ハワイの歴史や文化を学ぶとともに、椅子に座りながら実施できるチェアフラを体験した。
- みらいつくり哲学学校  
哲学に関する課題図書を読み進めた後、参加者全員での議論を行った。
- みらいつくり映画同好会  
参加者が持ち寄る映画をテーマに、好きな場面や人物などについて語り合った。
- オタクの語り場  
障害当事者が趣味や熱中していることについて、自身の思いを語り合う場を設けた。
- みらいつくり読書会  
古典や児童文学など課題作品を読み、参加者同士で感想等について議論を深めた。

## 3. 成果

- 障害の有無に関わらず、ともに学ぶことのできる生涯学習の機会を設けることができた。
- オンライン配信による開催を中心としながら、新型コロナウイルス感染症の感染対策をとって集合形式で行うなどして、年間を通して定期的に複数の講座等を開催し、当事者ニーズに応じた内容で学びの場を展開することができた。
- 講座等への参加を促進するため、マイクやビデオ画面をオフにして聞きながら学ぶラジオ参加や、後日アーカイブ動画を見て学ぶ方法も推奨するなど、参加者の状況に応じた受講体制を構築することで、様々な障害種に対応した運営にすることができた。

## 4. 取組の詳細（HP 公開情報など）

○医療法人稲生会 みらいつくり大学校 HP  
<https://futurecreating.net/>

みらいつくり大学校 アイヌ食講座

# イペアンロー



第4月曜日

ラジオ参加  
歓迎

11:00~12:00

・ミニ講座(15分)・オンライン調理

## 日程(全12回)

ミニ講座

メニュー

4/25	アイヌ食の特徴	カムオハウ
5/23	山・川での知恵	キナオハウ
6/27	山菜について	プクサ
7/25	味付け・スパイス	ラタシケッ
8/22	身近なアイヌ食文化と生活の知恵	昆布タレ他
9/26	現代のアイヌ料理	カルシオハウ
10月	アイヌ見学ツアー(二風谷)	
11/28	食文化の循環	チポロエモ
12/26	口承文芸・食と言葉との繋がり	チェッオハウ
1/23	アイヌ行事	ルイベ
2/27	保存について	サカンケ
3/27	余すことなく	チタタッ

日程や内容は変更になることがあります

平取町二風谷出身のアイヌ

講師 関根摩耶

北海道沙流郡平取町二風谷生まれ。  
アイヌ語弁論大会で2度最優秀賞受賞し、平成30年度STVアイヌ語講座ラジオ講座の講師やACジャパン北海道地域CMなど多数活躍。2022年1月からuhbにて毎週火曜日午後9:54~放送のmem(ムム)を担当しアイヌ料理や文化を伝えている。

# みらいっくり大学 音楽講座開催 (全5回)

日程: 2022年9月~2023年1月

会場: ご自宅 または会場

参加: オンライン

(zoom)

または会場

第1回~第2回の講座  
2022年8月17日  
受付開始!!



音楽講座の

最新情報はこちら



みらいっくり研究所ホームページ

<お問い合わせ>

医療法人 稲生会

電話 011-685-2799

11/5(土)

第2回

音楽を楽しもう

アフリカ編

開催日

2022年

10/21(金)

13:00~



講師

梅村圭史氏

(ハケトウボーイズ)

第3回は音楽発表会を開催!!

第4回

音楽会場に

行ってみよう

開催日

2022年

12/17(土)

12:00~



会場

札幌コンサートホール

Kitara

第5回

音楽で表現

してみよう

開催日

2023年

1月予定

調整中



講師

杉田篤史氏

(INSPIリーダー)



講師紹介  
**看護師 山本智子氏**  
(国立音楽大学)

国立音楽大学音楽学部音楽文化教育学科准教授、博士(子ども学)、近著に、単著『養護教諭養成課程 医療的ケア児支援を含む 基礎看護実技』(北樹出版)、単著『音楽とジネス心理学』、単著『社会福祉論』(以上、開成出版)等、教育学を中心とする学際的な視角に基づいて、病气や障がいのある子どもの参加を通じた乳幼児期からの発達支援に係る研究や教育に取り組んでいる。



第2回音楽講座

**ジェンベのリズムを感じて！**

音楽を楽しむ方法はたくさんあります。この講座はアフリカの太鼓「ジェンベ」のリズムに合わせアフリカの音楽を感じます。太鼓の仕組みを学んだり、東アフリカ・ケニアで開催されているジェンベのワークショップの様子も紹介します。色々な音楽の楽しみ方を体感しましょう。

**第3回  
音楽発表会**  
2022年11/5(土)  
13:00~

会場：北翔支援学校  
(家族交流会バザー会場内)  
演奏者大募集！！

弾き語り、ダンス、歌などジャンルは問いません。当日は人工呼吸器や気管切開があっても素敵な歌声を届けてくれる kanako さんがゲスト参加予定！！



音楽発表会

**演奏者の  
お申し込みは  
9/30(金)  
まで！！**



**色々な「音楽」について語りませんか？**

昨年度は思い出の曲をテーマに、それぞれのエピソードについて語りました。今年度はよりテーマを広げ「音楽を語ろう」です。何となく聴いている、リズムが好き、、、どんな理由でもOKです。皆で語り音楽の視野を広げませんか。講座の後半には山本氏による音楽講座も開催します。

**第1回  
音楽を語ろう**  
2022年9/17(土)  
13:00~



第1回音楽講座

講師紹介

ジェンベ奏者 **梅村 圭氏**

(アフリカントラディショナルバンド ハクトロポーズ) 30歳の時にジェンベに出会い魅了される。在日マリ人、タマン・ジヤハワ氏に師事し、その他のさんのアフリカ人の叩き手からジェンベを学ぶ。現在はアフリカントラディショナルバンド「ハクトロポーズ」主宰。そのほか練習会を不定期で開催しつつ、練習仲間とライブ活動をおこなっている。ジェンベ奏者のほかに看護師の顔を持ち、2021年に居宅介護事業所運営舎を立ち上げている。

**第2回  
音楽を楽しもう**  
**アフリカ編**  
2022年10/21(金)  
13:00~

**クリスマスオルガンコンサート♪**

札幌コンサートホール Kitara の見学ツアー！クリスマスオルガンコンサートのリハーサルを見学できます。一般客はいままので落ち着いた環境で演奏を楽しむことができます。この講座のために用意した特別なイベントです。ぜひ、この機会をお見逃しなく！先着順ですので、お申し込みはお早め！！

**第4回  
音楽会場に  
行ってみよう**  
2022年12/17(土)  
12:00~  
(先着10組20名)



第4回音楽講座

講師紹介

歌手 **杉田篤史氏**

(アカペラグループ INSPI リーダー)  
1997年大阪大学でINSPI 結成。2001年フジ系「ハモナビ」出演、メジャーデビュー。2005年より日立 CM ソング「この木なんの木」担当。2017年より音楽「ハーモナからチーリング」を学ぶ「ハーモナ」をターゲット。愛媛大学羽鳥准教授らと共同研究をすすめている。

**第5回  
音楽で表現  
してみよう**  
2023年1月  
調整中



# Online Hawaiian

オンライン\*ハワイアン

ラジオ参加  
OK

ハワイを楽しむ1時間

ゆったりとハワイの歴史、文化を学び、フラを体験してみませんか？

毎月第4金曜日 13:30~14:30

- |                                 |                                 |                                 |
|---------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 4月22日  | <input type="checkbox"/> 8月26日  | <input type="checkbox"/> 12月23日 |
| <input type="checkbox"/> 5月27日  | <input type="checkbox"/> 9月16日* | 2023年                           |
| <input type="checkbox"/> 6月10日* | <input type="checkbox"/> 10月28日 | <input type="checkbox"/> 1月20日* |
| <input type="checkbox"/> 7月22日  | <input type="checkbox"/> 11月25日 | <input type="checkbox"/> 2月24日  |

※6月・9月・1月は第4金曜日から変更になっています



**KARI (カリ先生)**

ハワイアンネーム: Kawailehua (カヴァイレフア)

北海道生まれ。Ka Aha Hula O Kaiolohia (カアハフラオカイオロヒア)札幌主宰。東京でデザイナー、スタイリストの仕事を経てフラと出会う。2005年横浜にフラハラウ(教室) Kaiolohiaを創立。その後ハワイ島ヒロのクムフラ、ナホクと出会い、ハラウフラオカヒキラウラニを師事するハラウとしてフラの指導に努める。



**武部 未来 (たけべみき先生)**

二分脊椎症で、水頭症とアーノルド・キアリ奇形という合併症を持って産まれる。子どもの頃から、障害があっても、音楽が好き♪踊る事が好き♪高校卒業後ハワイに滞在、2012年9月に誰でも参加出来るチェアフラのサークルをスタート。障害がある方も、足や腰が痛い方も、元気な方も、それぞれのスタイルでHulaを楽しんでいます。



お申し込みはコチラから



お問い合わせ みらいつくり研究所 (担当: 宮田)

メール: miyata-na@kjnet.onmicrosoft.com

## 障害当事者の 結婚について考える

みんなで話そう  
～結婚と恋愛について～



なかなか結婚の具体的なイメージわからない！  
ぼんやり結婚したいけど、  
今の生活がどう変わってくるんだろう…  
そもそも相手をどうやって見つけんねん！  
恋愛と結婚だけが選択肢ではないけれど、  
さまざまな気持ちをみんなでお話ませんか？



メニュー

- ・出会いについて
- ・パートナーの介助について
- ・お金について

お申込み  
QRコード



2022年 11月28日(月) PM19:00～20:30

どなたでも  
参加OKです♪

ZOOMで開催

## 障害当事者と 介助について考える

みんなで話そう  
～介助について～



介助者との距離感がよくわからない…  
言いたいことがあるけれど、  
どう伝えたらいいかわからない…  
本当にこれでいいのか？  
これを機にぶっちゃけてみましょう！



メニュー

### ○障害当事者側から

- ・印象深い介助者
- ・やってもらって当たり前感が出てしまう時
- ・明確に希望を伝える方法？
- ・介助の中で衝撃だったこと etc…

### ○介助者側から

- ・他の人の介助を知る方法
- ・介助者同士の語り場はあるのか
- ・距離を保つための工夫 etc…

2022年 12月19日(月) PM19:00～20:30

ZOOMで開催

主催：医療法人稲生会  
担当：宮田、堀

みらいつくり大学校、連絡先：札幌市手稲区前田4条14丁目3-10

☎：011-685-2799

E-mail：[miyata-na@kjnet.onmicrosoft.com](mailto:miyata-na@kjnet.onmicrosoft.com)

取組名：二風谷コタン見学バスツアー

団体名：医療法人稲生会（みらいつくり大学校）

### 1. 趣旨・目的

- ・障害者の学びのニーズを踏まえた講座内容・実施方法、合理的配慮を含む必要な支援を踏まえた学びや体験活動の機会を拡充する。
- ・博物館等の社会教育施設を活用した取組を実施する際の運営ノウハウを蓄積するため、障害当事者・介護者・支援者が参加した実証研究を実施する。

### 2. 取組内容

- ・みらいつくり大学校で定期的に行っているアイヌ文化を学ぶオンライン講座の学びをさらに深めるため、平取町の二風谷アイヌ文化博物館への日帰りバスツアーを実施した。
- ・施設見学、講話、体験学習等を実施して、アイヌ文化への理解を深めた。
- ・障害当事者が参加しやすいように、車いすにも対応した福祉バスを借り上げて実施した。
- ・参加者の学びを深めるため、施設への下見や担当者との打ち合わせを繰り返し行った。
- ・新型コロナウイルス感染症の感染対策として、消毒・検温・黙食など、感染対策を徹底した。

### 3. 成果と課題

#### 〈成果〉

- ・屋外での集合形式による参加型の体験活動を実施することで、障害の有無に関わらず学ぶことができるための支援や合理的配慮の在り方について、ノウハウを蓄積することができた。  
（参加者からは、「オンラインの学びもためになるが、実際に博物館へ行くことができたことで、より身近な体験ができて、学びが深まった」との声が寄せられた。）
- ・事前に運営者が施設への下見を行い、施設側と情報交換をすることで、障害当事者が施設を利用する際の課題を共有でき、バリアフリー対応の重要性について理解を深める機会となった。

#### 〈課題〉

- ・ユニバーサルトイレの設置状況や移動ルート内にある休憩場所の確認や、予定にない対応が求められた際の緊急対応については、関係者間の事前の情報共有の重要性が浮き彫りになった。
- ・バスの運行時に、道路の凹凸によって、車椅子の揺れが大きかった。また、その他にも想定外のトラブルも発生したため、安全面の確保については一層の配慮が必要である。

#### 4. 活動の様子

施設見学・講話・体験学習



↑ チセ内での講話の様子



↑ 体験学習の様子

#### 5. 様々な配慮

福祉バス



← 昇降機つき福祉バス

実際の乗降の様子→



スロープが設置されたチセ



← 出入り口の段差に  
スロープが設置された  
チセ（アイヌの住居）

内部の段差にも  
スロープが設置された→



#### 6. その他取組の詳細（HP 公開情報など）

○医療法人稲生会 みらいつくり大学校 HP

<https://futurecreating.net/works/works-6914/>

○医療法人稲生会 YouTube

<https://www.youtube.com/watch?v=HdqEN5joGTs&t=3s>

# ニ風谷コタン 見学バスツアー

お申し込みは  
9/22(木)まで!



**開催日** 2022年10月15日(土) 9:00~17:00

**参加費** おとな 2,000円、小・中学生 1,000円  
(アイヌ食弁当1,500円、各種体験1,000円~は別途料金がかかります)

## タイムスケジュール

- 8:50 JR 札幌駅北口周辺集合
- 9:00 出発
- 11:00 ニ風谷コタン到着  
・アイヌ文化博物館 見学
- 11:45 昼食
- 13:00 アイヌ語の語り
- 13:30 各種体験・自由時間
- 15:30 ニ風谷コタン発
- 17:00 JR 札幌駅北口周辺着
- 17:30 JR 手稲駅着

福祉バス  
乗車定員 **30名**

アイヌ食の  
お弁当

アイヌ語の  
語り

お問い合わせ先 担当：久保

電話：011-685-2799 (代表) メール：kubo-ka@kjnet.onmicrosoft.com

令和4年度パラスポチャレンジ報告書

1 事業の概要

■ねらい

障害者の生涯学習推進に向け、アダプテッド・スポーツを研究する大学と連携し、小・中学生に障害の有無にかかわらず共にスポーツに取り組む楽しさを体験させることを通じて、障害の有無にかかわらない社会参加や活躍の場づくりの機会とするとともに、障害者の学びを支援する人材育成の基盤とする。

- 期日 R4.12.3(土)～4日(日) 1泊2日
- 対象 小学生・中学生(障がいのある人もない人も)
- 場所 北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル砂川
- 参加者数 25名(内 障がい者7名)
- ボランティアリーダー 10名



2 プログラムの概要

■日程表

	13:30		14:00		14:30		17:00		17:30		18:30		21:30		22:00	
12/3(土) ～ 4(日)	受付開始時間: 13:30		受付	出合いの つどい	活動1 パラリンピック競技、アダプテッド スポーツ等の体験			夕食	自由参加活動(焚火、カ ード・ボードゲーム等) 入浴		就寝 準備	就寝				
	6:30	7:30	8:30	9:00		11:00	11:20	12:00								
	起床	準備	朝食	部屋清掃 部屋点検	活動2 チームで対戦(何にな るかはお楽しみ)		ふりかえ り	別れの つどい	解散							

■活動1 パラリンピック競技、アダプテッド・スポーツ等の体験

① 車いす競技	陸上競技用、ラグビー用、バスケットボール用の車いすの乗車体験。
② アンプティサッカー	杖を突いた状態でのサッカーでのドリブルやシュートの体験。
③ フライングディスク	椅子に座った状態でフライングディスクを投げ、的に当てる体験。
④ カーリング	椅子に座った状態で的に止まるようにステッキでストーンを押す体験。
⑤ ボッチャ	ジャックボール(目標球)に赤青のボールを近くに止まるように投げる体験。
⑥ ゴールボール	アイマスクをして目が見えない状態で、転がってくる鈴の音がするボールを止める体験。
⑦ ブラインドサッカー	アイマスクをして目が見えない状態で、鈴の音がするボールを音を頼りにドリブルする体験。
⑧ シッティングバレーボール	グループで輪になり床に座った状態で、ミニバレーボール用のボールを床に落とさずに連続トスをする体験。



■活動2 チームで対戦

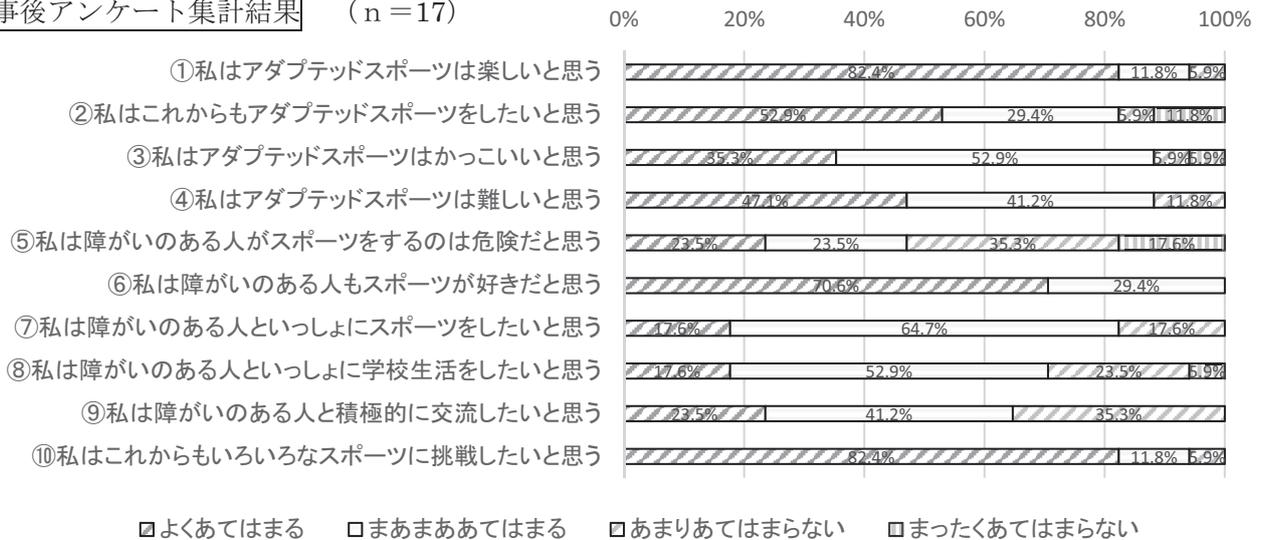
○ボッチャの総当たり戦

ボランティアスタッフも加わり、任意の8チームでのリーグ戦。イニングごとに最低1回は椅子に座ったままでの投球をするルール。コートは進行方法を理解しセルフジャッジで行う。

### 3 事業後のアンケート、感想等

#### 事後アンケート集計結果

(n = 17)



#### 全体の感想

- ・ チームの人と一緒に達成感を味わえた。もっと他のアダプテッド・スポーツもしたいと思った。
- ・ アダプテッド・スポーツは難しいこともあり大変だったけれども、チームの人と一緒にプレイすることが楽しかった。
- ・ 知らない人ばかりだったけれども一緒にスポーツをしてなかよくなれて良かった。
- ・ 障がいがあってもスポーツが好きで、スポーツを楽しむことができることは良いことだと思う。
- ・ 思っていたよりもアダプテッド・スポーツが楽しかった。パラリンピック選手はすごいと思う。



ゴールボール

### 4 まとめ

参加者がアダプテッドスポーツに触れ、そのスポーツそのものの楽しさや障がいの有無にかかわらずに楽しめるスポーツであることの理解を深められたことは本事業の大きな成果であり、本事業の実施課程で大学と連携し、大学のもつ資源を活用させていただくことで事業内容が充実したことは今後同様の事業を進める際の大きな強みとなる。

しかし、「障がいの有無にかかわらない」をうたった事業としては、ほとんど健常者しか参加がなかった事業となったことは、大きな課題である。

障がいのある児童・生徒にも参加しやすいような参加形態（部分参加を可能にした）、通常の主催事業よりも大々的な広報（空知管内対象学年の全児童へのチラシ配布、近隣の放課後デイサービス事業所への訪問）等の参加に結び付くであろう工夫を行ってみたが、結果は伴わなかった。

要因としては、新型コロナウイルス感染症の再拡大と重なってしまったこと、保護者の送迎の負担などが考

えられる。また、障がい当事者やその保護者にネイパル砂川が行う「障がいの有無に関わらず参加できる事業」の認知度が低かったことも考えられる。

ネイパルは合理的配慮のもと、障がいの有無にかかわらず参加者を受け入れる施設ではあるが、障がい当事者やその保護者からは事業に参加するハードルが高い可能性もある。

障がい者の生涯学習を支えるためには、このような事業を定期的に行い、障がい当事者やその保護者の認知度を向上させることが大切である。



ボッチャ



## (6) プログラムデザイン

### ①足寄

#### 1日目

	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	17:30	19:00	20:00	21:00	22:00
	開会式	ブレイク アイス	オリエン テーション	入室 活動 準備	サウナ講義	テントサウナ体験 (屋外特設設備)	入浴	夕食	軽スポーツ ポッチャ 体験	就寝 準備	就寝

#### 2日目

6:30	7:30	8:30	9:00	11:00	11:30	12:30
起床・ 布団消毒	朝食	部屋 清掃	コーヒー教室	ふりかえり	昼食	閉会式

- ・体験活動①「サウナ講義・体験」：サウナについての学び（注意事項とサウナによる効果）と屋外テントサウナを体験する講座型体験活動
- ・体験活動②「ポッチャ」：ポッチャ体験を通して参加者同士の交流を図る軽スポーツ活動
- ・体験活動③「コーヒー教室」：リラックス効果のあるコーヒーの学び（コーヒーについて）とハンドドリップ実践の講座型体験活動。

### ②厚岸

15:30	15:45	16:30	16:35	16:50	17:30	18:30	19:00	19:30
開会式	軽い運動体験	活動準備	サウナ講義	テントサウナ体験 (屋外特設設備)	入浴	夕食	ふりかえり	閉会式

- ・体験活動①「軽い運動体験」：最新のフィットネスマシン等を活用し、「体を動かす心地よさ」を体感する軽い運動体験
- ・体験活動②「サウナ講義・体験」：サウナについての学び（注意事項とサウナによる効果）と屋外テントサウナを体験する講座型体験活動

## (7) 実施の準備・運営と指導

プログラムを運営・指導するにあたって、次の事項に留意した。

- ・コロナ感染症対策：参加者のマスク着用、検温、手指消毒を徹底するとともに、活動の際はソーシャルディスタンスを保つなど感染症対策を講じた。
- ・ヒートショック対策：事前に参加者の健康チェックを行うとともに、活動前には入浴して体を温めてからサウナを利用するようにした。また、看護師を配置するなど安全面の確保に向けて配慮した。
- ・障がい種の把握：参加者を対象に事前調査を実施し、障がい種や体験活動の経験の有無など、参加者一人一人の特性を把握し、施設の利用やプログラムの運営の際に必要な支援について配慮した。
- ・事前踏査：運営者とサウナ業者が活動場所を事前に踏査し、安全に活動できるような環境を整備した。また、運営者がオンラインを活用して事前に綿密な打合せを行って当日に臨んだ。

### 3 調査の概要

#### (1) 調査の概要

「インクルーシブキャンプ In ほっかいどう」実証研究（青少年教育施設における事業の実証）

- ・社会教育施設における障がい者への支援体制・状況
- ・社会教育施設における体験活動プログラムの実証
- ・ヒアリング終了後、調査報告書としてまとめる。

#### (2) 調査時期

##### ①事前調査

事業実施約3週間前に、参加者（障がい当事者）を対象に質問紙調査を実施。調査用紙をメールで送付し回答を得る。項目は、参加者に関する基本情報。

##### ②事後調査

プログラム終了後、ふりかえりの時間に参加者及び介助者を対象に質問紙を配付し、回答を得る。また、必要に応じてヒアリングを行う。

#### (3) 調査対象

- ・29歳男性（帯広市在住）：身体障がい（肢体不自由・独歩）
- ・29歳男性（中札内村在住）：身体障がい（肢体不自由・独歩）
- ・48歳男性（帯広市在住）：身体障がい（肢体不自由・車いす使用）
- ・56歳男性（岩見沢市施設）：身体障がい（脳性麻痺・車いす使用）
- ・47歳男性（厚岸町施設）：知的障がい
- ・19歳男性（厚岸町施設）：発達障がい
- ・19歳男性（厚岸町施設）：精神障がい、発達障がい

#### (4) 調査員（研究員）

北海道立生涯学習推進センター職員

#### (5) 調査内容

##### ①事前調査

質問項目

- ・障がい種及び診断された時期
- ・特別支援学校通学経験
- ・体験してみたい自然体験活動や体験ツアーの内容
- ・普段利用している社会教育施設やこれまで訪問した景勝地、北海道遺産等のスポット
- ・これまで利用した施設等について、障がい当事者として困ったことやこうしてほしいという要望
- ・普段実施している体験活動の種類や内容

##### ②事後調査

- ・障がい当事者の視点から見たプログラム内容についての満足度、感想、課題点など
- ・青少年体験活動支援施設を利用した感想、課題点など



### 取組 3

## 学校教育法第 105 条に基づく履修証明書の発行に向けた新たな学習プログラムの開発に係る具体的な検討

学校卒業後の学びの継続性を確保するため、大学が有する教育資源を効果的に活用することが求められている。そのため、本コンソーシアム会議では、学校教育法第 105 条に基づいた履修証明書の発行の可能性も含めて、大学等が連携した新たな学習プログラムの開発に係る具体的な検討を実施した。

### 1 履修証明書発行の可能性についての具体的な検討

#### ○第 1 回コンソーシアム会議における議論

- ・大学側には運営面、受講者側には費用的な負担が発生する影響にも鑑み、慎重な協議が必要
  - ・一つの大学での実施は困難な状況にあるため、複数の大学が協力して、現在実施する公開講座やオープンカレッジを土台とした取組の可能性を今後も模索
- ※履修証明書の発行も含めて、大学のもつ教育資源を活用した取組の在り方については、今後も継続協議することを確認。

#### ○第 2 回コンソーシアム会議における議論

- ・第 1 回コンソーシアム会議の内容を受けて、北海道医療大学が特別支援学校や企業等を対象に実施したニーズ調査の内容も踏まえて、多様な主体が連携した取組の可能性について協議。

### 2 「卒後のキャリア支援と生涯学習アクセシビリティ向上」に向けた協議

○日 時 令和 4 年 12 月 20 日（火） 9:30～10:30

○方 式 遠隔会議システム ZOOM による協議

○参 加 北海道医療大学、北海道札幌あいの里高等支援学校、北海道真駒内養護学校、保健福祉部福祉局障がい者保健福祉課、学校教育局特別支援課、生涯学習推進局社会教育課

○内 容 障害者の卒業後の学びを充実させるためには、特別支援学校等の在学中から学びの場に参画することが望ましい。また、労働・福祉分野との連携・協働した取組が一層必要となることから、切れ目のない支援体制の整備と生涯学習へのアクセシビリティ向上を目標とする今後の事業展開の可能性について、関係者が現状および課題を共有した。

### 3 先進地への視察

○宮崎県への視察（10 月 25 日（火）～10 月 26 日（水））

- ・多様な主体が参画する宮崎県のコンソーシアムの取組を視察することで、大学も含めた複数の教育機関等が連携した学びのあり方について理解を深めた。

○和歌山県への視察（12 月 6 日（火）～12 月 8 日（木））

- ・社会福祉法人一麦会や関係機関の取組を視察することで、障害者支援や学びのあり方について学び、ゆめ・やりたいこと実現センターの視察では、当事者と共に学びを引き出す居場所づくりについて理解を深めた。

# 「障害者の生涯学習推進コンソーシアム形成事業」に係る 北海道医療大学と関係特別支援学校とのオンライン協議 次 第

## 1 概要

- ・日 時  
令和4年12月20日（火）9時30分～10時30分
- ・会 場  
Zoomによるオンライン方式
- ・出席者  
北海道真駒内養護学校  
北海道札幌あいの里高等支援学校  
北海道医療大学 看護福祉学部  
保健福祉部福祉局 障がい者保健福祉課  
学校教育局 特別支援教育課  
生涯学習推進局 社会教育課
- ・内 容  
ア、「卒後のキャリア支援と生涯学習アクセシビリティ向上のための地域連携コンソーシアム形成事業」について  
イ、特別支援学校の現状やニーズについての聞き取り  
ウ、本事業の来年度の実施についての意見交流  
エ、その他

## 2 協議の流れ

- ・開会  
ア、主催者挨拶  
イ、協議の趣旨説明  
ウ、自己紹介（近況や専門分野等の紹介）
- ・協議  
ア、北海道医療大学（宮本准教授）からの説明  
イ、特別支援学校の現状やニーズについて（出席者からの聞き取り等）  
ウ、意見交流（各出席者からの御意見等）
- ・閉会  
ア、業務連絡（コンファレンスおよび第3回コンソーシアムについて等）

## 令和4年度 卒後のキャリア支援と生涯学習アクセス向上のための地域コンソーシアム形成事業

### 【目的】

北海道における教育・医療・福祉・労働各分野の取り組みの連動を目指し、卒業後（高等支援学校、高等特別支援学校を想定）の進学や就職の選  
 択肢を増やし、切れ目ない支援体制の整備と生涯学習へのアクセス向上を目標とする研修及び協議の場を展開する。

### 事業概要

就労支援分野と連携した卒業後の支援体制構築を目指した事業を展開する。生活基盤の維持に留まらず、文化やスポーツなどに触れられるような、地域における豊かなつながりを持つ支援体制整備に向けて、様々な取り組みを浸透させる媒介を本コンソーシアムが担うことを目標とする。それらを通して、就職先となる企業との連携を強化し、マッチングの向上も視野に入れる。様々な分野の団体が協働するための協議の場や研修を実施するとともに、様々なキャリアイメージやつながりの場を獲得するための生徒向けの研修を実施する。

### 背景

#### 【令和2年度の成果概要】

成果：新たな連携やつながりを築くことができた。

課題：様々な取り組みの実態やその成果を発信することが必要。

#### 【北海道医療大学 令和3年度成果】

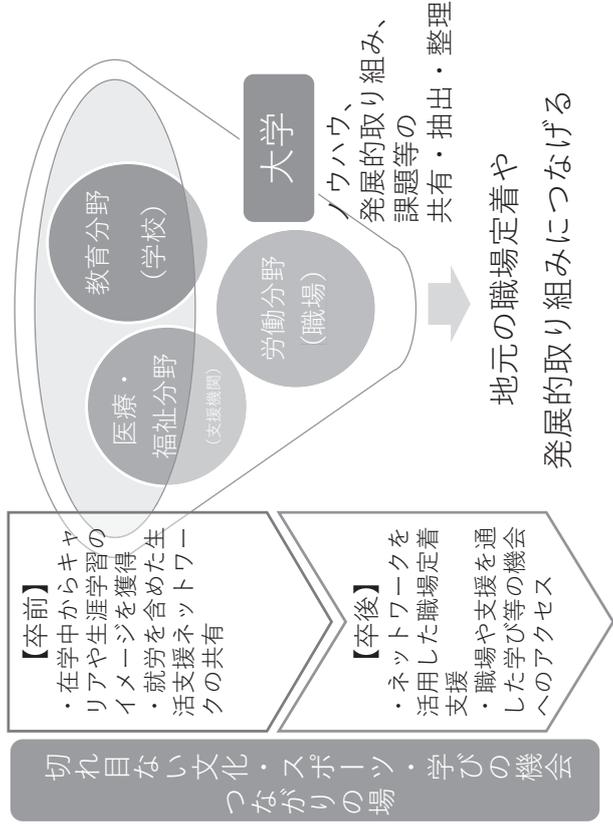
課題：情報提供の場や活動資源の不足・地域差、学びの連続性のあり方、学校在籍時からの関心の醸成。

生涯学習に対して、就労との連動、金銭管理、人間関係、健康管理、仲間とつながる場などの役割を求めている。

学校に様々な学習機会の情報が集まる状況にない。

#### 【全国的な課題】

職場定着（就労を継続できる地域の仕組みづくり）、就職率や進学率（多様なキャリア形成）



## 2022年度 地域コンソーシアム形成事業 各分野の役割イメージ (括弧内は副次的意図)

#### 【教育分野】

職場とのマッチングや就職に向けた支援の現状や課題、発展的取り組みを共有する。  
 (職場や生活支援の分野の事業体とのつながりを開いていく。)

#### 【福祉分野】

地域生活において学びの場につながる生活支援の現状や課題、発展的取り組みを共有する。  
 (職場や余暇の支援を切れ目なく整備できる体制を目指してつながりを開いていく。)

#### 【労働分野】

就労が定着している地元企業・事業所のノウハウを共有する。  
 (教育や福祉との連動ができるようつながりを開いていく。)

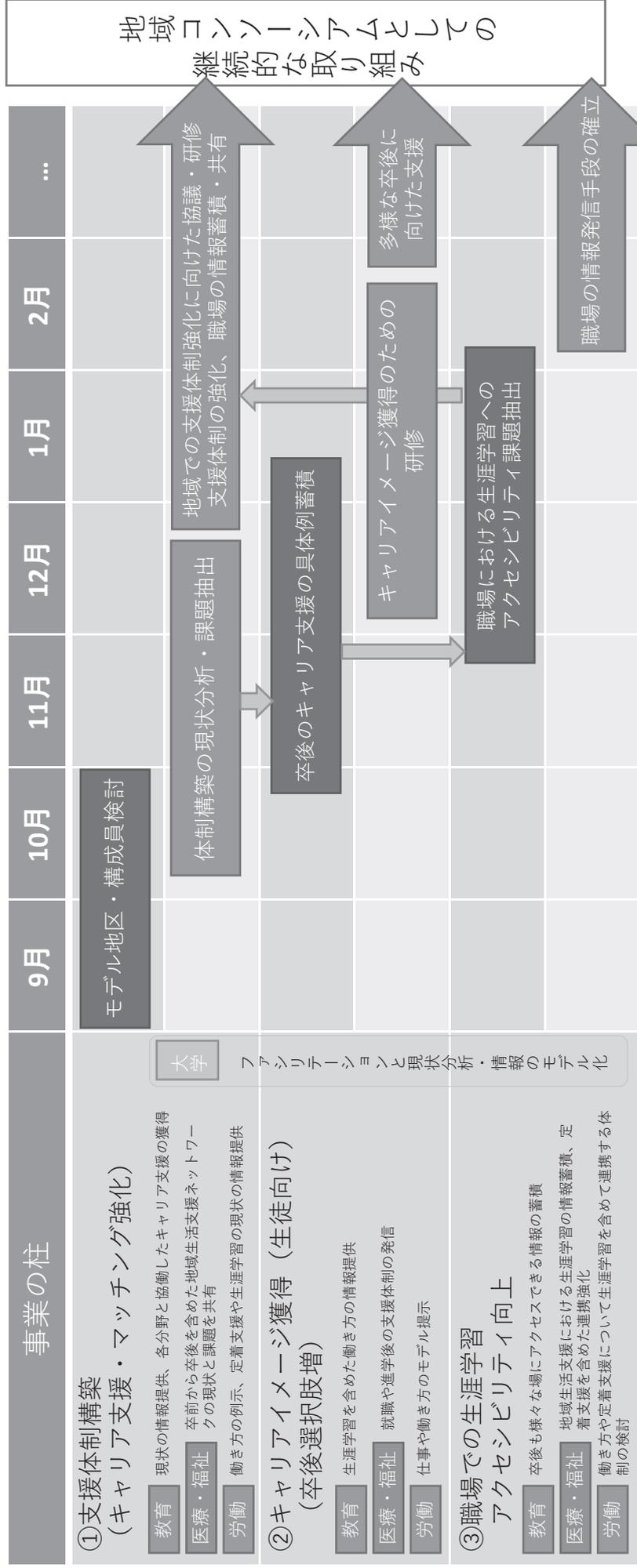
#### 【大学】

様々な取り組みの発信を媒介し、それぞれの分野間の協議を促進する。  
 (体制整備に必要なノウハウを蓄積、モデル化し、人材育成の根拠につなげる。発展的取り組みの創発支援。)

#### 【生徒に対して】

キャリアイメージの獲得、卒業後の選択肢の増加、つながり続けられる場の獲得を目指す。

# 地域コンソーシアム形成事業 プロセス構想



## 必要経費 (概算)

費目	金額	摘要
会議費		
会場費	24,000	6,000 × 4回 ※医療大利用の場合は無料
その他	10,000	資料代等 2,500 × 4回
研修運営費		
講師謝金	20,000	10,000 × 2回
その他	10,000	資料代等
計	64,000	

## 事業プロセス (構想)

【構成員】：モデルとする地区（自治体）の教育・医療・福祉・労働各分野から抽出する。

① 支援体制構築  
就職や進学の実績、就職後の定着支援体制の現状を踏まえ、マッチングを含めたモデル地区における支援体制強化に向けた情報共有や体制のあり方を検討する。

② キャリアイメージ獲得 (内容は地域コンソーシアム構成員で検討)  
構成員の教育機関において、多様なキャリアと生涯学習モデルを学習できる研修を実施する。モデル地区において、卒業のキャリア支援の具体例を現状から紹介する。モデル地区において働きながら様々な活動に触れられる機会があると良い。

③ 職場での生涯学習アクセシビリティ向上  
モデル地区での就職実績や生涯学習プログラムへのアクセシビリティの現状を踏まえ、課題を抽出する。それらを基に、働きながら多様な機会に触れられる情報発信手段や生涯学習プログラムのあり方を検討する。

# 宮崎県への先進地視察

## 1 視察概要

### (1) 日時

令和4年10月25日（火）～26日（水）

### (2) 視察先及び視察テーマ

#### ①宮崎県教育庁生涯学習課

- ・都道府県レベルのコンソーシアムを形成し、行政と民間の連携による広域的な事業体制を構築する取組および工夫について
- ・テレビや新聞、その他のメディアを活用した一元的な情報提供体制の構築や事業成果の普及に向けた具体的な取組について

#### ②NPO法人障害者自立応援センター YAH!DOみやざき

- ・当センターで継続する活動の概要について
- ・当事者のニーズや願いに即した障害者の生涯学習推進の在り方について

#### ③南九州大学・野村宗嗣研究室

- ・障害者やその家族を対象とした、公開講座等の大学の取組について

#### ④霧島おむすび自然学校

- ・知的障害や発達障害のある人たちの野外体験活動を通じた学びの支援について

## 2 視察報告

### ①宮崎県教育庁生涯学習課

地区（中部、南部、北部）に分けた取り組みについて具体的に知ることができ、身近な地域における実践の参考となった。情報を一元化した情報提供やメディアの活用など、システムの構築や発信に向けた参考となり、その重要性も再認識された。

### ②NPO法人障害者自立応援センター YAH!DOみやざき

車いすユーザーの視点から、学生との交流の場など、出会いの場・第3の居場所として生涯学習に対するニーズがあった。また、当事者が企画から参加できる機会の重要性（主体的活動の楽しさ）、気軽に行ける実施場所の工夫などの必要性も語られた。

### ③南九州大学・野村宗嗣研究室

インクルーシブな公開講座は活動の目的や対象像が整理されていた。学生もサポートについて学べる場にもつながっており、大学の環境づくりの重要性も示唆された。また、学校卒業後に仲間が集まれる憩いの場の役割も果たしていた。

### ④霧島おむすび自然学校

野外活動の効果について知ることができた。事例から多様な体験の場として、自己理解を促進し、成長が実感できる場としての成果が分かった。一方で、サポート人材や財源などの課題、障害に合わせた工夫のあり方も重要である。また、フットパスなど地域をフィールドにすることで、地域の方との出会いや障害理解につながる取り組みも知ることができた。

# 和歌山県への先進地視察

## 1 視察概要

### (1) 日時

令和4年12月6日（火）～8日（木）

### (2) 視察先及び視察テーマ

- ①社会福祉法人つわぶき会 T-JOB
  - ・自律訓練や就労移行支援の事業所での取組と障害者の生涯学習の関わりについて
- ②キセキの杜（就労移行支援事業所）
  - ・当該事業所の取組や他機関との連携、障害者の生涯学習との関わりについて
- ③社会福祉法人一麦会（麦の郷）就労継続支援B型 Po-zkk（ポズック）
  - ・当該事業所での障害者の就労継続支援の取組について
- ④社会福祉法人一麦会（麦の郷）ゆめ・やりたいこと実現センター
  - ・「共に学び、生きる共生社会コンファレンス」や「夕刻のたまり場」の取組について
- ⑤紀の川市教育委員会及び打田生涯学習センター
  - ・ゆめ・やりたいこと実現センターと取り組む障害者の生涯学習に係る活動について

## 2 視察報告

### ①社会福祉法人つわぶき会 T-JOB

自立や就労移行のために、所属感を養うことや自己肯定感を高めることと、それにつながるような余暇活動や生涯学習の場の重要性について認識できた。

### ②キセキの杜（就労移行支援事業所）

当事業所とゆめ・やりたいこと実現センターの取組の関係性から、社会参加や就労移行と生涯学習の好循環事例を知ることができた。

### ③社会福祉法人一麦会（麦の郷）就労継続支援B型 Po-zkk（ポズック）

やらされる仕事ではなく、アート制作などの、表現を仕事とすることの重要性について学ぶことができた。

### ④ゆめ・やりたいこと実現センター

障害者が仕事帰りなどに利用する「夕刻のたまり場」の取組を通して、利用者の「こんなことをしたい」という願いや希望を引き出すこと、障害の有無に関わらず共に学びを作り上げること、ありのままにいられる場を作ることの重要性について理解を深めることができた。

### ⑤紀の川市教育委員会及び打田生涯学習センター

市町村がゆめ・やりたいこと実現センターなどの団体と協力して障害者の生涯学習を推進する取組について学んだ。また、公民館とゆめ・やりたいこと実現センターが連携し、障害者を対象とした公民館講座を開設しており、地域の人々の学び集う場や、地域課題の改善等に向けた機能を果たす場としての取組についても学ぶことができた。

※上記に加えて、「共に学び、生きる共生社会コンファレンス」の視察も行い、北海道の取組拡充に向けて多くの情報を得ることができた。

## 取組 4

### 特別支援学校等における障害のある児童生徒を対象とした生涯学習への意欲向上に資する取組の実施

障害者の生涯学習に対する意欲向上については、学校在学中から学びの場に参加することが望ましいが、地域における学びの場の整備状況は十分とは言えず、特別支援学校も含めた関係者が改善に向けた方策を検討することが必要である。

今年度は専門的な知見を有する大学へのヒアリングに取り組み、先進事例の把握と課題の整理に努めるとともに、大学が核となる講座の開設にも取り組んだ。

#### 1 道内の大学へのヒアリング調査

##### ○北海道医療大学（対応：志水幸教授ほか）

- ・コロナ禍前には、学生生活の一つとして、知的障害者を対象としたオープンカレッジを実施。地域住民が講師になることも。新規参加の少なさが課題。
- ・卒業後の学びの機会を保障するためには、企業等や福祉分野、特別支援学校との連携や理解促進が鍵となり、研修や協議の場の充実が必要と認識。

##### ○北海道教育大学（対応：安井友康教授）

- ・余暇活動の充実の必要性を認識しており、小・中学生を対象とした遊び場を継続実施。卒業後の障害者を対象とする講座は、周知に課題。
- ・地域の教育資源や地域人材を用いて、当事者が意欲を持って楽しみながら参加できる講座設定が必要。

##### ○北海道大学（対応：宮崎隆志教授）

- ・社会教育が重視してきた“地域づくり”という視点を重視することが重要。
- ・当事者ニーズを捉えた、“学びと活動の循環”を意識した講座の開設も必要。
- ・市町村で事業を実施する際には、誰も取り残さない社会の実現に向けて、“障害者とともに学ぶ講座”の実施を期待。

#### 2 大学や特別支援学校等が連携した学びの機会の拡充

##### ○北海道教育大学札幌校「みんなの遊び場」

- ・特別支援学校の児童・生徒、きょうだいを対象に、エアポリン等の遊具を用いた自由遊びや、リトミック運動の要素を用いたリズム運動の機会を提供。
- ・特別支援教育を専攻する大学生とのふれ合いは、参加者及び保護者からも好評。

##### ○とうべつチャレンジドクラブ「インクルーム・ボッチャ」

- ・北海道医療大学地域連携推進センターや当別町スポーツ推進委員協議会と共催で行ったボッチャの体験を通じたインクルーシブな交流機会の開設。

##### ○北海道医療大学「オープンカレッジ in 北海道医療大学」

- ・知的障害の方を対象に、講座「パラスポーツ概論」と実技「ピンポン玉を用いたレクリエーション」を実施。大学生が運営や学習サポーターとして活動。

#### 3 文科省作成リーフレットを活用した好事例の収集

- 北広島市委託事業において先進地（東京都）を視察し、コンソーシアム会議やコンファレンスで報告

参加無料

2022

# みんなの遊び場

in 北海道教育大学

- 第1回 11月 8日(火) ≫時間  
第2回 11月22日(火) 16時40分~17時40分  
第3回 12月 6日(火) (途中休憩あり)  
第4回 12月20日(火) ≫場所  
第5回 1月17日(火) 北海道教育大学札幌校

≫定員  
6名(予定・先着順)

障害のある子どもだけでなく、  
きょうだいの参加もOK!

北海道教育大学では、授業の一環として  
子どもたちと実際に関わる実践を多く取り入れています。  
この「みんなの遊び場」では、特別支援教育を学んでいる学生たちが、  
主に身体障害をもつ子どもたちを対象に遊びの機会を提供することで、  
子どもたちの楽しみと学生の学びの融合を目指しています。

おもしろい空間



たのしいあそび

申し込み・お問い合わせ: [asobiba.sapporo@gmail.com](mailto:asobiba.sapporo@gmail.com)

件名に、「みんなの遊び場 第〇回参加希望」とご記入ください。  
折り返し、こちらから参加の可否や詳細のご連絡をします。

# 大学におけるパラスポーツに関する障がい者の生涯学習の提供と地域づくり

北海道医療大学（講師：近藤尚也）

目的 身近な地域でパラスポーツの定期的な活動の場（生涯学習機会）を提供  
生涯学習の機会を通してインクルーシブな地域づくりにつなげる

当別町内関係機関と連携したインクルーシブなパラスポーツ活動の取り組みの実践（導入）

## 「インクルーム・ボッチャ」

1. 目的 障がいのある人もない人も、高齢者も子どもも、誰でも気軽に立ち寄って集まれる場、からだを動かせる場とし、また、そのような場を定期的にみんなで作り、活動していく（みんなで作る生涯学習の場）
2. 主催 とうべつチャレンジドクラブ
3. 共催 北海道医療大学地域連携推進センター、当別町スポーツ推進委員協議会
4. 協力 石狩支庁地区身体障害者福祉協会当別町分会、NPO 法人ふれ・スポ・とうべつ
6. 会場 当別町総合保健福祉センターゆとろ 多目的ホール
7. 参加費 無料
8. 参加者 22名  
(障がい当事者、障がい者スポーツクラブメンバー、スポーツ推進委員、大学生など)
9. 日時 2023年2月8日(水)13時30分から16時
10. 内容 ボッチャ体験（団体戦：3人1チームをめやすに当日集まった人数でチームを決める）  
※参加者は審判も体験。競技を通じて交流を深める
11. ルール ボッチャの公式協議ルールを少し変更して誰もが楽しめる「レクリエーションルール」（当別チャレンジドクラブ作成） 開催当日にルール説明
12. その他 屋内で履替えられる靴（雪で外靴が濡れている場合）・動きやすい服装。  
新型コロナウイルス感染対策（マスク着用・消毒など）。体調がすぐれない場合は無理せず欠席すること。
13. 事務局 とうべつチャレンジドクラブ

**Ink Room Boccia**  
(インクルーム・ボッチャ)

インクルーム・ボッチャとは、いろいろな人が集まって、お互いを認め合って (inclusive) ボッチャ(Boccia)を通して交流できる場(Room)という造語です。私たちは、そんな場を作りたいのです。参加しませんか？

日時：2月8日(水) 13時30分から16時  
場所：ゆとろ大会議室  
参加費：無料  
申込み

【必要事項】  
町名 参加者名 連絡先(電話)

主催：とうべつチャレンジドクラブ  
共催：北海道医療大学地域連携推進センター  
当別町スポーツ推進委員協議会  
協力：石狩支庁地区身体障害者福祉協会当別町分会  
NPO法人ふれ・スポ・とうべつ

とうべつチャレンジドクラブ編纂「初めてのボッチャ」テキスト  
(レクリエーションボッチャ向け)

**Boccia** **楽しもう**

調整・収録名：インクルーム・ボッチャ  
場所：ゆとろ多目的ホール  
日時：2023年2月8日  
13時30分から16時

2023年度  
とうべつチャレンジドクラブ  
レクリエーションボッチャ競技テキスト



今後も関係機関と協力し、参加対象も広げながら定期的に活動を継続していくことを目指す。

# 北海道医療大学「2022年度 第1回オープンカレッジ in 北海道医療大学」

報告：北海道医療大学 講師 近藤尚也

目的：障がいの有無にかかわらず、生涯にわたって教育を受ける権利は基本的人権の一つとして保障されており、すべての人は教育を受けることによって発達や変化の可能性が生まれる。オープンカレッジと通じて、知的障がい等のある人の「もっと勉強したい！」「もっと新しいことをしたい！！」という気持ちをかなえる場を提供する。

主催：オープンカレッジ実行委員会（学生が主体、教員・大学がサポート）

日時：2023年2月4日（土）15:45～17:45（15:30集合）

場所：北海道医療大学札幌サテライトキャンパス

参加者：知的障害がある方（受講生）8名（案内は約50名に郵送した）

企画運営：学生4名（一部学習サポーター兼任）

学習サポーター：学生7名（兼任合わせ10名）

※学習サポーターは、受講生にマンツーマンで配置

内容：

- ・講義「パラスポーツ概論」（45分） 講師 近藤尚也（北海道医療大学）  
パラスポーツの歴史や競技についての学習。学習サポーターと相談しながら学びを深めた。
- ・レクリエーション実技「ビアポンに挑戦！！」（45分）  
ピンポン玉とコップを使ったアメリカ発祥のゲームを体験し交流した。
- ・閉会式では学習サポーターがメッセージを添えた達成表を受講生に渡した。



ねんど だんご だいごい  
2022年度（第1回）  
あーぶん かれっしん ほっかいどういりょうだいがく あんない  
オープンカレッジin 北海道医療大学のご案内

日程：2023年2月4日（土曜日）  
場所：サテライトキャンパス（アスティ45）  
主催：北海道医療大学オープンカレッジ実行委員会

いくつしってる？みたことある？

ボート	自転車競技(じてんしゃきょうぎ)	トライアスロン
テコンドー	シッティングバレーボール	陸上競技(りくじょうぎょぎ)(マラソン)
バドミントン	馬術(ばじゆつ)	ボッチャ
車(くるま)いすフェンシング	5人制(にんせい)サッカー	車(くるま)いすラグビー
アーチェリー	パワーリフティング	ゴールボール
射撃(しゃげき)	車(くるま)いすテニス	水泳(すいえい)
卓球(たつきゆう)	車(くるま)いすバスケットボール	
柔道(じゆうどう)	カヌー	



## 参加者・家族から

- ・再開を待ちわびていた声も多く聞かれた。
- 終了時「楽しかった」「また参加した」と話していた。

## コロナ禍の影響

約3年ぶりの開催となった。オープンカレッジを経験したことがあるものはいなかった。学生にとっては初めての取り組みとなるため、今回、規模を縮小し、教員サポートのもとでの実施となった。

## 取組 5

### 障害者の学びを支援する人材の育成

本取組の着実な推進のためには、地方公共団体の職員が障害者の生涯学習に関する考え方や先進事例を学ぶ必要があることから、担当者を対象とした研修会を開催した。また、道教委が文部科学省からの委託を受けて実施する社会教育主事講習においても障害者の生涯学習を取り上げ、学びを支援する人材育成を推進した。

#### 1 全道 14 教育局による「市町村担当者を対象とした指導者養成研修」の実施

○趣 旨 市町村の障害者学習支援担当職員等を対象に、障害者の生涯学習推進に関する基本的な考え方や先進事例についての説明や、障害の有無に関わらず、ともに学ぶ場づくりを進めるために地域の実情に応じた協議等を行い、障害者の学びの場づくりの担い手の育成を図る。



- 主 催 北海道教育委員会
- 協 力 北海道保健福祉部、北海道社会福祉協議会
- 対 象 教育委員会職員、首長部局職員、社会福祉協議会職員 等
- 会 場 各教育局で定める（オンラインによる実施も可）
- 内 容

・説明「障害者の生涯学習の推進方策について～市町村に期待される取組～」

- ・国の障害者の学びに関する当面の強化策についての説明を通じて、障害者の生涯学習推進の意義や方向性、求められる取組についての理解を深める。
- ・障害の有無に関わらず、ともに学ぶ環境づくりに向けた取組の現状と課題について、先進事例から学ぶ。

・協議「市町村における障害の有無に関わらず共に学ぶ場づくりに向けて」

- ・市町村における障害者の生涯学習の推進に向けた取組の充実に向け、各市町村の実情を踏まえた協議を行う。

#### 2 道教委が受託する、社会教育主事講習において“障害者の生涯学習支援”に関する講座内容を設定

- 地域共生社会と社会教育（生涯学習概論）
- 特別な支援を要する人への学習支援（生涯学習支援論）

文部科学省委託事業「障害者の生涯学習推進コンソーシアム形成事業」  
令和4年度 障害者の生涯学習推進研究協議会 実施要項準則

1 趣 旨

市町村の障害者学習支援担当職員等を対象に、障害者の生涯学習推進に関する基本的な考え方や先進事例についての説明や、障害の有無に関わらず共に学ぶ場づくりを進めるための地域の実情に応じた協議等を行い、障害者の学びの場づくりの担い手の育成を図る。

2 主 催 北海道教育委員会（主管 実施教育局）

3 協 力 北海道保健福祉部 北海道社会福祉協議会

4 期 間 令和4年7月1日～令和5年1月31日までの間  
（補足）※2月28日までフォローアップ期間とする

5 対象市町村 各管内全市町村  
※令和3年度～4年度で全ての市町村において実施する

6 参加対象 市町村教育委員会職員、市町村首長部局職員、市町村社会福祉協議会職員 等

7 会 場 各教育局で定める（オンラインによる実施も可）

8 日 程

9:30 9:35 10:20 10:30 11:45

開 会	説 明	休 憩	協 議	閉 会
--------	--------	--------	--------	--------

※午前又は午後など半日日程での開催とする（2時間～2時間半程度）

※内容や時間は、各会場の実情に応じて柔軟に計画してよい

9 内 容

①説 明：「障害者の生涯学習の推進方策について～市町村に期待される取組～」

説明者 各教育局社会教育指導班

- ・国の障害者の学びに関する当面の強化策についての説明を通じて、障害者の生涯学習推進の意義や方向性、求められる取組についての理解を深めます。
- ・障害の有無にかかわらずともに学ぶ環境づくりに向けた取組の現状と課題について、先進事例から学びます。

○説明資料については、本庁が作成する共通資料を活用する

○先進事例等の紹介については、本庁が用意する資料のほか、各市町村等の実情に応じた資料を各教育局において準備し活用する

②協 議：「市町村における障害の有無に関わらず共に学ぶ場づくりに向けて」

進 行 各教育局社会教育指導班

- ・市町村における障害者の生涯学習の推進に向けた取組の充実に向け、各市町村の実情を踏まえた協議を行います。

10 そ の 他

- ・本協議会の実施に係る費用については、必要に応じて別途配当する
- ・配慮が必要な参加者がいる場合は、本庁担当者と協議し、必要な措置を講じること（手話通訳、要約筆記、拡大文字資料 など）
- ・新型コロナウイルス感染症の状況により、日程やプログラムの内容を変更する場合もあること

## 1 実施状況

### (1) 取組状況

- ・令和4年度については、全道110市町村で、研究協議会を実施することができた。
- ・令和3年度の68市町村と合わせて、178市町村全てで実施することができた。

### (2) 参加者

市町村教育委員会職員、市町村保健福祉担当職員、社会教育委員、スポーツ推進委員、社会福祉協議会職員、教職員、福祉事業所職員、社会教育施設職員、企業職員等

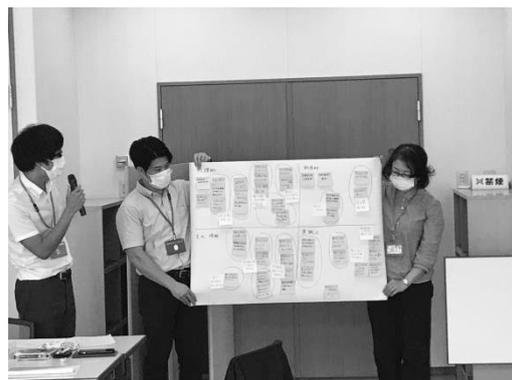
## 2 成果と課題

### 【成果】

- (1) 障害者の生涯学習推進に関する基本的な考え方や先進事例について説明することで、市町村で取組を担う人材の理解を深めることができた。
- (2) 障害の有無に関わらず共に学ぶ場をつくるため、教育や福祉などの関係者による協議を行うことで、現状や課題の確認や、今後の取組を推進する上での情報共有を図ることができた。
- (3) 障害者の生涯学習について、市町村で策定する各種計画に位置付けていくことの重要性を確認することができた。
- (4) 障害者の生涯学習も含めて、共生社会の実現に向けた取組への意欲を向上させることができた。
- (5) 本研究協議会の終了後、既存事業の実施方法や施設のハード面など、具体的な改善について検討を開始する市町村があった。
- (6) 本研究協議会の継続的な開催を求める要望が出され、持続的な人材養成の取組を期待する市町村や団体のニーズを確認することができた。

### 【課題】

- (1) 障害者の生涯学習については、市町村ごとに取組状況に差もあり、学びの推進を担う人材や多様な団体を結ぶコーディネーター役など、中核人材の養成が喫緊の課題である。
- (2) 障害者の生涯学習の実施状況についての把握が不十分な市町村も見られるため、把握の重要性について継続的に働きかけることが必要である。
- (3) 道内各地の先進事例の収集と発信に努め、今後本格的に開始する取組への支援が必要である。



令和4年度社会教育主事講習 プログラム	生涯学習概論	時間	30 時間	単位	2	形態	講義・ 事例研究
------------------------	--------	----	-------	----	---	----	-------------

【科目概要】

生涯学習及び社会教育の本質に関する、生涯学習の理念と施策、社会教育の意義と展開、生涯学習社会と学校・家庭・地域等の事項について講義等を通して理解を深める。

北海道内で活躍する研究者に加え、より広い視点から学びを深めるため、文部科学省、北海道外の研究者を講師に招き、生涯学習及び社会教育の本質について理解を図る。

【ねらい】

- ①生涯学習の理念や振興行政の役割、振興施策の動向について理解する。
- ②社会教育の意義や特質、基本法令を踏まえた施策の展開、組織や施設等の仕組みを理解する。
- ③生涯学習社会における家庭教育、学校教育について理解するとともに、家庭・学校・地域の連携・協働について理解する。

	講座	時数	目標
生涯学習の 理念と 施策	生涯学習の現代的意義と生涯学習論の系譜 生涯学習振興施策の国際的動向 【講義】	4.5	時代の流れによる社会の変化や様々な国や地域における生涯学習概念の違い、生涯教育と生涯学習の関係などにふれ、グローバル化が進む現代における生涯学習の意義を理解する。 諸外国の生涯学習振興施策の動向について理解する
	生涯学習振興施策の動向 【講義】	1.5	地方創生、少子高齢化、グローバル化、人権等の今日的な課題に関わる国の動向や生涯学習関連の法令・施策について理解する。
社会教育の 意義と 展開	社会教育の意義と特質 【講義】	3	社会教育と生涯学習の関係、社会教育の定義と意義、特質、歴史的・国際的な展開、などについて理解する。
	社会教育の基本法令・施策 【講義】	3	社会教育に関連する法令や国の答申の概要やそれを踏まえた社会教育施策について理解する。
	社会教育行政の組織と役割 【講義・事例研究】	3	特色ある地方の社会教育行政の取組事例を取り上げ、実際の施策展開や社会教育委員の役割、教育委員会と首長部局との組織の枠組みについて理解する。
	地域共生社会と社会教育 【講義】	1.5	地域共生社会の実現について社会教育の役割を理解する。
	スポーツを通じた人材育成・活用 【講義】	1.5	スポーツを通じた地域人材の育成・活用について理解を深める。
	社会教育施設の意義と役割 【講義・事例研究】	3	公民館、図書館、博物館、青少年教育施設、女性教育施設、体育施設、文化施設、生涯学習センターといった社会教育施設の機能や役割について理解をする。
	今日的な課題における社会教育の役割 【講義】	1.5	北海道における社会の現状や課題に対して、様々な立場の方の視点や考えを聞き、社会教育の果たす役割について考えを深める。
	社会教育主事の役割と職務、社会教育関係団体と指導者 社会教育士に期待される役割 【講義】	3	社会教育主事の職務や社会教育指導者、社会教育関係団体、社会教育士に期待される役割を理解する。
生涯学習社会と 家庭・ 学校・ 地域	生涯学習社会と家庭教育 【講義】	1.5	家庭教育支援の現状と課題や家庭教育支援に関係する実践事例等から求められている施策について理解する。
	生涯学習社会と学校教育 【講義】	1.5	生涯学習社会における学校教育の役割について理解する。
	家庭、学校、地域の連携・協働と社会教育の役割 【講義】	1.5	家庭、学校、地域の連携・協働に関係する国や地方公共団体の施策について知り、地域の教育力を活かした教育活動の実例を踏まえ、その意義や特質について理解する。

令和4年度社会教育主事講習 プログラム	生涯学習支援論	時間	30 時間	単位	2	形態	講義・演習 事例研究
------------------------	---------	----	-------	----	---	----	---------------

【科目概要】

住民の自立と地域社会への参画意欲を喚起するため、学習支援に関する教育理論、効果的な学習支援方法の理解、学習プログラムの設計、プレゼンテーションの基礎、参加型学習の実際とファシリテーション技法等の事項について、講義や演習を通して学びを深める。

北海道内外の大学の研究者や北海道で実践的な学びを提供している民間団体、国立教育施設経験者など多彩な講師により、学習者の多様な特性に応じた学習支援に関する知識及び技能の習得を図る。

【ねらい】

- ①発達特性等を踏まえた学習支援に関する理論や学習支援の方法を理解する。
- ②学習者理解を深めるために、カウンセリングマインドについて体験的に学び、知識及び技術を習得する。
- ③参加型学習の意義や理論を理解し、参加型学習を運営するためのファシリテーションの知識及び技術を習得する。

	講座	時数	目標
学習支援に関する教育理論	生涯発達から見た学習者の特性 成人期・高齢期の教育理論 【講義】	3	乳幼児期、児童期、思春期、青年期等、生涯各期の発達段階と発達課題から導かれる学習課題について理解する。 成人・高齢者の発達特性について理解し、学習者に応じた学習内容や学習支援方法等があることを理解する。
	特別な支援を要する人への学習支援 【講義・事例研究】	3	特別な支援を要する人々の学習支援の方法について理解し、学習者に応じた学習内容や学習支援方法等があることを理解する。
効果的な学習支援方法	学習支援の原理 学習支援の方法・形態 【講義】	1.5	社会教育と学校教育との差異、生涯学習の実践の中で培われた学習支援など、生涯学習の各領域における学習支援の原理について理解する。 多様な学習者について、集合学習や集団学習の特性を踏まえながら、教育効果が高まるような環境作りを行うことの重要性を理解する。
	学習者理解とカウンセリングマインド 【講義】	3	カウンセリングマインドをもって学習者と接することの重要性を理解し、その基本的な考え方や手法を理解する。
	プレゼンテーションの基礎 【講義】	3	様々な事業や施策の説明に必要なプレゼンテーションの方法や効果について理解するとともに、基礎的な技術を身に付ける
学習プログラムの編成	学習プログラムの設計・運営 【講義】	1.5	住民の学習要求の把握や社会の課題に即した、教育計画とプログラムの構築について理解する。
	プログラム編成の視点 【講義・演習】	4.5	学習プログラムの立案について、最適な学習内容や提示、順序立て等を多角的に考えることの重要性を理解する。
参加型学習の実際とファシリテーション技法	学習支援方法としての参加型学習 【講義】	1.5	参加型学習の意義やねらい、参加型学習の種類とその特性を理解するとともに、参加型学習を運営するために必要なファシリテーション能力について理解する。
	参加型学習の実際とファシリテーション技法 【講義・演習】	9	ファシリテーターの役割や手法を理解するとともに、学習者同士の関係づくり、集団づくりにも効果があることを理解する。 様々な参加型学習を通じた教育効果や手法について理解する。



## 取組 6

### 障害者の学びの場を継続的なものとするための方策の検討

北広島市や岩見沢市における取組を先行モデルに位置付け、芸術やスポーツをテーマとした地域協働型の事業を展開し、今後全道各地で取組を推進する上での方策や課題を共有した。また、北海道医療大学が実施した調査研究をもとに、障害者の学びの場の継続性を生み出す方策について検討を行った。

#### 1 北広島市をモデル地域とした「市町村版地域コンソーシアム」の構築

- 障害者の学びの機会拡充を目指して、行政・民間・高等教育機関等によるコンソーシアムを形成し、市民の障害者理解と、共生社会の実現に向けて、関係機関との協議の場を設定



- 同市が継続してきたフレンドリーセンター運営事業を再構築

- ・アダプテッドスポーツの認知度向上  
共生社会の実現に向けて、障害の有無に関係なく、誰もが楽しむことのできる事業「スポーツの秋！みんなのスポーツフェスタ」を開催するとともに、アダプテッドスポーツの認知度を向上させる動画を作成・活用
- ・学びを通じた居場所づくりの取組  
総合型スポーツクラブと連携して、全ての人の居場所づくり、健常者の障害理解の促進に向けて、障害の有無に関わらず参加できる学びの場「いんくるーむ」を開設

#### 2 岩見沢市による「地域連携による障害者の生涯学習機会の拡大促進」の取組

- 学校卒業後の障害者が、北海道教育大学岩見沢校の教員や学生と関わりながら、芸術の鑑賞や制作について学ぶとともに、展示会の開催に向けて企画段階から関わるアートアカデミー事業に参画



#### 3 北海道医療大学による「高等教育機関における「障害者の生涯学習」提供モデルの開発～モデル開発に向けたニーズに関する実態調査～」の取組

- 特別支援学校の教員が捉える知的障害者の生涯学習ニーズに関するヒアリング調査と、障害当事者及び福祉サービスを提供する事業所を対象とする質問紙調査をそれぞれ実施
- それぞれの立場で感じているニーズや課題について、共通点や相違点を把握

## 障害者の生涯学習推進コンソーシアム形成事業

# 障がい×生涯学習

～共生社会の実現と障がい児・者の学びの充実に向けて～



北広島市教育委員会 教育部 社会教育課  
主任(社会教育主事) 古内 誠也

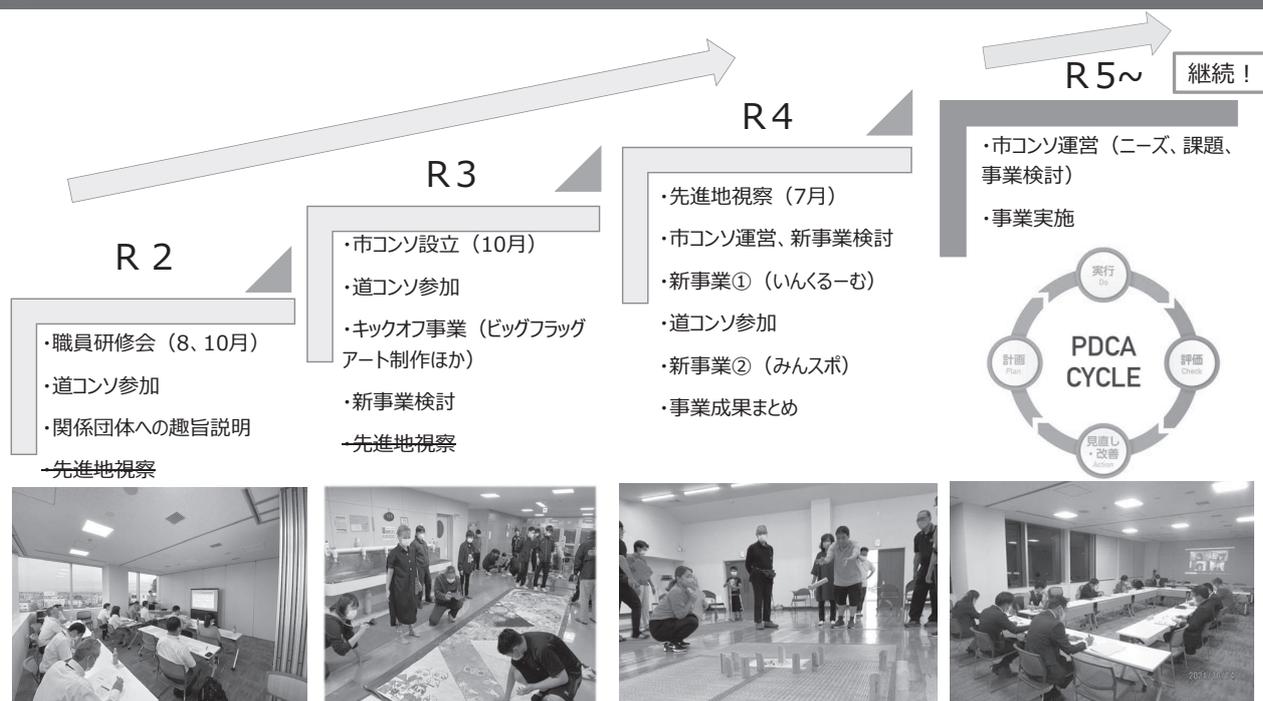
1

## 北広島市の概要

- 人口 57,569人 (令和4年4月末日現在)
- 面積 119.05平方メートル
- 姉妹都市 広島県東広島市
- 市の木、花 かえで、つつじ



# 事業スケジュール

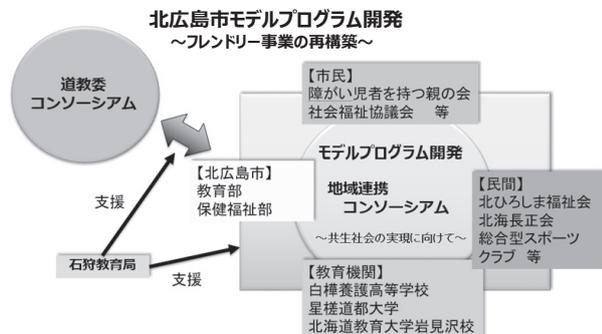


# 北広島市地域連携コンソーシアム

- ◆ H26年の障害者権利条約の批准やH28年の障害者差別解消法の施行等を踏まえ、学校卒業後の障がい者が社会で学ぶことができる体制の実現が必要となっている。
- ◆ 本市では、H12年より障がい児者と健常者の交流機会の拡充や障がい児者の学びの場として「フレンドリーセンター運営事業」に取り組んできた。
- ◆ 一方、事業プログラムの固定化、事業内容の改善・再構築に向け、関係機関団体等との協働の推進が必要となっている。

## 障がい者の生涯学習推進コンソーシアム事業

- ◆ 文部科学省委託事業「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業（3カ年）」を道教委生涯学習課が受託
- ◆ 行政、民間、高等教育機関等による地域連携コンソーシアムを構成しフレンドリーセンター運営事業の再構築を図る
- ◆ 研修会やコンファレンス、**モデルプログラムの開発等を実施**



## <実施内容>

- (1) **コンソーシアムへの参画**
- (2) **地域の教育力と高等教育機関の融合によるモデルプログラム開発**
  - ・地域の障がい者のニーズの把握
  - ・先進地視察
  - ・プログラム指導者等研修会の実施
  - ・障がい者向け、障がい者・健常者向けプログラムの実施・検証
  - ・成果・課題を共有（コンファレンス等）等
- (3) **社会教育のアプローチによる全体コーディネート**
  - ・モデルプログラム開発に係る調整・参画
  - ・市内小中学校支援学級、近隣養護学校との調整・連携
  - ・社会福祉関係部局、団体等との連携 等
- (4) **石狩教育局教育支援課の協力・支援**

## (成果)

- ◆ 障がい者の地域とのつながりの強化、障がい者の生涯学習機会の創出などフレンドリー事業の再構築が図られる
  - ◆ 市民の障がい児者への理解と共生社会の実現に向け、関係機関・団体や高等教育機関との連携によるあらたな事業の展開
- ※併せて、事業推進のための社会教育主事のネットワーク形成能力、関係団体との調整力、説明力等、資質・能力の向上が図られる

# 会議内容

R3

10/4

- ・事業説明
- ・ビッグフラッグアート制作事業について

12/14

- ・障がい者の生涯学習について
- ・アダプテッド・スポーツ交流会について

2/28

- ・アダプテッド・スポーツ普及動画作成について
- ・学びを通じた居場所づくりについて



R4

7/26

- ・先進地視察の報告
- ・いんくる一むについて
- ・みんなのスポーツフェスタについて

12/6

- ・事業報告について
- ・道コンソーシアムの報告
- ・今後の市コンソーシアムのあり方について

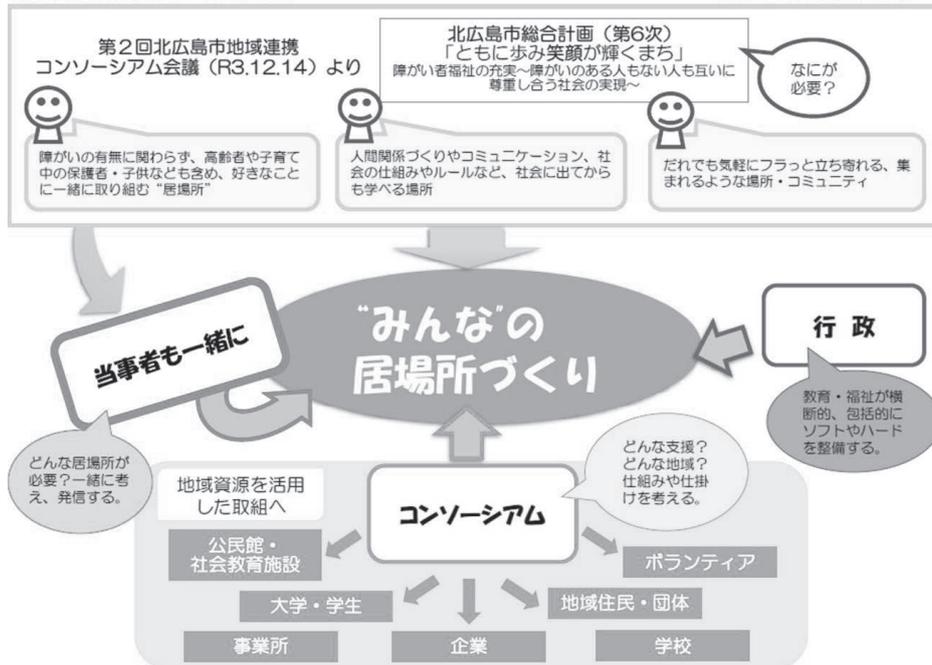
2/21

- ・成果について
- ・次年度の計画について

# コンソーシアムで見えてきたこと

北広島市地域連携コンソーシアムの展開

作成：石狩教育局（小田島）



共生社会の実現を目指して  
スポーツとアートで学びの  
拡充とみんなの居場所づく  
りをやっこう！



pixta.jp - 17198852

# ビッグフラッグアート制作事業(キックオフ事業)

- ・市民の共生社会実現に向けた気持ちをアートで表現、障がい児者・子ども・高齢者・大学生等100人以上で「ビッグフラッグアート」にチャレンジ！！
- ・制作指導：Satoly (サトリー)



## 参加者実績

団体	人数	会場
すみれ保育園	16 人	すみれ保育園
社会福祉協議会	12 人	中央公民館
北ひろしま福祉会	10 人	
みらい塾	5 人	
星槎道都大学	14 人	"
みらい塾	3 人	
しょうがい児者を持つ親の会	15 人	"
北海道白樺高等養護学校	12 人	北海道白樺高等養護学校
北海道白樺高等養護学校	50 人	"
西の里きらきら保育園	15 人	西の里きらきら保育園
地域サポートセンターともし	6 人	地域サポートセンターともし
<b>8団体</b>	<b>152 人</b>	



# 共生社会の実現に向けたシンボルに



原画

700cm



# アダプテッド・スポーツ普及動画

お笑い芸人さんがアダプテッド・スポーツを体験してみた (動画)

掲載日: 2022年6月23日

障がい児者の学び・体験推進事業 アダプテッド・スポーツ普及動画

札幌よしもと所属のお笑い芸人さん「ゴールデンルールズ」「スクランブル」の2組と HOKKAIDO ADAPTIVE SPORTSの皆さんが、北広島市でみんなが楽しくできるスポーツ「アダプテッド・スポーツ」5種目(ポッチャ、フライングディスク、車いすバスケットボール、車いすソフトボール、リアル野球盤)を対戦形式で体験しました。ぜひ皆さんもこの動画を見てアダプテッド・スポーツをやってみてください! 楽しいですよ!

【前編】アダプテッド・スポーツについて、ポッチャ、フライングディスク

札幌よしもとのお笑い芸人さんが北広島市でアダ...

見る YouTube

【後編】車いすバスケットボール、車いすソフトボール、リアル野球盤

札幌よしもとのお笑い芸人さんが北広島市でアダ... 共有

車いすバスケットボール 2on2で2点先取!

札幌よしもとのお笑い芸人さんが北広島市でアダプテッド・スポーツを体験してみた (後編)

北広島市立特別支援学校City of Kibinohashi

ビッグフライングアート

子どもたちや高齢者の方々と共生社会をテーマにしたアート作品を作成。下絵をsatolyさんが担当しみんなが笑顔になれるような作品を目指しました。

札幌よしもとのお笑い芸人さんが北広島市でアダプテッド・スポーツを体験してみた (後編)

北広島市立特別支援学校City of Kibinohashi

YouTube JP

北広島市 アダプテッド

11:47

ビッグフライングの下で...

アダプテッド・スポーツ大会

チャレンジポッチャ!誰もが楽しめるスポーツ体験 ~札幌よしもとと皆さんが北広島でアダプテッド・スポーツをやってみ

4:44

# いんくるーむ(インクルーシブ×ルーム)

いんくるーむ(インクルーシブ×ルーム)

## いろんなスポーツ体験会

参加無料 ..... どなたでも ..... 出入り自由  
 ポッチャやモルック、フロアカーリング、トリコロキ  
 ューブなどいろんなスポーツを誰でも自由に楽しめる無  
 料の体験会です。専門のスタッフがルールや用具の使い  
 方を教えてくれます。時間内であればいつ来ていつ帰る  
 のも自由です。



日にち		時間
8月7日(日)	9月25日(日)	10:00~
10月2日(日)	11月27日(日)	12:00
12月25日(日)	1月8日(日)	
2月12日(日)		

○会場 中央公民館 講堂(北広島市朝日町5丁目1-1)

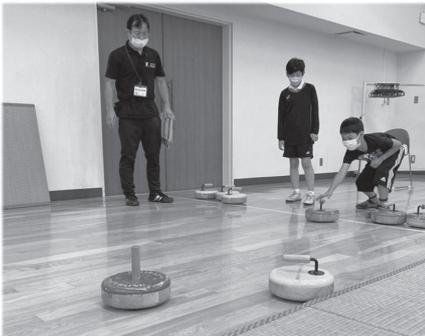
○講師 一般社団法人 わくわくピース総合型クラブ

○申込み 直接会場にお越しください。

問合せ 北広島市教育委員会社会教育課  
 011-372-3311(内線 4844)



# いんくるーむの様子



「いんくるーむ」に行けば、  
 友達や知り合い、誰かがいて、  
 一緒に何か学べる。  
 学ぶことは二の次でいい。  
 誰かに会うことが嬉しいし、  
 楽しい。  
 そんな「いんくるーむ」が  
 市内に広がっていけば「笑顔  
 あふれるまち」に近づける。



いつ来ていつ帰ってもOK!  
 スポーツしなくてもOK!  
 延べ参加者 約150人

# スポーツの秋！みんなのスポーツフェスタ



**スポーツの秋！みんなのスポーツフェスタ**  
 10/15(土)9:30~12:30 北広島市総合体育館

**ボッチャ大会～初代きたひろボッチャ王はだれだ？～**  
**初心者も大歓迎！きたひろNo1を目指そう！** 申込QRコード

- ・対象：どなたでも（申込み必要）
- ・定員：24チーム（1チーム2～3人）
- ・ルール：1試合4エンド制、ハーフコート（3m×6m）
- ・形式：予選リーグ（最低でも2試合できる）、決勝トーナメント

**アダプテッド・スポーツ体験会～こんな楽しいスポーツあったんだ！～**  
**だれもが楽しめるスポーツをやってみよう！**

- ・対象：どなたでも
- ・内容：ゴールボール、車いすバスケットボール、フライングディスクなど
- ・高田朋枝さん（ゴールボールで北京パラリンピック（2008）出場）がきてくれる！

**アート体験会～さわってひろがるアートの世界～**  
**アーティスト監修！モコモコペンで自分だけのアートを描こう！**

- ・対象：どなたでも
- ・内容：道内出身アーティストSatolyさんの監修のもとモコモコペンを使って視覚障がいのある方でも描けるアートを体験してみよう！

主催 北海道教育委員会、北広島市教育委員会  
 お問い合わせ 北広島市教育委員会 社会教育課 社会教育担当 TEL:011-372-3311（内線 4844）



共生社会の実現に向けた  
シンボリックな大会へ！

ボッチャ大会参加者 20チーム/56人  
 全体参加者 約200人

## みんスポ\_ボッチャ大会



なんと当日飛び入り参加の  
即席チームが優勝！初代  
ボッチャ王に

# みんスポ\_アダプテッド・スポーツ体験会



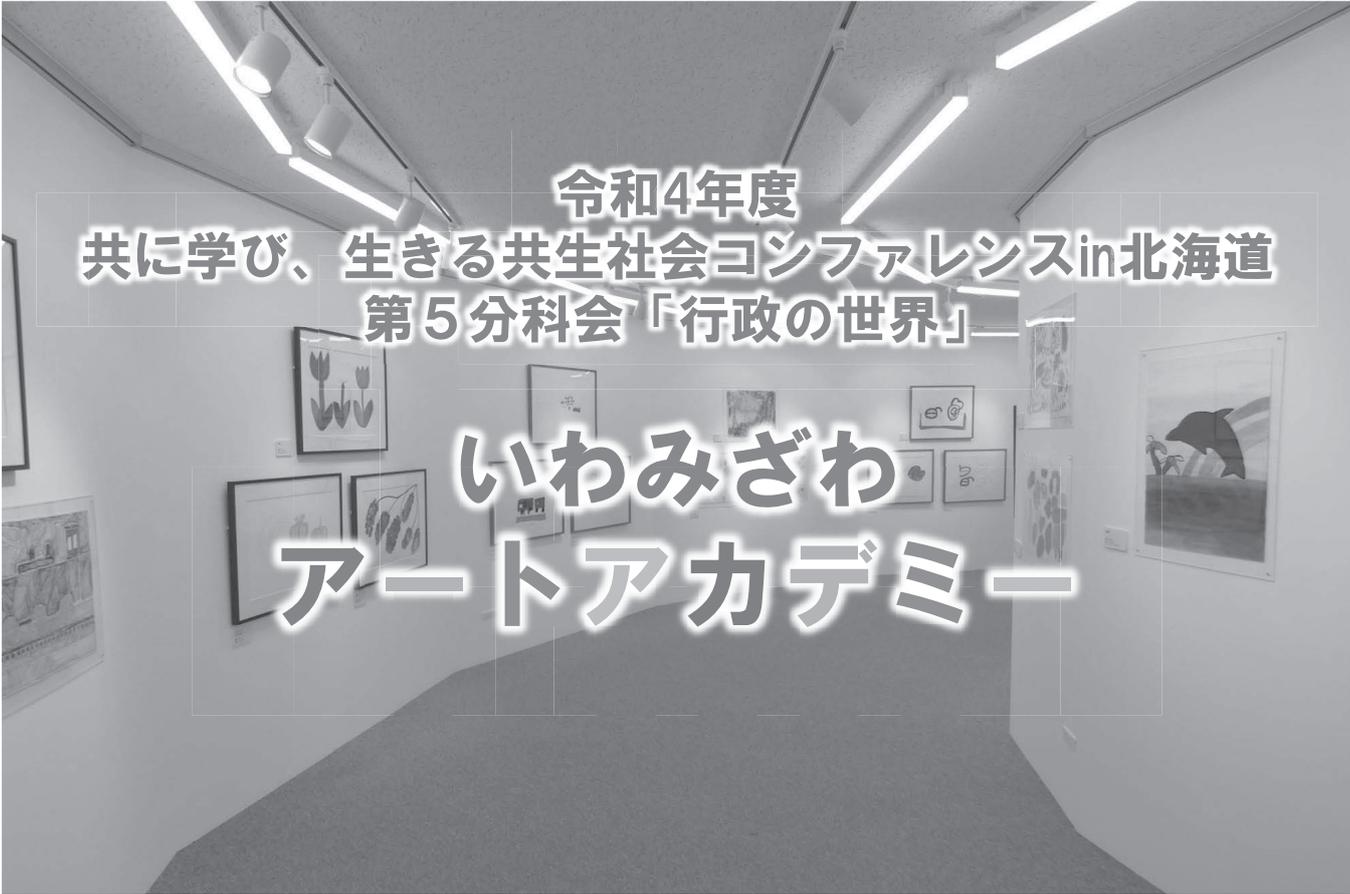
障がい児・者の学びと  
健常者の障がい理解へ



# みんスポ\_アート体験会



膨らむ絵具で、さわって  
広がるアートの世界！  
視覚障がい者も参加



令和4年度  
共に学び、生きる共生社会コンファレンスin北海道  
第5分科会「行政の世界」

# いわみざわ アートアカデミー

主催：北海道教育委員会／文部科学省 共催：医療法人稲生会

## 文化・芸術の重要性

### ・魅力的なまち

(かつて)道路や下水道が整備されている

(現在)美しい景観、文化を感じられる町並み

### ・発展している都市

芸術家、デザイナーなどクリエイターが集積している。



- 魅力的なまちづくりを行う上で、都市間競争に勝ち抜くためにも、文化や芸術の素養は、きわめて重要
- 単に展覧会やコンサートを実施するのではなく、文化権の保障や地域の創造性を高める事業を計画して実施するための人材＝アートマネジメント人材の育成が必要

## 文化・芸術の重要性

# 元 気 八 策 2020

### 市民が誇れる芸術・文化・スポーツの薫り高いまちづくり

- 誰もが芸術文化を身近に親しむことのできる環境づくりと活動を担う人材づくり等への支援
- 北海道教育大学岩見沢校の持つ豊かな人材と知的資源を、芸術・文化・スポーツをはじめとする様々な分野で活用
- 生の芸術アールブリュット拠点施設について、共生のまちづくりの視点で拠点整備構想づくりに着手
- 「オリンピック・パラリンピック」に向けた合宿受入れのほか、将来のトップアスリートをめざす子どもたちや、スポーツ強化活動を力強く支援
- 老朽化したスポーツセンターに代わり、市民の健康づくりを推進する新たなスポーツ施設（多目的アリーナ）建設の構想に着手

## アートアカデミー実施概要

学校卒業後における障がい者が、北海道教育大学の教員や学生と関わりを持ちながら、芸術の鑑賞、創作について学び、展示会の開催にかかわることで自己実現を図り、ひいては芸術を教わる側から教える側になることで、地域社会の中で役割を持ち、自尊心をもって自分らしく暮らせる社会の実現を目指す。

【参加申し込み者：33名】

- ①芸術鑑賞学習
- ②創作体験・創作学習
- ③展示技術学習
- ④展示実践学習



# いわみざわ アート アカデミー

IWAMIZAWA ART ACADEMY

受講料  
無料  
定員20名

田中 純太「ハード&アート 2021」 出版作品(部分)

障害のある人の学校卒業後の学びの場として、北海道教育大学岩見沢校の協力のもと芸術鑑賞、創作等について学ぶ「いわみざわアートアカデミー」を開催します。

創作体験・創作学習会	作品展示会
全4回 (9/28・10/12・10/26・11/9)	期間 12/1(木)～12/7(水)
会場 岩見沢市生涯学習センターいわなび (岩見沢市4条西1丁目3-4)	会場 北海道教育大学岩見沢校「森のギャラリー」 (岩見沢市緑が丘2丁目3A 大学構内)
時間 13:30～16:30	時間 10:00～16:00 (最終日 12:00まで)

主催：岩見沢市  
令和4年度文部科学省「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業」

## 1 創作体験・創作学習会

講義&体験 全4回

北海道教育大学岩見沢校の学生と一緒に、様々な画材の使用方法について学びます。また、実際に画材を使って制作を体験します。  
講師：北海道教育大学岩見沢校アートマネジメント美術研究室  
会場：岩見沢市生涯学習センターいわなび 2階研修室5・6  
時間：13:30～16:30

- 9/28 (水) さまざまな画材にふれる
- 10/12 (水) 創作の多様性を体験する
- 10/26 (水) 表現を深める
- 11/9 (水) 作品で想いを伝え合う

## 2 作品展示会

鑑賞

アートアカデミーで受講生が制作した作品の展覧会を行います。  
会場：北海道教育大学岩見沢校「森のギャラリー」  
期間：12/1(木)～12/7(水)  
10:00～16:00(最終日 12:00まで)

### 申込方法

参加申込書に必要事項を記入のうえ、下記提出先への直接提出またはFAXでご提出ください。メールで申込する場合は、メール文に必要事項を記載して下記アドレス宛てにお送りください。

申込書提出先：岩見沢市役所1階 福祉課 14番窓口  
Eメール：fukushi01-homonosu.jp FAX：0126-24-0294  
申込期日 令和4年9月21日(水)  
【問合せ】岩見沢市役所健康福祉部福祉課(担当：山田・久保) ☎0126-35-4112(直通)

### いわみざわアートアカデミー参加申込書

ふりがな		
住所		
電話番号	自宅： _____	携帯： _____
FAX		
メールアドレス		
事前確認事項	①参加する際に必要とするサポートがあれば☑をつけてください。 <input type="checkbox"/> 手話通訳 <input type="checkbox"/> 筆談 <input type="checkbox"/> 点字 <input type="checkbox"/> その他( )	
	②油彩体験を希望する場合は☑をつけてください。 <input type="checkbox"/> 希望する	

# アートアカデミー開催の様子

## 創作体験・創作学習会

- 9月28日 さまざまな画材に触れる
- 10月12日 創作の多様性を体験する
- 10月26日 表現を深める

毎回、テーマを設定して講座を行い、受講者に新しい発見があるように工夫しました。



北海道教育大学岩見沢校  
アートマネジメント美術研究室による講義

画材のことなど、知的障がいのある人にも分かりやすく伝えられるよう写真を活用した資料で解説

専門的な道具を使う油絵も、各テーブルに学生がついて丁寧に説明し、チャレンジしやすいようにしました。  
はじめて油絵具をさわる人ばかりでしたが、「絵の具を盛り付ける感覚が楽しい」と一番人気の画材となりました。



## ・ 油彩絵の具を用いた技法



### ○重ね塗り

絵の具を油と少し混ぜ、それをペインティングナイフでキャンバスに乗せていく技法



とにかく絵の具をたくさん乗せる事がポイント

絵具を立体的に乗せれるのは油彩画の特権！

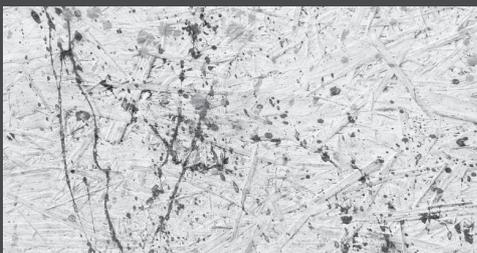
## ・ 水彩、アクリル、油彩で使える技法



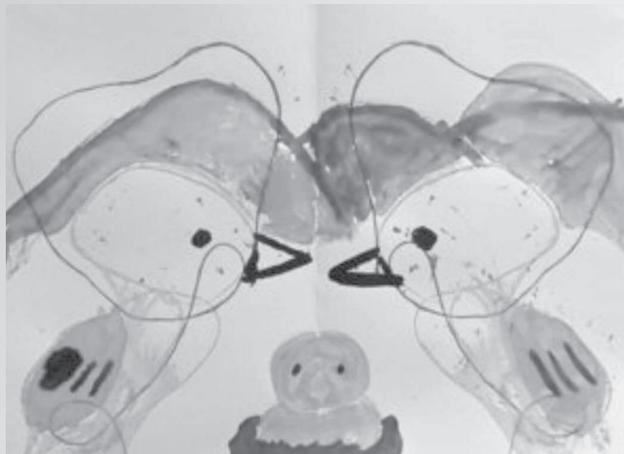
### ○ドリッピング

絵の具をしたたらせる技法

筆を思い切りふって絵の具を飛ばしたり、ストローなどを用いて息を吹きかけると面白いかたちになる



# 糸引き絵の魅力



- ・ 絵を描くのが苦手な人でも、  
**簡単に制作ができる**
- ・ 偶然性を生かすことで、普段とは違う  
**新鮮な表現に出会える**
- ・ 完成した模様から**想像力を膨らませて**、  
新たな創作に繋がられる

## アートアカデミー開催の様子

### 創作体験・創作学習会

11月9日 作品で想いを伝えあう

～障がい当事者による講義・創作ワークショップ・鑑賞会～



自身も精神に障がいを抱えながら創作活動をしている今恵美子さんが講師となり、自分の体験談や創作にかける思いなどを語り、会場みんなが同じテーマで創作するワークショップを行いました。

「自由に塗った色から植物のつるを伸ばし、その先に自分が好きなものを描く」というテーマで創作しました。

今恵美子さんが参加者のテーブルをまわって、創作の助言をしました。



# アートアカデミー開催の様子

## 創作体験・創作学習会

11月9日 作品で想いを伝えあう

～障がい当事者による講義・創作ワークショップ・鑑賞会～



参加者が創作した作品に込めた想いを話し、今恵美子さんが見どころやポイント等を解説  
参加者みんなでお互いの作品を鑑賞しあう場としました

アートアカデミー会場の近くにあるギャラリーで開催中の今恵美子さんの個展に参加者が訪れ、今さんご本人の解説も聞きながら、作品を鑑賞しました



# アートアカデミー開催の様子



## アートアカデミー展示会

### Our Life is Our Art !

12月1日(火)～7日(金) 10時～16時  
北海道教育大学岩見沢校「森の岩ギャラリー」

参加者が創作した作品を、教育大学キャンパス内の「森の岩ギャラリー」に展示しました。  
会場内では、今恵美子さんのワークショップで創作した作品とともに、ワークショップ当日の様子を映像で流しました。

いわみざわアートアカデミー参加者作品展示会

# OUR LIFE IS OUR ART!

2022/12/1(THU)-12/7(WED)  
10:00-16:00  
最終日12:00 CLOSE



高橋日向「無題」  
キャンバス・油彩

北海道教育大学岩見沢校  
森の岩ギャラリー

岩見沢市緑が丘2丁目34  
北海道教育大学岩見沢校構内

問合先:  
岩見沢市健康福祉部福祉課  
0126-35-4112(直通)



# 障がいのある人の学校卒業後の学びとしての芸術文化の可能性

## 【アンケートでのご意見】

「良かった」、「楽しかった」との声が多かったが、「レベルが自分には高かった」、「もっと創作時間が欲しい」との意見も。

- 前年度よりも創作の時間は長めに設定したが、障がいの特性から描き始めるまでに時間がかかる人もおり、タイムテーブルどおり進まないこともあった。障がいの種別・程度によって、集中して受講できる時間の長さや理解度が異なるので、休憩を多くとったり、個別の支援をしっかりとつけるといった工夫が必要。

## 「障がいのある人が学校卒業後に学びを深めるためにはどんなことが大切か？」

- ・高いレベルの勉強ができるように、場所とか機会を増やしたらよいと思う。
- ・一般向けのイベントでも要望に応じて手話通訳を手配するなど、合理的配慮により障がい者を排除しない工夫があるといいと思います。
- ・人とのふれあひが必要です。
- ・単会でもこのような機会があることを大変うれしく思います（原文）。



ご清聴  
ありがとうございました。

## 「高等教育機関における『障がい者の生涯学習』提供モデルの開発 ：モデル開発に向けたニーズに関する実態調査」報告

○近藤 尚也、志水 幸、白石 淳

(北海道医療大学看護福祉学部/北海道医療大学先端研究推進センター)

目的 高等教育機関における障がい者の生涯学習の機会提供に関するモデル開発を目指し、その基礎資料とするため、障がい者（主に知的障がい者）にとって、どのような生涯学習の機会が求められているのか、そのニーズについて明らかにしていく。

調査 1：北海道における特別支援学校教員へのヒアリング調査 概要

調査 2：障害福祉サービス事業所がとらえている生涯学習ニーズアンケート調査 概要

調査 3：障がい者本人がとらえる生涯学習へのニーズアンケート調査 概要

### 倫理的配慮

北海道医療大学看護福祉学部・看護福祉学研究科倫理審査委員会の承認を得て実施した（承認番号 20N039047）。

本取り組みは、2021 年度北海道医療大学先端研究推進センター採択課題として実施した。

### 調査 1：北海道における特別支援学校教員へのヒアリング調査 概要

#### I. 目的

北海道における知的障害を対象とする特別支援学校教員を対象に、教員がとらえる学校卒業後の知的障害者の生涯学習のニーズについて明らかにすることを目的とした。

#### II. 研究方法

北海道内の高等支援学校及び特別支援学校高等部 7 校を対象とし、回答者（進路指導担当教員または管理職）に半構造化面接（対面形式およびオンライン面接方式）によるヒアリング調査を行った。回答は高等支援学校 5 校（札幌近郊 3 校、地方地域 1 校）、特別支援学校高等部 2 校（地方地域 2 校）より得ることができた。

#### 主なヒアリング内容の項目

基本情報、生涯学習へ求める内容、生涯学習の際に必要なと考えるサポートや工夫、学校教育からの学習の連続性、生涯学習を進めるにあたっての課題、把握しているニーズや課題（本人、保護者）、学校が持っている卒業生に関する生涯学習の取り組みの現状やニーズ情報、生涯学習に関する情報提供のあり方。

得られたデータは、逐語録にして、設問ごとの回答からセグメントの要約を行い、マトリックス表に整理した。さらに、セグメントの要約内容から、セグメントグループの再整理を進め、カテゴリー分類を行った。なお、補足資料として、該当校の学校要覧についても確認した。

表1 カテゴリーごとの回答

カテゴリー	A	B	C	D	E	F	G
種別	高等支援学校	高等支援学校	高等支援学校	高等支援学校	特別支援学校高等部	特別支援学校高等部	高等支援学校
地域	札幌市近郊	札幌近郊	札幌近郊	地方地域	地方地域	地方地域	地方地域
寄宿舍	あり	なし	なし	なし	あり	なし	あり
進路割合 一般就労	3分の1	4分の1	4分の3	2分の1	まれ	まれ	3分の2 (進学含む)
進路割合施設・福祉的就労	3分の2	4分の3	4分の1	2分の1	ほとんど	ほとんど	3分の1
部活動	あり	あり	あり	あり	なし	なし	あり
同窓会活動	あり	年に2回(近年はコロナで実施できていない)	年3回たよりを送付	あり	年に1回(多い時は100名ほど参加)	あり	実施に至っていない
実施場所(アクセス)	・住んでいる地域	・知っている地域だと自力でも移動できるが、そうでない場合は難しい(送迎バスなどもあるとよい)	・生活圏で実施されるとよい。生活圏と違うと距離的には近くてもハードルがある ・慣れない場所に行くのは難しいのではないかと	・行きなれた場所(学校や地域の会館など)が良い	・住んでいる地域(近隣)が良い ・送迎があるとよい	・居住している地域	・校舎を活用した活動。 ・行きやすい場(交通利用の在り方は個人差がある)
費用	5000円~10000円程度までなら出せる	できるだけ低額	低額または無料		低額または無料	低額または無料	
内容	・資格の取得など(業務につながる)。(働いている企業の後押しなどがあってもよいのでは) ・お金の使い方 ・調理など自活につながる	・介護で働いている人は資格などは簿記を取りたいなどの声も聞かれる。 ・人間関係におけるストレスの削ぎの在り方(メンタルトレーニング) ・出会いの場としての役割 ・楽しみ方の場としての役割 ・家から離れて生活について(金銭管理、健康管理、食事など)	・今後のスキルアップ(資格) ・自由時間の使い方 ・定期的に開催されている方が集まりやすいのではないかと ・常時入れられるきつかけを作るもの、大きなテーマとして実施するものを整理する	・学校で学んだことでの学び直しができることではないかと(忘れてしまうことがある) ・人間関係やコミュニケーションについて ・ビジネススマナーなど一般常識の確認(ロールプレイ体験) ・教養として健康管理	・健康面に関すること(体重の増加) ・内容を選択できる環境があること ・土日の開催が良い・フランクにかかわれる、つながりを持っている場所	・社会に出るための経験(アルバイト・バザー、職業体験など) ・コミュニティスクール	・自立する心につながる ・社会生活のイメージ形成 ・異性のかかわり方
生涯学習へ求めること(ニーズ)と課題		・家で過ごすことが多い(スマホなど) ・親の高齢化 ・キャッシュレスが進み、実感が減ってお金を使わずに済む	・入口について本人の自己受け止めによって変わるのではないかと	・連絡が取れなくなる卒業生がいる(何をしているかわからない、暮らしが見えないケース)	・地域によって選択肢が少ない ・生徒によってギャップ(違い)がある ・続ける場、時間、機会がない	・ボランティアや場など地域資源に関するつながりが弱い ・地域のカルチャーセンターなどはあるがハードルが高い ・できる力はあっても気持ちの面からやりたがらないことがある	・仕事に慣れてこなすことで手一杯ではないかと ・卒業は仲間とのつながりも希薄になってしまふ ・困り感がうまく伝えられるか
必要なサポート	・本当に打ち込みたい人、初めての人などそれぞれに合った対応	・送迎バスなどのスポンサー(費用が高額だと参加しづらい)	・親も安心して送り出せる場所 ・人と会うことを後押し ・在校時からつながる場	・子どもの状況によって異なる(障害が重い場合は、表示や場所の工夫など) ・相談に対するハードルを下げていく必要性	・自閉的な人は定期的に行われる活動がよいのではないかと ・サポートにはマンパワーが必要 ・自宅の場合、家族も含めた時間帯のマッチ。	・褒められる機会 ・興味をプラスしてどうしようか	
学習の連続性	・本人が何をやりたいのかに気付けるきっかけ(部活動などに加わる体験を通じた自己分析)	・人とかかわりにつまずくことがあるため、その点に関する連続性	・部活について一部競技は卒業後にもつながる場合あり	・教材の例など学校で実施した形をいかに ・学校で学んだことを忘れてしまう	・授業と同じような流れの方が入口としてよいのではないかと ・新しい単元の学習について、関心の次へのステップ(運動、字を書く機会を増やす、つながりをどう作るかなど)	・余暇・体育活動、休み時間のテーブルゲームなどを実施している(卒業後の活動へ) ・作業学習で取り組んだ活動はあまり結びついていない ・学校で学んだスキルを活かす場が少ない	・寄宿舍における指導とのつながり ・生活習慣について(お金、健康管理、歯磨き)、礼儀について、スマホ・ゲームの取り扱いについてなど継続する場 ・授業におけるフィールドワークを通じた情報提供(経験の運動)
学校教育との連動へ求めること(ニーズ)と課題	・からだを動かすことでの成功体験が少ないことも多く、そうした体験を積み重ねること	・学校を卒業すると運動機会がなくなってしまう	・卒業後も行いたいがつながっているスポーツは限られているため、部活動で取り組んでいたことが卒業後できなくなる	・実施されている部活動の延長となる活動	・部活動はなく、そこでの連続性はない	・ウォーキングを取り入れて学校で実施、卒業後も進路先(事業所)で取り入れている ・体を動かすことが嫌にならないように進めているが、球技などは卒業後にやれる場所がない	・スポーツ活動を通じた地域とのつながり
運動やスポーツ関連	・部活動の活動を続けたい(バスケットボール、サッカー、陸上)が難しい ・大人のチームに所属でき地域での活動があるとよいが難しい ・全国大会などに参加できるとよい	・参加できるスポーツ大会などがあることよい	・マラソン大会を行っていたがニーズはあってもその受け皿がない	・スペシャルオリンピックスとのつながり	・卒業後に体重増加が多い。学校では運動の機会を意図的に作っているが、卒業後は運動の場がない。 ・福祉サービスに通っている場合、その活動運動などが提供される。		
情報のあり方として求めること(ニーズ)と課題	・SNSなどを活用しているものも多いが、十分に情報につながることは難しい	・情報があっても本人の関心が弱いと参加にはつながらない ・在学中からの情報 ・活動について聞く場が少ない ・相談室など支援機関からの情報 ・企業に務めている人は情報が少ないかもしれない	・情報が少なく届かない ・発信された情報をキャッチできていない ・相談支援機関による情報は少ない ・呼び水となる情報の提供が必要	・保護者間の情報が必要 ・情報提供の場が必要 ・学校が持っている情報を活用した発信	・保護者間で情報を持っていることがある ・ただし	・保護者が情報を集められる ・検索をしやすい情報整理	・本人の手元に残る形式がよい(用紙やメールなど) ・自治体による広報誌 ・SNSの活用
学校が現在持っている生涯学習に関わる情報	出かけていない	・福祉サービスを活用した余暇活動などに関すること(移動支援や放課後等デイなど)はある。きっかけ作りの重要性	・福祉的就労は関連する活動があるが、一人でできる人(一般就労など)へのフォローは少ないかもしれない ・学校活動の延長で実施している人がいる	・学びの続かなさがある ・困ったときは学校へ連絡する人もいる	・医療的ケア児のサポートをしているボランティア団体はある ・社会経験に関連する活動は放課後等デイなどの活動がなっていないのではないかと	・地域のクラブに入っている人もいる(多くはない) ・マラソン大会に出場している	
学校が受け取った本人・保護者からの声	本人の声 保護者の声	部活動の活動を続けたい(卒業生も参加している活動もある)	部活動の継続	調理活動(学校だと限られてしまった)	部活動を継続したい(サポートする側の役割も)	現在実施している活動の継続 アルバイトがしたい	思いはあると思うが聞けていない 思いはあると思うが聞けていない(学校の特性で親同士の交流が少ない)
			息抜き場として趣味や学習につなげる	働く場について落ち着いてから考えたい	子どもにとってメリハリがある活動(福祉事業所利用が多いため)	・在学時と同じような活動のリズムを希望。 ・SSSTのような活動。	

### III. 結果

基本情報に関して、卒業生の進路に関して学校ごとに違いがみられた。特別支援学校高等部では、障害が重度である傾向もあり、一般就労の割合が少ない状況であった。また、部活動について、今回

の対象であった特別支援学校高等部では実施されていなかった。卒業支援と関連して同窓会活動なども多くの学校で行われていた。

対象ごとのセグメントの要約内容から《生涯学習へ求めること(ニーズ)と課題》《学校教育との

連動へ求めること(ニーズ)と課題》《情報のあり方として求めること(ニーズ)と課題》と《学校が現在持っている生涯学習に関わる情報》《学校を受け取った本人・保護者からの声》の5つのカテゴリーに整理することができた。

### 《生涯学習へ求めること(ニーズ)と課題》

【内容】を中心に先行研究における項目から考察を行ったところ、「日常生活や社会生活に必要な技術の獲得や支援」といった自立生活を進めるうえで獲得すべき実用的スキルへの課題が示唆された。「日常生活や社会生活に必要な技術の獲得や支援」といった自立生活を進めるうえで獲得すべきスキルへの課題を感じており、先行研究においても指摘された学習を継続的に求めていることがうかがえた。

【実施場所】については、住んでいる地域や行きなれた場所など障害者の身近な地域で実施されることがすべての回答で求められており、開催場所に関するニーズと考えられる。知的障害者の生涯学習の機会そのものが少ないため、参加しやすい身近な地域で実施されることがニーズとして挙げられたと考えられる。

【生涯学習における課題】において、特に社会資源が限られやすい地方地域では、地域によって選択肢が少ないこと、ボランティアや場など地域資源に関するつながりが弱いこと、地域のカルチャーセンターなどはハードルが高いことなどが挙

げられており、参加しやすい環境の不足が示唆された。また、すでに地域にある機関等は、知的障害者にとって十分に社会資源化されておらず、社会資源が少ない地域でも、障害者の身近な場で参加できる生涯学習活動につながっていくことが期待される。

【費用】に関しては、ほとんどの回答で、低額や無料であることが求められていた。

【生涯学習における課題】では、活動への関心や、やる気、参加のきっかけとなる入り口の課題などについて挙げられていた。

### 《学校教育との連動へ求めること(ニーズ)と課題》

学習指導要領においても学校で取り組んできた内容や身に着けたスキルを卒業後につなげていくことが求められており、生涯学習と学校教育の学習の連続性を持つためには、学校と生涯学習実施機関にて十分な情報共有・情報交換を持つことも必要と考えられる。

また回答に共通して、卒業後の運動の機会の減少について挙げられているが、学校教育の中で運動やスポーツが継続的に行われていることも多く、運動やスポーツを学習の連続性の中で、生涯学習の一つの入り口として活用することは有効な取り組みになりうるかもしれない。

## 調査2：障害福祉サービス事業所がとらえている生涯学習ニーズアンケート調査 概要

### I. 目的

障害福祉サービス事業所がサービス利用者の生涯学習について、どのような情報を把握しており、また障害者の生涯学習のニーズをどのようにとらえているか明らかにすることを目的とした。

### II. 調査方法と対象

北海道内一定範囲(A地域とする)の日中活動系障害福祉サービス事業所を実施している事業所(主な対象は知的障がい中心)100事業所を対象とし、事業所における回答者の指定はしなかった。調査は郵送法による自記式質問紙を基本とし、同内容についてWeb入力回答も選択可能とした。調査対象は、WAMNET(独立行政法人福祉医療機構公開サ

イト) のオープンデータ (2021 年 11 月末時点) を活用して、対象とした A 地域内からランダムサンプリングを行った。調査結果は単純集計を行った。

### Ⅲ. 結果

100 事業所を対象として郵送したところ、55 事業所から回答を得ることができた (回収率 55%)。回答があった事業所 (55 件) の事業種別は、「就労継続支援 B 型」が最も多く 26 件、次いで「生活介護」14 件、「就労継続支援 A 型」9 件、「就労移行支援」5 件、「その他」1 件であった。

生涯学習に関する各設問への回答は以下の通りであった。

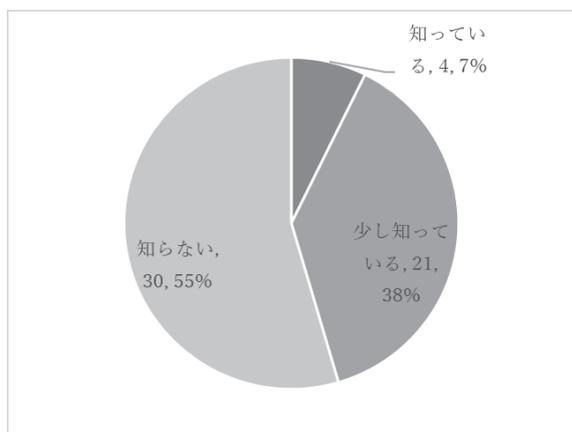


図 1 利用者が取り組む活動を知っているか (SA) n=55

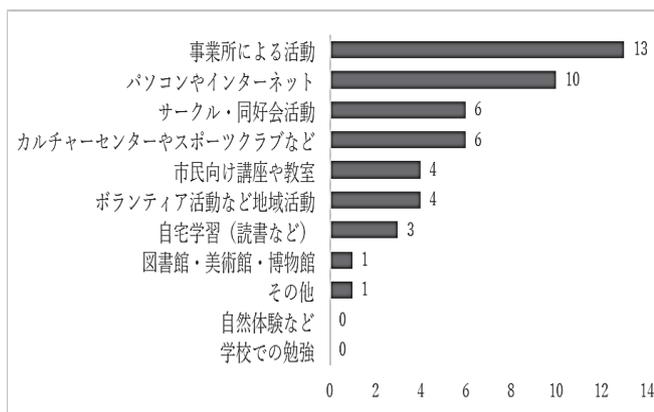


図 2 どのような活動に取り組んでいるか (活動を「知っている」「少し知っている」もの) (MA) n=25

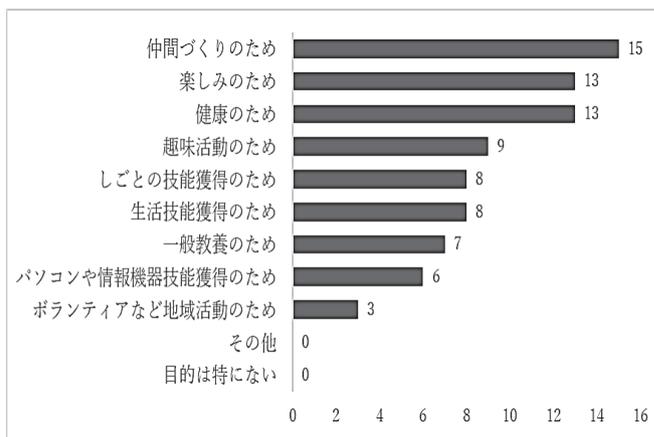


図 3 利用者が取り組む目的は何だと思うか (活動を「知っている」「少し知っている」) (MA) n=25

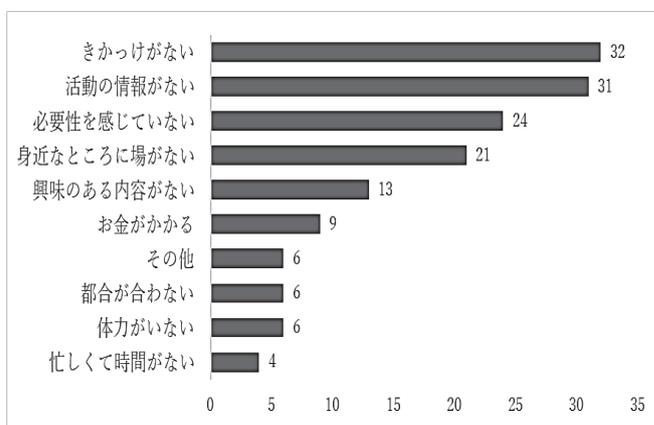


図 4 利用者が取り組まない理由は何だと考えるか (MA) n=55

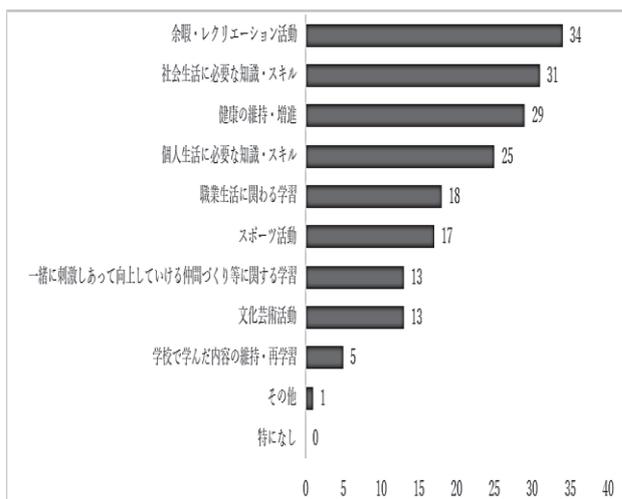


図 5 今後どのような目的の活動が提供されるとよいか (MA) n=55

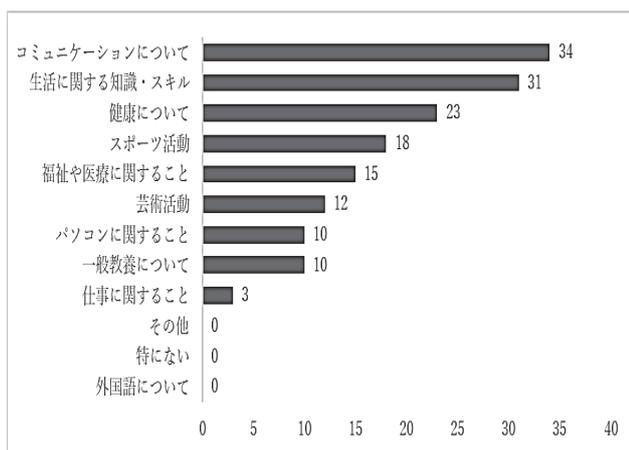


図6 今後どのような内容の活動が提供されるとよいか (MA) n=55

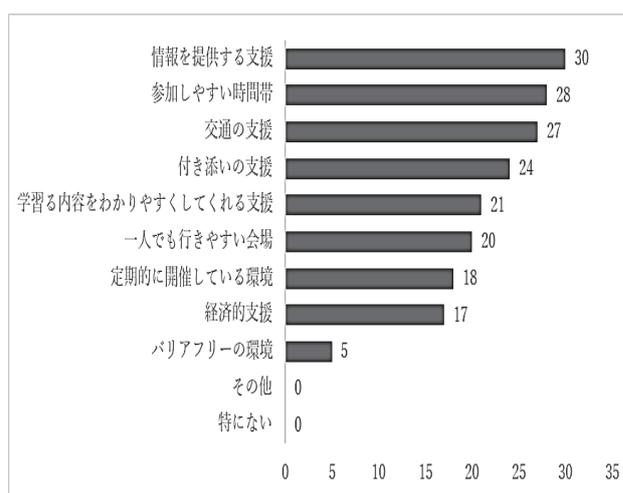


図8 どのような支援や環境があれば参加しやすくなると思うか (MA) n=55

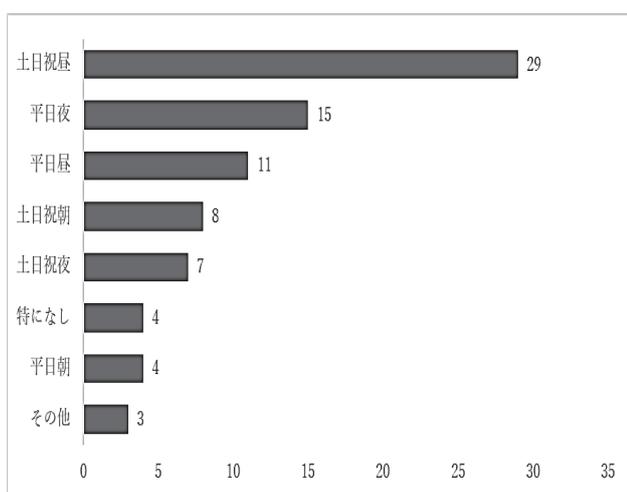


図7 どのような時間帯がよいと思うか (MA) n=55

### 調査3：障がい者本人がとらえる生涯学習へのニーズアンケート調査 概要

#### I. 目的

北海道札幌市近郊の地域における知的障がい者本人がとらえる生涯学習ニーズ及び関連した事業所外の生涯学習活動の状況についてアンケート調査を通して明らかにすることを目的とした。

#### II. 研究方法と対象

北海道 A 地域に所在する障害福祉サービス事業所 5 か所に調査用紙を送付し、事業所を利用している知的障がいがある利用者への調査について協力を依頼した（機縁法）。調査用紙は、自記式選択

方式（単一回答：SA、複数回答：MA）を中心として、一部に記述の項目を設けた。調査用紙の記入は、本人が記入することを原則としたが、記入に支援が必要な場合には支援者等の手伝いを可能とした。得られた結果は単純集計を行った。

#### III. 結果

5 事業所に合計 100 件の調査用紙を配布したところ、4 事業所から返送され、回収された調査用紙は 57 件であった。

回答者の基本情報についてみると、「年代」は「30

代」が16名と最も多く、「40代」14名、「20代」11名と続いていた。「現在の住まいの状況」については、「家族と暮らしている」ひとが33名と最も多く、次いで「グループホーム」21名、「一人暮らし」2名、「無回答」1名であった。

### 1, 生涯学習活動の状況

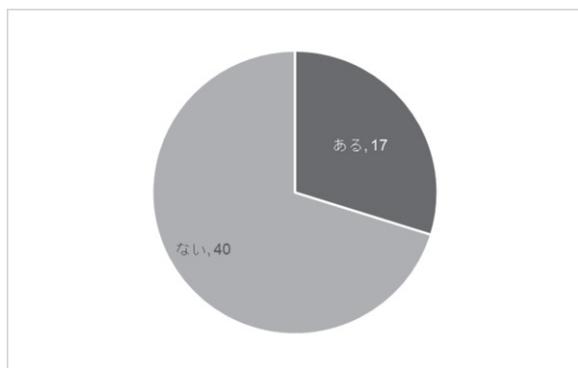


図9 事業所以外での定期的な活動の有無 (SA) n=57

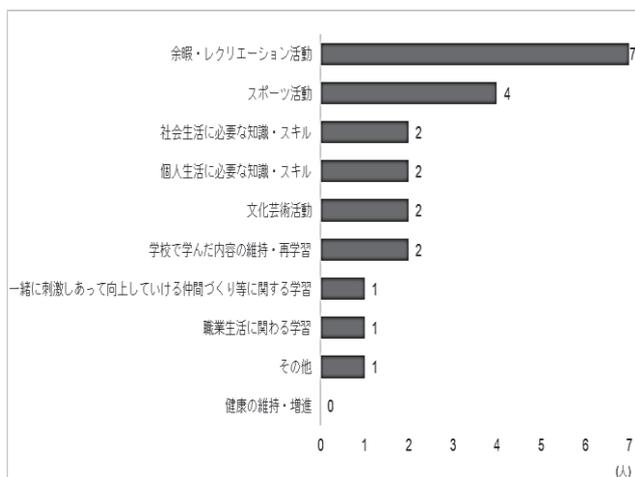


図10 どのような活動をしているか (図5で「ある」と回答したもの) (MA) n=17

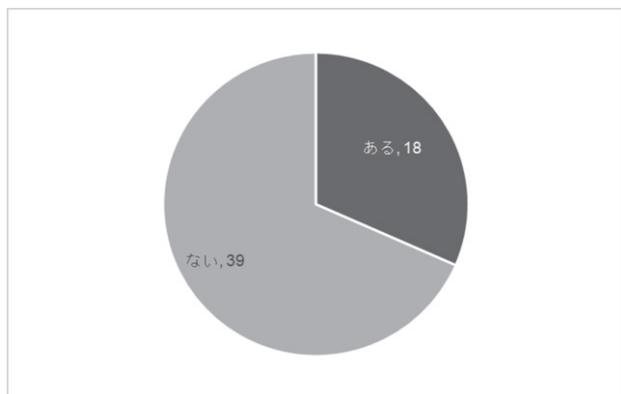


図11 最近1年の間で何か活動したことの有無 (SA) n=57

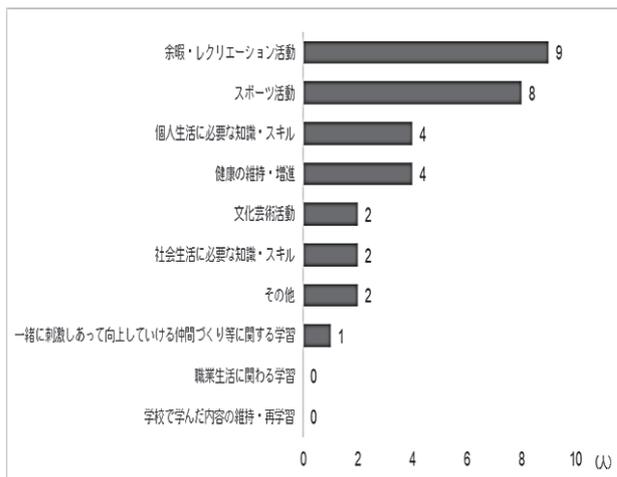


図12 どのような内容の活動をしたか (図11で「ある」と回答したもの) (MA) n=18

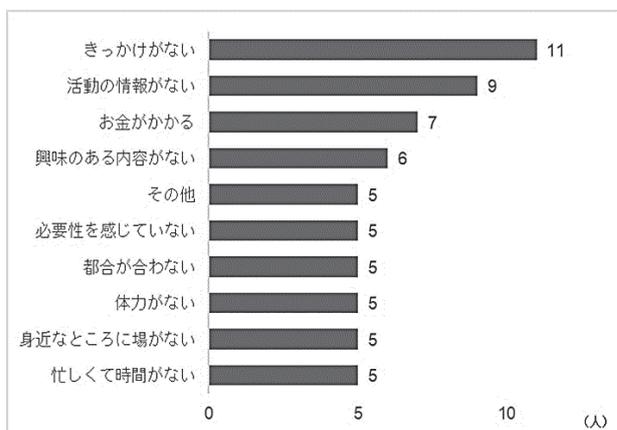


図13 活動をしなかった理由 (図11で「ない」と回答したもの) (MA) n=39

### 2, 生涯学習へ求めること

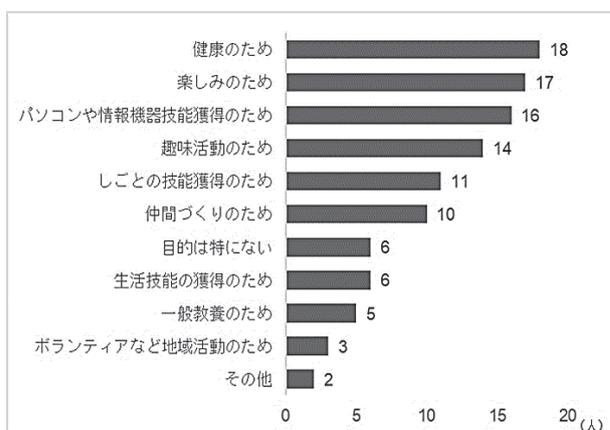


図14 これから活動をする場合の目的 (MA) n=57

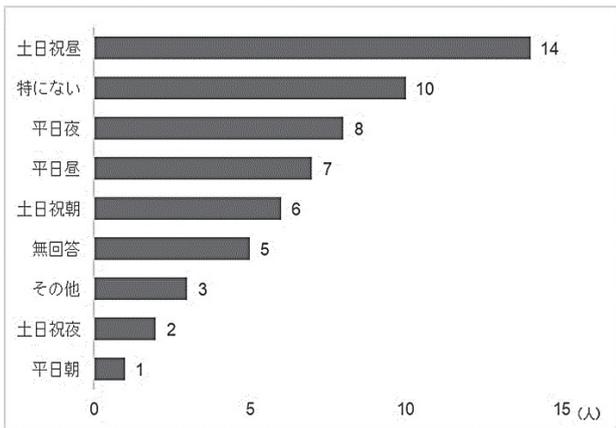


図 15 参加しやすい時間帯 (SA) n=57

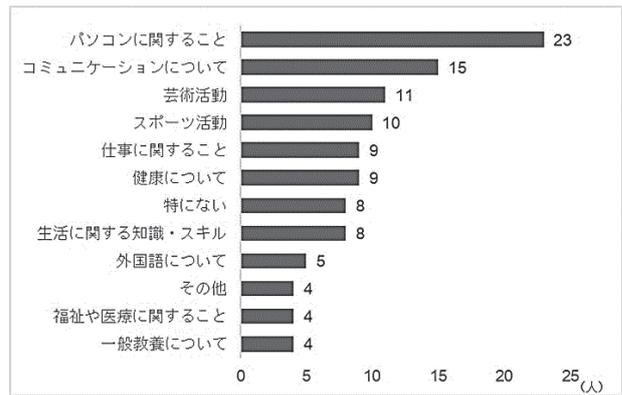


図 17 今後どのようなテーマがあれば参加してみたいか (MA) n=57

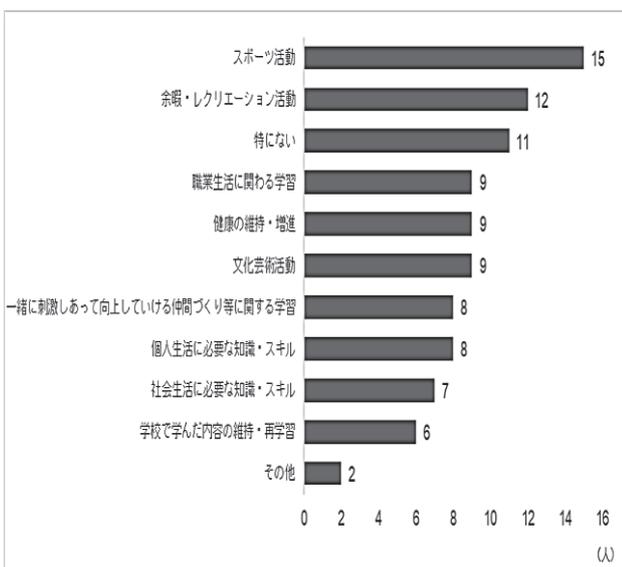


図 16 今後取り組んでみたい活動 (MA) n=57

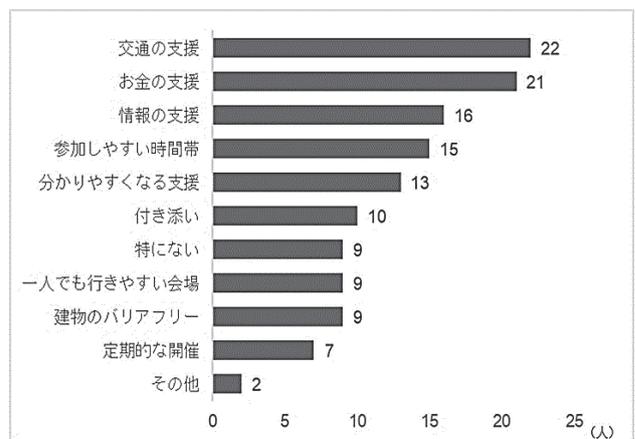


図 18 どのような支援や環境があれば、参加しやすくなるか (MA) n=57

※各調査の詳細については投稿論文として公開 (予定含む)

近藤尚也, 志水幸, 白石淳 (2022), 教員がとらえる知的障害者の生涯学習ニーズに関する調査—北海道における特別支援学校教員へのヒアリング調査から—, 北海道特別支援教育研究第 16 巻 (1), 33-44.

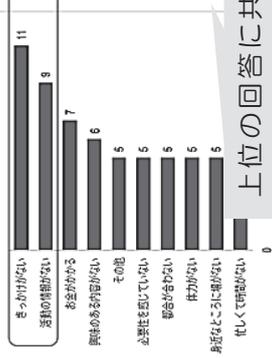
近藤尚也, 志水幸, 白石淳 (2022), 障害福祉サービス事業所がとらえている障がい者の生涯学習ニーズ—北海道 A 地域所在事業所へのアンケート調査から—, 北海道医療大学看護福祉学部紀要 29, 41-47.

近藤尚也, 志水幸, 白石淳 (投稿中 2023), 障がい者本人がとらえる生涯学習へのニーズと事業所外活動の現状—北海道 A 地域における知的障がい者を中心とした本人アンケート調査から—, 北海道医療大学看護福祉学部学会第 19 巻 (1).

# 当事者調査と事業所調査の回答対比 (抜粋)

## 当事者調査

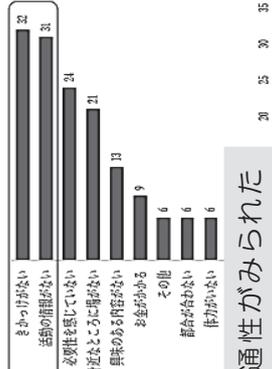
活動をしなかった理由 (最近1年活動していないもの) (MA) n=39



上位の回答に共通性がみられた

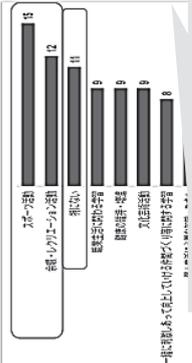
## 事業所調査

利用者が取り組みづらい理由は何と考えるか (MA) n=55



## 当事者調査

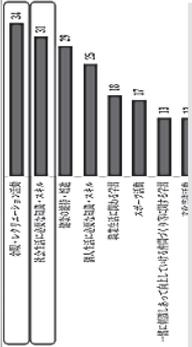
今後取り組んでみたい活動 (MA) n=57



当事者では「スポーツやレク」が高く、事業所もレクが高く共通。一方で、当事者「特にない」、事業所「社生活スキル」が上位にある

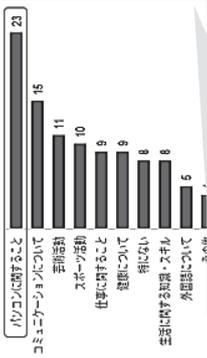
## 事業所調査

今後どのような目的の活動が提供されるとよいか (MA) n=55



## 当事者調査

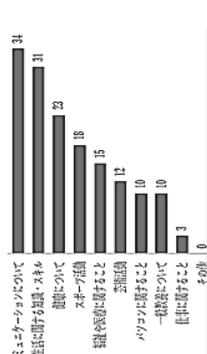
今後どのようなテーマがあれば参加してみたいか (MA) n=57



当事者では「パソコンに関すること」が高い特徴があった

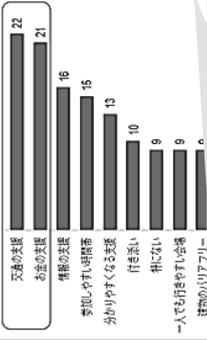
## 事業所調査

今後どのような内容の活動が提供されるとよいか (MA) n=55



## 当事者調査

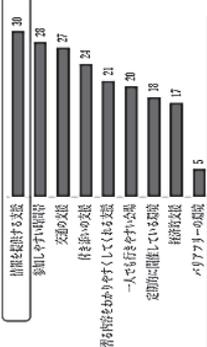
どのような支援や環境があれば、参加しやすくなるか (MA) n=57



当事者では「交通」「お金」が高いが、事業所では、「情報提供」が上位であった

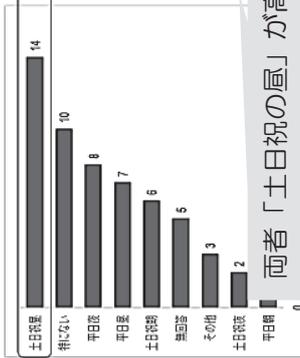
## 事業所調査

どのような支援や環境があれば参加しやすくなるか (MA) n=55



## 当事者調査

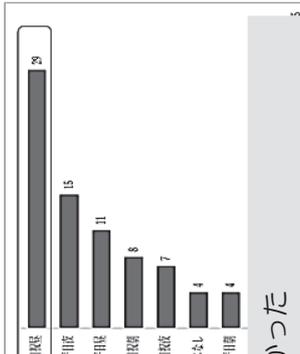
参加しやすい時間帯 (SA) n=57



両者「土日祝の昼」が高かった

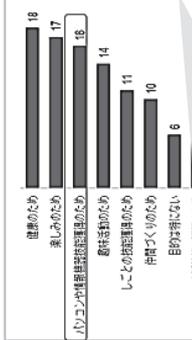
## 事業所調査

どのような時間帯に活動が提供できるとよいか (MA) n=55



## 当事者調査

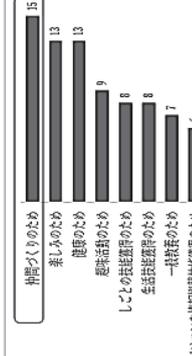
これから活動する場合の目的 (MA) n=57



「健康」や「楽しみ」は共通して高いが、当事者では「パソコン等の技能獲得」、事業所では「仲間づくり」が高い特徴があった

## 事業所調査

利用者が取り組む目的は何だと思えるか (利用者の取り組みを知っているもの) (MA) n=25





## 取組 7

### 障害者の学びに関する情報を一元的に収集・提供する仕組みの構築

障害者の生涯学習を一層推進するためには、学びを身近で支える教育行政の果たす役割は極めて重要である。そのため、本道における障害者の生涯学習活動の推進に係る情報収集や発信などの取組について実態や課題を把握し、今後の市町村等における障害者の学習支援の体制構築に向けた考察を行った。

#### 1 生涯学習推進センターにおける相談支援や情報収集・提供体制の活用

- 趣 旨 道内の障害者の生涯学習活動の推進に係る取組についての実態調査を行い、課題を把握するとともに、障害者の生涯学習を進めるための効果的な取組事例を調査分析し、その成果を発信することで、市町村における障害者の学習を支援するための具体的な体制の構築に資する。
- テーマ 「障がい者の生涯学習活動支援に関する調査研究  
～北海道における障がい者の生涯学習活動の推進に係る施策及び社会教育施設の実態調査から～」
- 方法等 実態調査に基づいた分析
  - ・道内市町村を対象にしたアンケート調査
  - ・道内全市町村の社会教育計画の策定状況調査事例研究（聞き取り・視察）
  - ・障害者の生涯学習に関する市町村教育委員会
  - ・社会教育施設における障害者への支援の体制・状況先進事例の検証

#### 2 北海道教育推進計画に、「障害者の生涯学習推進」に関する項目を位置付け

- 道内 179 市町村を対象としたアンケート調査をみると、「各教育委員会の域内で住民が参加できる障害者の生涯学習活動に関する情報」の把握状況について、「把握している」との回答が 49 市町村にとどまった。このような状況を改善するため、北海道教育推進計画の策定にあたって、計画内に障害者の生涯学習を位置付けるため、本事業の実績等を計画素案作成に反映した。

#### 3 障害者の生涯学習推進に向けたシステム構築への研究

- 障害者の生涯学習に関する情報収集や発信に向けた、本道の状況と課題の共有

令和4年度（2022年度）「障害者の生涯学習推進コンソーシアム形成事業」  
障がい者の生涯学習活動支援に関する調査研究

I 道内市町村における「障がい者の生涯学習」に関わる実態調査

1 調査の概要

(1) 目的

障がい者が行う学習活動に対して、市町村教育委員会等が実際に行っている支援、学習者等が求める支援等について調査し、障がい者の学習支援を含むモデルプログラムの開発や効果的に学習を支援するための具体的な体制の構築に資する。

(2) 調査方法等の概要

ア 生涯学習推進体制の整備状況調査

調査主体	北海道立生涯学習推進センター
調査対象	北海道内 179 市町村教育委員会
抽出方法	全数調査
調査方法	調査票によるアンケート形式の自記式調査法（調査票調査）
調査基準日	令和4年（2022年）6月1日
調査期間	令和4年（2022年）6月16日（木）～8月17日（水）
集計方法	単純集計／Excel 使用

イ 生涯学習に関する住民の意識調査

調査主体	北海道立生涯学習推進センター
調査対象	北海道内 178 市町村在住の住民（各市町村7名）＝1,246人（札幌市を除く）
抽出方法	標本抽出法 割当：各市町村の10歳代、20歳代、30歳代、40歳代、50歳代、60歳代、70歳以上の各年齢層から1名ずつ、男女比が均等となるよう対象者を選定
調査方法	調査票又は Google フォームによるアンケート形式の自記式調査法
調査基準日	令和4年（2022年）11月4日
調査期間	令和4年（2022年）11月12日（金）～12月19日（月）
集計方法	単純集計／Excel 使用

(3) 調査項目

ア 生涯学習推進体制の整備状況調査

- ① 域内で住民が参加できる「障がい者の生涯学習活動」に関する情報を収集・把握しているか
- ② 「把握している」と回答した場合の実施機関
- ③ 「障がい者福祉に関する学習」の実施

※現代的課題等の以下の項目に関する学習機会の取組を実施しているか

- 1 環境に関する学習：地域の自然環境やその保全、「木育」など
- 2 食に関する学習：「食育」や食をとおした地域の活性化など
- 3 国際理解に関する学習：諸外国の人々とお互いの文化、習慣等の理解など
- 4 超高齢社会に関する学習：生活習慣病の予防、日常の介護など
- 5 防災に関する学習：自然災害等の危険性や安全な行動など

- 6 男女平等参画に関する学習：女性の人権尊重やハラスメントなど
- 7 安全・安心な生活に関する学習：疾病、犯罪、交通事故等の生命・健康や防犯ボランティアなど
- 8 消費生活に関する学習：悪質商法、訪問販売、金融など
- 9 人権に関する学習：ドメスティックバイオレンス、児童虐待、ネットトラブルなど
- 10 障がい者福祉に関する学習：福祉制度や福祉のまちづくりなど
- 11 地域活動に関する学習：ボランティアや地域活動など
- 12 子どもの貧困に関する学習：家庭が抱える経済や生活環境、学習機会の格差の問題など

## イ 生涯学習に関する住民の意識調査

### ① 「障がい者福祉に関する学習」への課題意識

※あなたは、日常生活の課題について、どのように捉えているか。（6件法：「大きな課題」「どちらかと言えば課題である」「どちらとも言えない」「どちらかと言えば課題ではない」「課題ではない」「わからない」）

- 1 環境に関する学習：地球温暖化や自然環境の保全など、環境に関すること
- 2 食に関する学習：安全・安心な食材や望ましい食生活に関すること
- 3 国際理解に関する学習：異文化の理解や交流など、国際理解に関すること
- 4 超高齢社会に関する学習：介護や孤独死、地場産業の担い手不足など、超高齢社会に関すること
- 5 防災に関する学習：災害の危険性に関する理解や共助体制など、防災に関すること
- 6 男女平等参画に関する学習：女性の人権尊重や社会進出の促進など、男女平等参画に関すること
- 7 安全・安心な生活に関する学習：犯罪や交通事故、疾病など、安全・安心な暮らしに関すること
- 8 消費生活に関する学習：悪質な販売方法や特殊詐欺など、消費者教育に関すること
- 9 人権に関する学習：児童虐待やプライバシーの侵害など、人権に関すること
- 10 障がい者福祉に関する学習：だれもが暮らしやすいまちづくりに関すること
- 11 地域活動に関する学習：ボランティアや地域の活性化など、地域活動に関すること
- 12 子どもの貧困に関する学習：家庭の経済や生活環境、学習機会の格差など、子どもの貧困に関すること

## 2 調査の結果

### (1) 調査票の回収結果

#### ア 生涯学習推進体制の整備状況調査

対象数（市町村）	有効回答数（市町村）	回収率（%）
179	179	100

#### イ 生涯学習に関する住民の意識調査

対象数（人数）	有効回答数（人数）	回収率（%）
1,246	1,094（164市町村）	87.8

## (2) 調査の結果（単純集計）

① 域内で住民が参加できる「障がい者の生涯学習活動」に関する情報を収集・把握している市町村（n=179）

障がい者の生涯学習に関する実態を把握しているのは、49 市町村で全体の 27.4%である（図1）。

令和2年度（2020年度）調査の74市町村から減少しているが、コロナ禍において、事業等の活動を実施するのが困難だったことが要因の一つとして推察される。

項目	市町村	割合
収集・把握している	49	27.4%
収集・把握していない	130	72.6%

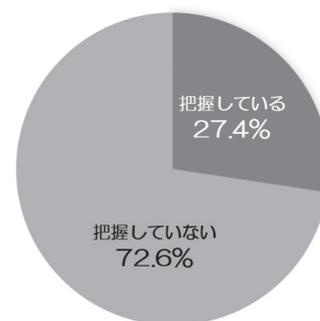


図1 障がい者の生涯学習に関する実態を把握している市町村

② 「障がい者の生涯学習活動」に関する情報を収集・把握している実施機関（n=49）

障がい者の生涯学習に関する実態を把握していると回答した49市町村における実施機関の割合は、教育委員会主催が51.02%(25市町村)と最も多く、次いで、首長部局主催が44.9%(22市町村)、教育委員会の後援・関与が36.73%(18市町村)、北海道の事業が28.57%(14市町村)、国の事業が8.16%(4市町村)、特別支援学校等の事業が4.08%(2市町村)と続き、大学の事業については実施している市町村がなかった。また、その他の事業が36.73%(18市町村)と回答しており、主に社会福祉法人、NPO、民間企業等などの主催によるものである（図2）。実態を把握している49の市町村とその実施機関については、表1のとおりである。

令和2年度（2020年度）調査において、「障がい者の生涯学習活動」に関わる事業を教育委員会が主催していると回答した市町村の数は7市町村であったことから、今回の調査では増加していることが明らかになった。

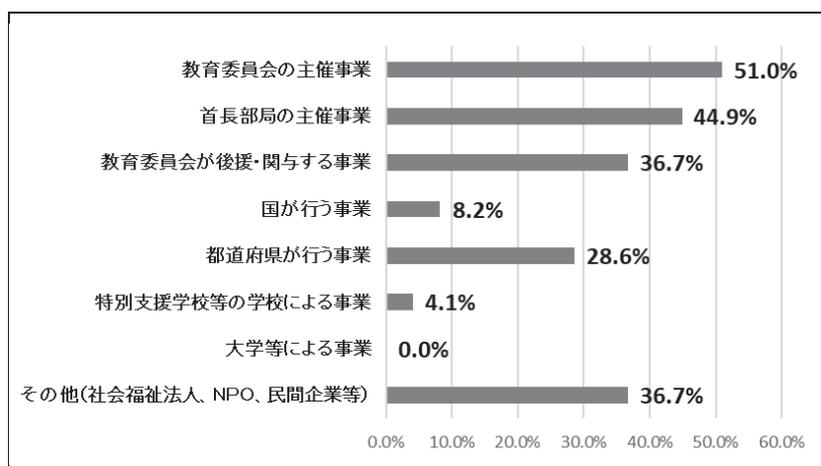


図2 障がい者の生涯学習に関する実態を把握している市町村における実施機関の割合

③ 「障がい者福祉に関する学習」を実施している市町村（n=179）

障がい者福祉に関する学習を実施している市町村は127市町村（72.0%）あり、事業や取組等の実施機関の内訳については、教育委員会が22市町村（12.3%）、首長部局が85市町村（47.5%）、関係団体・民間等が78市町村（43.6%）である（図3）。

表1 障がい者の生涯学習に関する実態を把握している市町村と実施機関

管内	No.	市町村	障がい者の生涯学習活動に関する情報の収集・把握							
			①教育委員会主催	②首長部局主催	③教育委員会後援・関与	④国の事業	⑤道の事業	⑥特別支援学校等の事業	⑦大学等の事業	⑧その他
空知	1	砂川市			●	●	●			
	2	奈井江町		●						●
	3	雨竜町		●						
石狩	4	千歳市					●			
	5	北広島市	●	●			●			●
	6	新篠津村	●	●						
後志	7	島牧村	●	●	●					
	8	黒松内町								●
	9	蘭越町	●							
胆振	10	余市町	●							
	11	室蘭市								●
	12	苫小牧市	●							
	13	豊浦町								●
日高	14	白老町	●	●	●					●
	15	むかわ町								●
	16	新ひだか町	●	●			●	●		●
	17	鹿部町	●		●					●
渡島	18	森町	●	●	●					●
	19	長万部町			●					
	20	奥尻町								●
檜山	21	せたな町	●	●	●		●			
	22	士別市			●					●
上川	23	富良野市					●			
	24	東神楽町					●			
	25	当麻町	●							●
	26	上川町					●			
	27	美瑛町					●			●
	28	上富良野町		●						●
	29	占冠村				●	●			
	30	剣淵町		●						
	31	美深町	●	●	●					
	32	中川町	●	●	●	●	●			
留萌	33	小平町					●	●		●
宗谷	34	浜頓別町	●	●	●					
	35	利尻富士町		●	●					
オホーツク	36	斜里町	●	●						
	37	清里町	●	●	●					
	38	大空町	●							
十勝	39	帯広市	●	●	●		●			
	40	中札内村								
	41	大樹町		●						●
	42	足寄町	●							
	43	陸別町	●		●					
釧路	44	釧路市		●						
	45	厚岸町	●							
	46	標茶町	●	●	●					
	47	鶴居村	●	●	●	●	●			●
根室	48	別海町	●		●					
	49	羅臼町								●
		計	25	22	18	4	14	2	0	18

令和3年度（2021年度）調査においても同様に127市町村が、障がい者福祉に関する学習を実施しており、実施機関については、教育委員会が1.1%の増加、首長部局が0.6%の増加が見られた一方で、関係団体・民間等については変化が見られなかった。

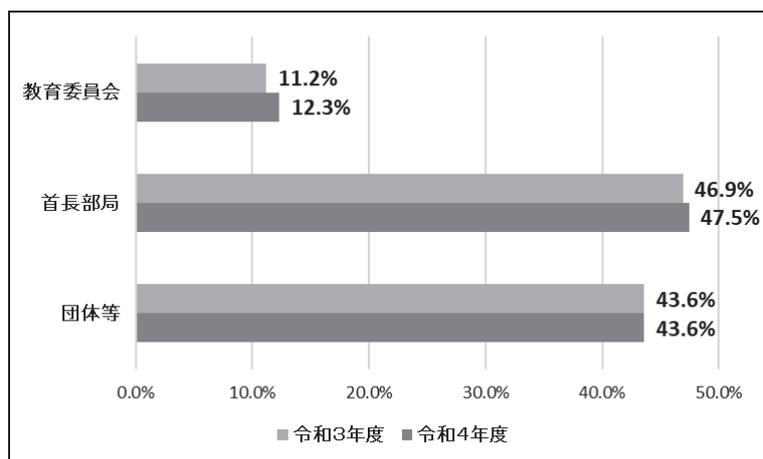


図3 「障がい者福祉に関する学習」を実施している市町村における実施機関の割合

④ 住民の障がい者福祉に関する学習への課題意識 (n=1,094)

住民の障がい者福祉に関する学習への課題意識について、「課題である」「どちらかと言えば課題である」と答えた割合は66.5%で、回答者の6割以上の住民が、高い意識を持っていることが明らかになった。また、12ある質問項目の中では、5番目に意識が高かった。

住民の意識調査と教育委員会や首長、団体等が実施している学習機会の提供との相関を見ると、「障がい者福祉に関する学習」の項目については、住民の課題意識が66.5%であるのに対し、学習機会については53.6%と十分ではないことが明らかになった(図4)。

なお、住民の課題意識が高く、学習機会もある項目は、「高齢化社会」「防災」「食」「環境」「安全・安心な生活」である。

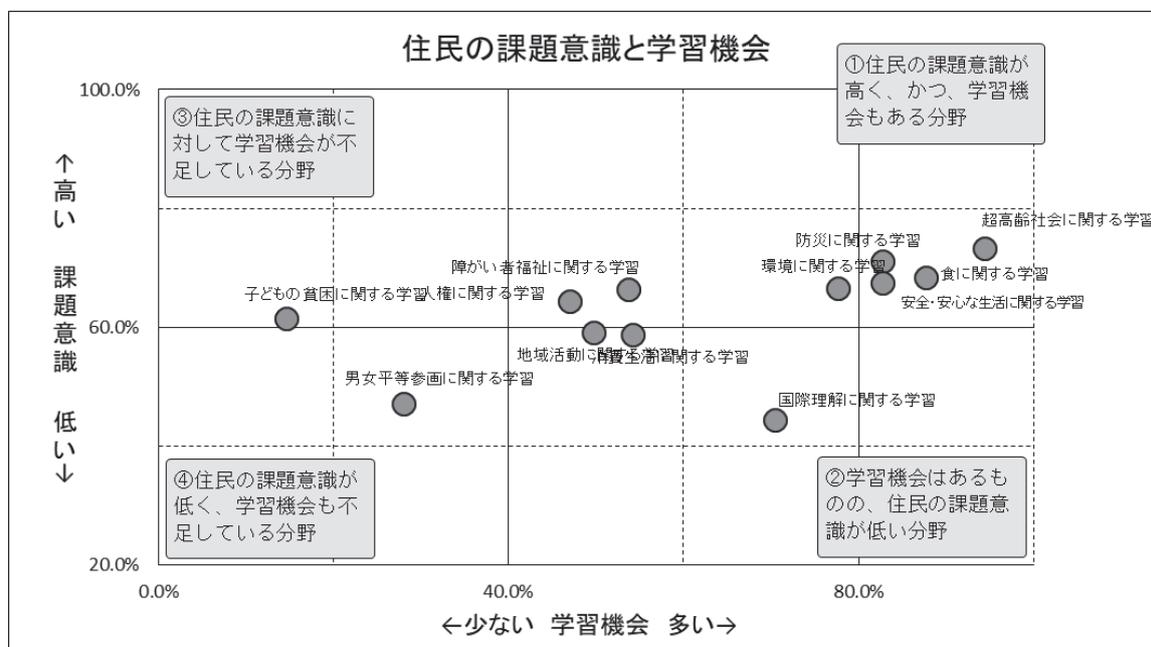


図4 住民の地域課題への意識と学習機会

## II 「障がい者の生涯学習」に関する事業及び社会教育施設の現地調査

### 1 調査の目的

- ・ 障がい者が行う学習活動に対して、市町村教育委員会等が実際に行っている事業等の実施及び具体例を聞き取り等で把握する。
- ・ 障がい者への対応を行っている社会教育施設等の体制状況について、視察及び聞き取り等で把握する。

### 2 調査の概要

	市町村	対 象	調査方法
1-1	名寄市	名寄市・名寄市教育委員会	担当者へのヒアリング
1-2		名寄市民文化センター	施設の視察
2-1	釧路市	釧路市生涯学習センター まなぼっと	施設の視察、担当者へのヒアリング
2-2		釧路市中央図書館	施設の視察、担当者へのヒアリング
3-1	大空町	大空町教育委員会	担当者へのヒアリング

### 3 調査の結果

#### 1-1 名寄市・名寄市教育委員会

##### (1) 調査の概要

調査日	令和4年(2022年)9月8日(木)
場 所	名寄市役所
内 容	名寄市における障がい者の生涯学習の実施状況等
方 法	担当者へのヒアリング
協力者	名寄市教育委員会生涯学習課長 佐々木 憲一 同 社会教育主事 白井 薫 名寄市健康福祉部社会福祉課長 滋野 俊一 同 障がい福祉係長 宮川 生史
調査員	北海道立生涯学習推進センター主査 国枝 知 同 社会教育主事 浅川 美緒

##### (2) 事業の概要

- ・ 障がい者向けの生涯学習事業を行っているわけではないが、支援を要する参加者がいるときに、社会福祉協議会から支援者が対応する仕組みを委託方式で構築している。
- ・ 手話通訳や要約筆記、補助などに社会福祉協議会のサークル等の団体が対応している。
- ・ 現在、高齢者大学に1名、リーダー研修に発達障がいの子どもの1名参加している。
- ・ 名寄高等学校の普通科に四肢障がいのある生徒の入学希望があり、北海道と市で費用を分配し、ヘルパーをつけるなど、当該生徒の入学後のケアを実施している(名寄市生活サポート支援事業)。令和5年度にも対象生徒が1名出てくる見込みで、北海道教育委員会と対応について検討している。
- ・ 社会福祉協議会が「ボッチャ」の大会を実施しており、道具を購入して欲しいといった要望が老人クラブを中心に上がっている。
- ・ 学校の授業において、社会福祉協議会が全盲の方によるパラスポーツの様子を子どもたちに見せるなど、継続的に障がいについての教育を行っており、パラリンピックの影響もあって、子どもを含めた市民全体のパラスポーツへの関心が高まっている。

### (3) 運営体制

- ・市と社会福祉協議会が委託契約を結んで運営している。

### (4) 具体的な活動

- ・障がい者の希望に応じて、様々な支援を行い、かかった経費を報告する仕組みをとっている。

### (5) 成果・工夫点

- ① 障がい者が生涯学習事業に参加できるように、支援体制が構築されている。
- ② 社会福祉協議会で「ボッチャ」大会を継続して実施しており、高齢者を含め、市民の関心が高まっている。
- ③ 社会福祉協議会の係長が学校にも積極的に働きかけるなど、様々な活動を広げており、市の保健福祉部局や市教委の生涯学習部局とも連携しながら活動を進めている（現社会福祉課長・生涯学習課長は社会福祉協議会に出向していた経験がある）。

### (6) 今後の方向性

- ・次に策定する市の総合計画には、重点として障がい者の活動が盛り込まれる予定である。

### (7) ポイント

- ① 障がい者が生涯学習活動に参加したときの支援体制が関係団体との委託事業として構築されている。
- ② パラスポーツを通して、子どもを含めた一般市民が活動を理解する機会を創出している。
- ③ 社会福祉協議会の担当者が学校を含めた団体とつながりながら、様々なところで活動を推進しており、キーマンの役割を果たしている。
- ④ 社会福祉協議会に市役所から数年にわたり管理職を出向させており、保健福祉部局や社会教育部局と連携した活動を進めることができている。

### (8) 考察

- ・障がいがあっても、事業に参加できる支援の仕組みができているのは重要なことである。
- ・社会福祉協議会を中心とした様々な事業展開がなされており、パラスポーツは、市民の高い関心が得られている。
- ・個別の支援を進める意識があり、高校生の入学へのサポートなど、障がい者のニーズに応じた支援を進めている。

## 1-2 名寄市民文化センター

### (1) 調査の概要

調査日	令和4年(2022年)9月9日(金)
場 所	名寄市民文化センター
内 容	施設のバリアフリーの現状
方 法	施設の視察
協力者	名寄市教育委員会生涯学習課長 佐々木 憲一
調査員	北海道立生涯学習推進センター主査 国枝 知 同 社会教育主事 浅川 美緒

### (2) 障がい者への対応状況

- ・西館と東館がつながっている。近年建設された西館にはバリアフリー設備が整っている。



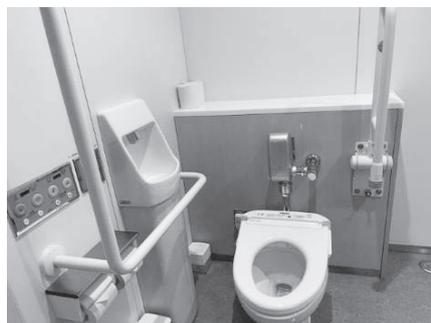
段差がないバリアフリー設計の玄関



スロープがあり車椅子も利用可能なホールへの通路



エレベーターを完備



広くて手すりやオストメイトが完備されている多目的トイレ

## 2-1 釧路市生涯学習センター

### (1) 調査の概要

調査日	令和4年(2022年)9月13日(火)
場 所	釧路市生涯学習センター まなぼっと
内 容	障がい者の生涯学習の実施状況、施設の障がい者への対応状況等
方 法	施設の視察、担当者へのヒアリング
協力者	釧路市生涯学習センター館長 宮原 亮
調査員	北海道立生涯学習推進センター主幹 長岡 広之 同 社会教育主事 斉藤 萌

### (2) 事業の概要

事業名：まなぼっとシニア講座「わくわくセカンドライフ」

事業内容：体の不自由な人に会ったら

### (3) 運営体制

- ・ 釧路市社会福祉協議会ガイドヘルパーと釧路市聴覚障がい者協会により運営している。

### (4) 具体的な活動

- ・ 疑似体験を通して、各種障がい者への支援方法や課題などについて理解を深めている。

### (5) ポイント

- ・ 様々な障がい者への支援の方法について理解を深められるような取組をしている。

### (6) 障がい者への対応状況

- ・ 対応可能な障がい種：肢体不自由、聴覚障がい
- ・ 支援体制：身体障がい者用トイレ、難聴者集団補助装置



車椅子専用スロープが設置されている玄関



集団補聴装置箇所が設置されているホール



身障者用トイレ



オストメイト対応トイレ

## 2-2 釧路市中央図書館

### (1) 調査の概要

調査日	令和4年(2022年)9月13日(火)
場所	釧路市中央図書館
内容	障がい者の生涯学習の実施状況、施設の障がい者への対応状況等
方法	施設の視察、担当者へのヒアリング
協力者	釧路市中央図書館・釧路文学館 館長 中山 朗生 同 副館長 石原 美津代
調査員	北海道立生涯学習推進センター主幹 長岡 広之 同 社会教育主事 斉藤 萌

### (2) 事業の概要

事業名：対面朗読サービス

事業内容：朗読ボランティアが希望する図書(資料)を対面で朗読するサービス

対象者：視覚に障がいのある方や、活字が見えづらく本を読むのが大変と感じられる方

### (3) 運営体制

- ・ボランティアにより運営している。

### (4) 具体的な活動

- ・専用の対面朗読室にて対面で朗読
- ・週2回、1回2時間まで
- ・サービスの申込みは1週間前まで図書館に直接問い合わせ

### (5) 障がい者への対応状況

- ・対応可能な障がい種：補聴器や人工内耳を装着している方、視覚障がいの方
- ・支援体制：ヒアリンググループ補聴システム、大活字本の配架、認知症コーナー、手話コーナー、拡大読書器、読みあげ機の設置、聴覚障がい者用屋内信号装置(火災等緊急時用)
- ・具体的な活動：釧路市図書館職員により運営



対面朗読室



ヒアリンググループ補聴システム



拡大読書器・読みあげ機



車椅子用読書スペース



聴覚障がい者用屋内信号装置（火災等緊急時用）

#### (6) 特色

- ・配架する棚の高さを低く設定し、誰にでも手に取りやすくしている。また、地震等の災害時に本が落ちてきても多くの本が落ちにくいようにしている。
- ・車いす用読書スペースを設置し、利用しやすいようにしている。

#### (7) ポイント

- ・様々な障がい種に対応できるように設計されている。

### 3-1 大空町教育委員会

#### (1) 調査の概要

調査日	令和4年（2022年）10月25日（火）
場 所	大空町教育委員会
内 容	大空町における障がい者の生涯学習の実施状況等
方 法	担当者へのヒアリング
協力者	大空町教育委員会教育長 関谷 正樹 同 生涯学習課主幹 歌丸 庸介
調査員	北海道立生涯学習推進センター主幹 長岡 広之 同 主事 磯崎 麻美

#### (2) 事業の概要

- ・スポーツを通じた交流（高齢者や子どもを含む）を実施している。
- ・マラソン大会に障がい者の方が出場している。
- ・文化祭に障がい者施設からの作品を出展している。

- ・学校の総合的な学習の時間において、福祉関係者による障がい等についてのレクチャーを実施している。

### (3) 運営体制

- ・町の福祉部局、社会福祉協議会と連携し、事業を行っている。
- ・窓口は福祉部局としているが、事業の具体は協働して決定している。
- ・老人クラブ連合や子育て支援センターの利用者に声を掛け、共催として事業を行っている。

### (4) 具体的な活動

- ・オリンピックやパラリンピックの影響もあり、町民が身近に感じられるものとして、ボッチャなどスポーツを通じた交流が行われている。
- ・高齢者大学に参加している方や子どもも取組みに参加している。
- ・10月に行われるマラソン大会に、精神障がいのある子どもが出場する。
- ・11月に行われる文化祭において、障がい者施設から絵画や創作物などの作品を出展してもらう。
- ・日頃から創作活動を行っている文化団体と障がい者施設とのネットワークがある。
- ・学校において、総合的な学習の時間で「福祉」を扱う際に、福祉部局職員や福祉関係者が、障がいや車椅子の特性などについてレクチャーする取組みを行っている。

### (5) 成果・工夫点

- ① 福祉部局、社会福祉協議会、教育委員会の間で線引きせずに、それぞれの立場からアプローチを行いながら、連携して事業を行っている。
- ② 福祉部局の職員が学校の授業において、障がいについてレクチャーする機会を設けるなど、町の福祉部局と教育委員会の生涯学習部局とが連携しながら活動を進めている（生涯学習課主幹は以前福祉部局に4年間在籍していた経験がある）。

### (6) 課題

- ・障がい者の生涯学習事業に限らないが、コロナ禍により、事業の継承が困難である。

### (7) ポイント

- ① パラスポーツを通して、高齢者や子どもを含めた一般町民が交流する取組が行われている。
- ② 文化祭や創作活動を通して、一般町民が活動を理解する機会が創出されている。
- ③ 町の福祉部局や社会福祉協議会等と連携しながら事業が行われている。

### (8) 考察

- ・スポーツ及び文化の各分野で、一般町民が活動を理解する機会があるのは重要なことである。
- ・福祉部局との連携により、学校で児童生徒を対象とした取組があるのは大切なことである。



## 取組 8

### 読書や図書館等の利用に困難を伴う障害者の支援に関する取組の実施

令和元(2019)年に読書バリアフリー法（視聴覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律）が成立したこともあり、障害者の読書や図書館等の利用に対する関心が高まっていることから、市町村立図書館や学校図書館の職員を対象に、障害者の生涯学習支援や特別支援教育の重要性について学ぶ研修機会の充実に努めた。

#### 1 北海道立図書館と連携し、各市町村図書館等における障害者の支援に向けた研究

○昨年度実施した「全道図書館専門研修（経営（関係法規）」における内容を市町村でも生かすための取組

- ・研修会名 渡島管内図書館振興協議会職員研修
- ・テーマ 「誰もが利用できる図書館」を目指した公共図書館サービス
- ・主催 渡島管内図書館振興協議会
- ・共催 北海道立図書館
- ・日時 令和4年11月11日（金）
- ・会場 北斗市総合文化センター（かなで～る）大会議室
- ・参加者 渡島管内8市町 図書館職員など 22名
- ・内容 講演 公共図書館における読書バリアフリーの取組について  
北海道立図書館総務企画部企画支援課  
企画主幹 原 美代子 氏  
講演 函館視覚障害者図書館とサピエ図書館の取組について  
函館視覚障害者図書館 館長 森田直子 氏  
意見交換  
北斗市立図書館案内

※参考（昨年度の「全道図書館専門職員研修（経営（関係法規）の内容）」  
講義 ①「第6期 北海道障がい福祉計画について」  
講義 ②「障害のある方への生涯学習支援」  
事例紹介「点字図書館の仕事について」  
事例紹介「図書館利用に関する人々へのサービス」  
館内設備見学ツアー

#### 2 学校図書館担当職員に対する学習機会の創出

- 研修会名 令和4年度学校図書館担当職員研修
- テーマ 「特別支援教育の現状と課題」
- 日時 令和4年8月26日（金）15:40～16:40  
※研修終了後も、オンデマンド配信を実施
- 方式 遠隔会議システム ZOOM による講座開設及び Google Classroom 内でのオンデマンド配信
- 講師 専修大学文学部教授、放送大学客員教授 野口武悟 氏
- 参加 学校図書館担当職員（学校司書）、学校図書館ボランティアなど 155名
- 内容 特別支援教育の現状・歴史・潮流・制度、特別支援教育の教育内容・教育課程編成、支援ニーズに対応できる学校図書館づくり

## 令和4年度 渡島管内図書館振興協議会職員研修会

日 時：令和4年11月11日(金) 13:15～16:30  
場 所：北斗市総合文化センター(かなで～る) 大会議室  
参加人数：渡島管内8市町村 図書館職員 等 22名

テーマ：「誰もが利用できる図書館」を目指した公共図書館サービス

### 【日程】

13:15 開会・挨拶  
渡島管内図書館振興協議会 会長 佐藤 毅(北斗市立図書館長)

13:20 講演  
『公共図書館における読書バリアフリーの取組について』  
北海道立図書館 総務企画部 企画支援課 企画主幹 原 美代子

14:50 休憩

15:00 講演  
『函館視覚障害者図書館とサピエ図書館の取組について』  
函館視覚障害者図書館 館長 森田 直子 様

16:00 意見交換

16:15 北斗市立図書館案内

16:30 閉会・挨拶  
渡島管内図書館振興協議会 副会長 落合 仁子(函館市中央図書館長)

### 【講演終了後の感想・意見交換での各館の取組事例から】

- ・リーディングトラッカーについて、図書館で自作して置いてみたい。
- ・サピエ図書館に加入したが、利用条件が難しく、いまのところ利用者はなし。広報に努めていく。
- ・朗読ボランティアと利用者をつなげることを行っている。
- ・来館困難者に宅配サービスを月2回行なっている。
- ・大活字コーナー、拡大読書機あり。ボランティア(朗読サークル)に防音室の貸出など。
- ・車イスが通りやすいように通路幅を広げた。  
→◎サービス内容を利用者に知ってもらうための広報が必要

## 令和4年度学校図書館担当職員講習 実施要項

### 1 目的

学校図書館法第6条第1項及び第2項に基づき、学校図書館の利活用の一層の促進に資するため、専ら学校図書館の職務に従事する職員（学校司書）の養成に係る基礎講習を実施し配置促進に寄与するとともに、本道における学校図書館を担当する職員等の資質向上を図る。

### 2 主催

北海道教育委員会

### 3 対象

道内在住の学校司書、学校図書館を担当する職員（事務職員、実習助手等）・支援員等、図書館ボランティア、PTA等

### 4 定員

100名程度

### 5 講習期間及び日程等

(1) 令和4年（2022年）7月～10月（講義終了約2週間後から、順次オンデマンド配信）

(2) 日程

実施日	講習名 【時間数】	内容
7/26（火）、 8/1（月）	I 学校図書館基礎講習 【6時間】	1 学校図書館の理念と教育的意義 2 教育行政と学校図書館
<b>省 略</b>		
8/26（金）、 31（水） ※配信：11月迄	III 学校図書館担当職員が 知っておきたい学校教育 【4時間】	1 学校教育の意義と目標、学習指導要領等 2 児童生徒の心身の発達と学習過程 3 特別支援教育の現状と課題 4 現代の学校と地域課題
9/6（火）、 14（水）、	IV 学校図書館サービス力 向上講習	1 学校図書館サービスの考え方と構造、運営 2,3 学校図書館の環境整備①②
<b>省 略</b>		

### 【受講者感想から】

- ・「障害があるから読めないのではなく、障害に合わせた本がないから読めない」という言葉がとても印象に残った。バリアを取り除き、「誰一人取り残さない学校図書館へ」していきたい。
- ・分けるのではなく、合理的配慮のもと、みんなで一緒に学ぶというインクルーシブ教育について学び、そのために知識やスキルを身につける必要があると感じた。
- ・まずはリーディングトラッカーやルーペなどの読書補助具をそろえたい。LLブックや大活字本、オーディオブックなどの整備は、これからの課題であると感じた。





文部科学省主催「共に学び、生きる共生社会コンファレンス」  
令和4年度共に学び、生きる共生社会コンファレンスin北海道 実施要項

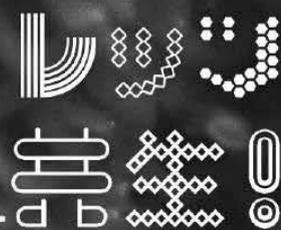
- 1 趣 旨 平成26年の障害者権利条約の批准や平成28年の障害者差別解消法の施行等も踏まえ、学校卒業後の障害者が生涯を通じて学び続けられる社会、共に学び、生きる共生社会の実現に向けて、障害者の生涯学習の機会を全国的に整備・充実することが急務であることから、障害者の生涯学習活動の関係者が集い、研究協議等を行い、障害理解の促進や、支援者・担い手の育成、障害者の学びの場の充実を目指す。
- 2 開 催 日 時 令和5年(2023年)2月4日(土) 10:00～16:00
- 3 会 場 遠隔会議システム(Zoom)を利用したオンライン開催  
※オンラインでの参加が困難な方を対象に、次のとおり特設会場を開設します。  
札幌市会場：北海道立生涯学習推進センター かでる2・7  
北広島市会場：北広島市役所  
岩見沢市会場：岩見沢市役所
- 4 主 催 文部科学省、北海道教育委員会
- 5 共 催 医療法人稲生会
- 6 参 加 対 象 障害当事者及びその家族、行政担当者、社会教育主事、公民館その他社会教育施設職員、特別支援学校等教職員、大学関係者、福祉サービス事業所職員、社会福祉協議会職員、企業、NPOその他関係団体に関わる者等

7 日程及び内容

	10:00	10:15	11:40	12:40	15:00	15:50	16:00
開会	①行政説明	②全体会	休憩	③分科会	④まとめ	閉会	

- ① 行政説明：「共に学び、生きる共生社会コンファレンス」に係る趣旨説明  
説明者 文部科学省総合教育政策局男女共同参画共生社会学習・安全課
  - ② 全体会：「障害者の生涯学習への理解を深めるために」  
パネリスト 分科会における発表者  
コーディネーター 医療法人稲生会 理事長 土 畠 智 幸
  - ③ 分科会：「障害者の生涯学習のさらなる促進に資する多様な世界の体験」  
11分科会（前半5分科会、後半6分科会）を予定  
身体障害の世界、視覚障害の世界、知的障害の世界、ゲームの世界、行政の世界、  
精神障害の世界、聴覚障害の世界、教育の世界、支援者の世界、家族の世界、  
メタバースの世界  
※詳細については、別添申込チラシのQRコードより御確認願います。
  - ④ ま と め：「分科会の交流」
- 8 申 込 令和5年(2023年)1月27日(金) まで  
※ファックスまたはメール、Googleフォームにより申し込みください。
  - 9 そ の 他 新型コロナウイルス感染症の状況により、実施方法を変更する場合があります。

# 体験 探検



## マタパース 共生 マルチパース!

### 第一部 全体会 10:00~11:40

ようこそ、マルチパースの世界へ! 「共生」を体験・探検するための準備として、それぞれの世界の住人に少しだけマルチパースの案内をしてもらいます。住人たちに会うのは、メタパースの世界。勇者たちよ午後の分科会での冒険に備えよう! ※ZoomまたはYouTubeライブ配信でご参加いただけます。

### 第二部 分科会 12:40~15:00

いよいよ、それぞれの世界を体験・探検します。それぞれの世界の住人たちとともに、「共生」への鍵を見つけよう!



### 第三部 まとめ 15:00~16:00

マルチパースの世界を体験・探検した勇者たちが再び集います。それぞれの世界で、どんな体験をしたのか。探検を通して、何を学んだのか。さらなる「共生」の冒険に向けて、皆で分かち合います。

## 2023年2月4日(土)開催

※本コンファレンスは Zoom ミーティングを使用して開催します

令和4年度 ともに学び、生きる共生社会コンファレンス in 北海道 主催：北海道教育委員会 / 文部科学省 共催：医療法人稲生会

さんかもうしこみしょ  
**参加申込書**

りよう  
**QRコードをご利用ください**

メール



フォーム



もうしこみしめきり ねん がつ にち きん  
**申込締切 2023年1月27日(金)**

ファックスまたはメール、Google フォームで**もうこ**お申し込みください。  
 きにゆう こじんじょうほう いがい もくてき しょう  
 ご記入いただいた個人情報**は**本コンファレンス**以外**の目的で使用することはありません。

フリガナ なまえ <b>お名前</b>			しよぞく <b>ご所属</b> (職名)		
れんらくさき <b>連絡先</b>	でんわ 電話:			メール:	
す お住まいの ちいき 地域	例) 北海道札幌市				
ぶんかikai <b>分科会</b>	ぜんはん 前半 (1~5)	だい 1 きぼう 第1希望	だい 2 きぼう 第2希望	こうはん 後半 (6~11)	だい 1 きぼう 第1希望
びこうらん <b>備考欄</b>					

- お名前、ご所属、ご連絡先を記載してください。
- Zoom ID・パスコードは事務局よりメールで返信いたします。※メールアドレスは必ず正確にご記載ください。
- 特別な配慮を必要とされる方、(オンライン環境等の都合により)会場からの参加を希望する場合は備考欄に記載してください。
- 分科会については、下記の前半 1~5、後半 6~11 の中からそれぞれ第1希望、第2希望を必ずご記入ください。  
 ※ご希望に添えない場合がございますのでご了承ください。

ぶんかikai ぜんはん  
**【分科会 前半】**

- 1 身体障害の世界 2 視覚障害の世界 3 知的障害の世界 4 ゲームの世界 5 行政の世界



ぶんかikai しょうさい  
**分科会の詳細は  
 こちらから**

ぶんかikai こうはん  
**【分科会 後半】**

- 6 精神障害の世界 7 聴覚障害の世界 8 教育の世界 9 支援者の世界 10 家族の世界 11 メタバースの世界

そうふさき  
**送付先**

いりょうほうじんとうせいかい じむぎょくいき たんとろ まつい みやた  
**医療法人稲生会 事務局行 (担当: 松井・宮田)**  
**FAX: 011-685-2798**  
**メール: toseikai@kjnet.onmicrosoft.com**

といあわ  
**お問合せ**

かいさいじむぎょく いりょうほうじんとうせいかい  
**コンファレンス開催事務局「医療法人稲生会」**  
 住所: 札幌市手稲区前田4条14丁目3-10 (さっぽろしていねくまえた4-14-3-10)  
 電話: 011-685-2799 / メール: toseikai@kjnet.onmicrosoft.com

コンファレンスは、Zoom ミーティングを使用して開催します。使用方法等、ご質問があれば事務局までお問い合わせください。

## 行政説明

説明者：今井敏之助氏

(文部科学省総合教育政策局 男女共同参画社会学習・安全課 障害者学習支援推進室  
障害者学習支援第二係長)

障害者の生涯学習については、平成26年に「障害者権利条約」を批准した後、国の法整備が進み、平成29年度に文部科学省生涯学習政策局（現 総合教育政策局）に、障害者学習支援推進室が新設されたことなど、障害者の生涯学習の推進に向けた同校について説明がありました。

また、平成31年3月の有識者会議最終報告を用いた説明や、障害者の生涯学習の推進を担う人材育成の在り方等についても詳しく紹介され、障害の有無に関わらず学び続けられる体制整備と機会拡充の重要性について参加者は理解を深めました。

文部科学省からの説明は、「法の整備を進め、実践者の自由な取組などの現場実践から効果的な政策を実行していきたい」と力強い言葉で締めくくられました。

## 第1部 全体会

コーディネーター：土 畠 智 幸 氏（医療法人稲生会）

### 1. 全体会の様子

AI音声によるマルチバースへの招待動画にて全体会が開始され、本コンファレンスへの参加者に対して、アバターになったファシリテーターや発表者が各分科会の内容やおすすめポイントについて紹介する形で進行されました。

仮想現実空間を用いた取組は、現実世界では車椅子を利用している方であっても、アバターとして歩いたり、走ったりすることができ、障害の有無にかかわらず、誰もが同じような動きができる特徴があるとの説明がありました。

参加者は、11の分科会の部屋を訪れながら、本コンファレンスの内容に期待を膨らませるとともに、障害者の生涯学習を今後推進する上で配慮すべき事柄について理解を深めていきました。

### 2. 参加者アンケート

○障害や支援についてもそうですが、メタバースの世界からご紹介されていたことで、一つ一つが新鮮で、面白く見ることができました。

○イベントの趣旨と他の分科会の内容が分かって良かった。分かった影響で、申し込んだ分科会から別の分科会に変えたいくなるほどだった。

○メタバースの世界観が理解できたことで、その後で参加する分科会への関心が深まりました。

## 昼食時 カフェサボッチャ

### 1. カフェサボッチャの様子

特設会場を設けた、道立生涯学習推進センターかでの2・7では、行政説明や第1部「全体会」に続いて、昼食時に北海道内の障害者の生涯学習に関する取組などを紹介する、動画「カフェサボッチャ」を放映し、参加者は視聴しました。

この動画は、Youtube上で、コンファレンス終了後にも期間限定の配信が行われ、今後の取組を推進する上での情報を共有し、取組の横展開を進める上でも貴重な機会となりました。

### 2. 参加者アンケート

○障がいを持つ方と健常者の関わり方について、参考となる内容を映像として見ることで非常に有意義でした。

○緩やかにできることを活かしながら繋がったり広がったり、心地よい動画でした。

○インタビューを通して、インタビュアーの優しさを感じました。

## 第2部 分科会

### 第1分科会 「身体障害の世界」

発表者： 堀 楓 香 氏

#### 1. 分科会の紹介（参加者向けの事前メッセージ）

当分科会では「笑い」をテーマに「身体障害の世界」にアプローチします。とはいえ、身体障害と言っても各人によってその実際はあまりに多様で、容易に私たちが体験できるものではないでしょう。そこで、今回は脳性麻痺の当事者である堀楓香さんという一人の人間の世界を、参加者のみなさんが体験することを目指します。

私たちが日常使用している言語を道具に、知って、考えるということよりも本質的で、否応なしに参加者が巻き込まれてしまうような、そんな時間を生み出したいと考えています。「共生社会」や「社会的包摂」は多数者の論理になっていないだろうか、そんな問いに対し「笑い」を通して切り込みます。

#### 2. 分科会の様子

「障害者は共生を強制されることが多い」という一言を皮切りに漫才が始まりました。楽しい漫才の後、社会的に多数である健常者の論理で、共生社会という名のもとに差異を無くしていこうという動きや、障害者を弱き存在とみなして優しくしていないだろうかと問題提起がありました。

漫才を通して、健常者の「常識」も障害者の「常識」も、「常識」としては怪しい（曖昧さがある）のではないかと締め括られました。

参加者からは、「共生の強制という言葉が心に刺さった。健常者とされる人も、障害者とされる人も、お互いに常識に縛られる危うさについて考えさせられた」との感想が寄せられました。

### 3. 参加者アンケート

- 漫才と身体障害がどのように繋がるのかと参加前は思っていたのですが、ボケとツッコミの差異が障害者と健常者の差異にも繋がっているという考えが、「なるほど！」と考えさせられました。
- 漫才を聞く中で、自分がイメージしていた共生社会が健常者主体に作られたもの、イメージ化されたものであると感じました。
- 分科会を通じてメッセージを届けようと趣向を凝らして企画されたことがよく分かりました。

#### 第2分科会 「視覚障害の世界」

発表者：吉田重子氏

#### 1. 分科会の紹介（参加者向けの事前メッセージ）

「見ないで遊ぶ」を楽しむ！「耳で見る」を体験！そして、ことばに「触れて味わう」。  
視る中心主義の空間から抜け出すと、その先の世界が見えてくる。“目で見ない世界”の初心者歓迎！  
ほんとは、特別なことじゃないけど、知らないと特別になってしまう！皆さまのご参加をお待ちしております！

#### 2. 分科会の様子

初めに、視覚に頼らない「人物当てクイズ」と「あっち向いてホイ」を体験しました。参加者は、声だけではタイミングが合わせにくいことなど、視覚から多くの情報を得ていることを再確認しました。  
次に、3枚の写真を見て視覚障害者への声掛けを検討する中で、両者がそれぞれ勇気を出して思いを伝え合う必要があることに気付くことができました。  
また、点字についてジャム瓶やアルコール飲料缶の表示に係る当事者の率直な思いを聞き、最後に、事前配付された菓の点字読解に挑戦し、参加者で「世界をつなげよう」という言葉を共有しました。

#### 3. 参加者アンケート

- 実生活の場面で話しかけてもいいこと、視覚情報やそれ以外の情報のどちらも伝えると助かることを知れて良かったです！同じ場面に出会ったら話し掛けてみよう、という小さな勇気を持ってました。
- クイズやゲームを通じて、視覚障害の方が感じていることをたくさん教えてもらいました。町で視覚障害の方に出会ったとき、声を掛けるのは勇気があることですが、失敗を恐れずに相手の気持ちを想像しながら声をかけてみたら良いなと思いました。

### 第3分科会 「知的障害の世界」

発表者：深 宮 しのぶ 氏（一般社団法人札幌市手をつなぐ育成会 常任理事）

#### 1. 分科会の紹介（参加者向けの事前メッセージ）

「知的障害の世界」では、知的障害・発達障害がある人たちの経験を「擬似体験」します。「かいてみよう」「きいてみよう」「のぞいてみよう」。三つの体験を通して、「知的障害の世界」を探検します。普段から体験的な講座の実施に取り組まれている「Team i」のみなさんが楽しく世界を案内してください。みんな大好き、Team iのオリジナルキャラクター「クリン」と「オネ」も登場するかも！？ぜひみなさまお楽しみにご参加ください。

#### 2. 分科会の様子

「かいてみよう」「きいてみよう」「のぞいてみよう」というワークを通して、知的障害がある人たちの困っていることへの理解を深めることができた。曖昧な表現でなく、目で見て確認できる視覚支援が有効であり、具体的に示すことが大切であることを共有しました。

また、知的障害のある子どもがバスに乗った際に、周囲の大人がそのことに気付かず、その子どもに厳しいことを言った際に、同級生が事情を説明してくれたエピソードなども紹介されました。

#### 3. 参加者アンケート

○私がいつも伝えているモノの言い方や伝言の仕方を振り返るきっかけとなり、知的障害を持たない人と接する時にも考えて工夫を行う必要があることを感じました。

○Team iの Powerfulな啓発活動が分かりやすく、当事者理解を発信する上で参考になりました。

○体験に基づく気づきがとても多かったです。

### 第4分科会 「ゲームの世界」

発表者：早 川 瑛一郎 氏

#### 1. 分科会の紹介（参加者向けの事前メッセージ）

大人も子どもも、人種も、性別も、もちろん障害の有無にも関わらず、みんなが夢中になるゲーム。最近インターネットを介したオンラインゲームも人気です。オンラインゲームの面白さは、そのものの面白さに加えて、プレイヤーの姿が見えないところにもあるかもしれません。リアルで繋がっていないからこそその気楽さも魅力です。

今回のゲームの世界では、マイクラフトを使い、隠れ鬼（隠れたり逃げたりして鬼から逃げましょう！）を行います。皆さんと一緒にゲームの面白さを体感し、健常者と障害者には差があるという先入観を吹っ飛ばすことを楽しみにしています。ゲームの好きな方も、苦手な方も、ぜひ一緒に楽しみましょう。この機会にゲーム生活をスタートする、お子さまやご家族のソフトをお借りして一緒にプレーしてみる、むしろゲームは任せて後ろから視聴する、ZOOMで楽しむ。

どんな参加の方法も歓迎です。安心してご参加ください。

## 2. 分科会の様子

マイクラフトの世界に入り、鬼から逃げながら、三つの宝物を探すゲームを行いました。ゲームに参加しない参加者も、ゲームの様子が映る操作画面を見て、ゲームの世界を楽しんでいました。

ゲーム内では障害のハンデが少なくなることを実感した参加者からは、「新しい世界を見せてもらった」「大会とかがあるとモチベーションあがる」「コントローラーの工夫次第で、より多くの人に参加できるようにする」との感想が出されました。

## 3. 参加者アンケート

○マイクラフトについては、私自身プレイしたことがなく、見ていてもよく分からないところが少しあったのですが、鬼ごっこゲームとしては成り立っていて、楽しそうでした。

○熊本でも、ごちゃまぜのe-スポーツがあちこちで開催されるようになってきましたが、知らない方にはまだまだゲームへの先入観があって残念です。操作しやすいコントローラーの支援事業をしている仲間がいますので、もっと気軽に誰もが楽しめる世界になれば良いと思います。

### 第5分科会 「行政の世界」

発表者：山田 努 氏（岩見沢市健康福祉部福祉課 主幹）

古内 誠也 氏（北広島市教育委員会社会教育課 主任（社会教育主事））

#### 1. 分科会の紹介（参加者向けの事前メッセージ）

障害者の生涯学習を推進するためには、多様な団体が連携・協働した取組の充実が必要となります。この分科会では、先駆的な取組を継続される、岩見沢市と北広島市からの実践発表を通して、学びの場の整備や拡充に向けた方策について学びを深めます。実践発表やその後の質疑応答を通して、地域協働型の事業を展開する上で何が求められるのか、理解を深める機会にしましょう♪

#### 2. 分科会の様子

岩見沢市からは、アートアカデミー事業の取組が紹介されました。「生涯にわたる学びの場であるとともに、純粋にアートを楽しむ場でもあり、教わることから教えることへつながる自己実現の場でもあり、とても温かな取組だ」という感想が寄せられていました。北広島市からは、コンソーシアム形成のモデル事業の様子を紹介していただきました。「共生社会」をテーマに、福祉、教育、当事者や支援者など様々な立場から考え、事業を作り上げていく中で、行政の役割について学ぶ機会になりました。

#### 3. 参加者アンケート

○岩見沢市、北広島市それぞれの取組を詳しく紹介いただき、参考になりました。何らかの組織や団体に所属がある障害の方は情報も得てイベントに参加機会を作れますが、地域で暮らす障害の方々に情報が伝わりやすく、参加しやすい環境が望ましいですね。その為の地域作りも大切と感じました。

○市や町の取り組みが聞けて勉強になった。法人レベルでもできることの参考になった。

## 第6分科会 「精神障害の世界」

発表者：佐藤 志保 氏

### 1. 分科会の紹介（参加者向けの事前メッセージ）

この分科会では感情を色や形などで表現します。みなさんの「不安」や「安心」はどんな色？どんな形？ 数人のグループで対話をしながら、時にはちょっと離れて対話を眺めながら、自分の心の「カタチ」をサンプルの中から直感で選んでみます。それぞれが選択した色や形が組み合わさって、どんな「私たちのカタチ」が現れるのでしょうか。

「不安」といっても人それぞれ。「安心」といっても人それぞれ。昨日の「不安」や「安心」と、今日の「不安」や「安心」も、違った「カタチ」をしているかもしれません。そんな「カタチ」を合わせてみたら、素敵なカタチになったらいいな。そんな願いで開催します。

分科会に参加したみんなの「心」を組み合わせて、「私たちのカタチ」をつくります。

### 2. 分科会の様子

参加者がグループに分かれて、自分の今の気持ちについて、色と形を選んで表現しあうワークショップを行いました。参加者からは、「同じ形でも色が違ったり、選んだ理由や視点が違ったり面白かった」「他の人の話を聞いてイメージが変わったりするなど、様々な経験ができた」という感想がそれぞれ発表されていました。

最後に発表者の佐藤さんが歩んできた道のりを振り返られ、それぞれのライフステージにおける気持ちについて、色と形、そこに置かれている自分を表現され、文章とともに発表されました。

### 3. 参加者アンケート

○当事者の話が大変勉強になった。精神的に落ち込んでいる時に何を話されても心には響かないため、まずは話を聞くことが大事ということを学んだ。

○絵や色や形に、その人の言語化できない、自分でもうまく認知できない意識を投影していくのは面白いですね。他の方の話を聴いていると、自分の心の中の見えなかった部分も「あ、私もそれわかる」と色づいて見えてくるようで、自分の世界が広がっていくようでした。

## 第7分科会 「聴覚障害の世界」

発表者：吉原 和香奈 氏（えりも町教育委員会社会教育課）

### 1. 分科会の紹介（参加者向けの事前メッセージ）

聴くことはどういうことでしょうか？音のない世界では、楽しいゲームやクイズを通して、声に頼らない経験をしてみます。声に頼らない表現を受け取ると、心のバリアーが外れるかもしれません。言葉の壁を超えて、新しい自分の可能性を発見しませんか？皆さまのご参加をお待ちしております！

## 2. 分科会の様子

身体や顔（表情）を使って表現することや、グループワークで声を使わずに2つのことわざを伝え合う活動に熱心に取り組んでいました。参加者からは「ジェスチャーで相手に何かを伝えることは難しいことを再認識した。ジェスチャーを長く続けると身体に力が入るので疲れてしまい、手話通訳士が途中で交代することの意味が分かった」などの感想が寄せられていました。

また、感想交流の後、実践発表者からは「伝えたい気持ちがあれば、手話が分からなくても伝えることはできるので、ぜひ積極的に行って欲しい」と強調されました。

## 3. 参加者アンケート

○私は手話ができないから、聴覚障害の方と話すことができないと勝手に思っている部分がありました。ですが、今回の体験で言葉を使わなくてもコミュニケーションをとれることを実感し、大切な事は壁を作らずにやってみることだと学びました。

○音のない世界でも、こんなに楽しいゲームができるのだなと驚きました。考えてくださった方に感謝です。吉原さんもしっかりされていて尊敬します。

### 第8分科会 「教育の世界」

運営者：藤原裕美氏（北海道拓北養護学校 教頭）

新海真由美氏（北海道拓北養護学校 主幹教諭）

協力者：林部直人氏（北海道教育委員会学校教育局特別支援教育課 指導主事）

#### 1. 分科会の紹介（参加者向けの事前メッセージ）

皆さんにとって、教育とはどのようなものなのでしょうか？社会に適應できるように育てること、点数を取らせるためのもの、いい子に育てること、その子らしさを伸ばすこと、いま生きている世界を広げること。その価値観は様々かと思えます。

本分科会では、拓北養護学校で普段行なっている特別支援教育をオンライン上で体験していただき、その上で、教育とはどのようなものなのか、教育の目指すべきところはどこなのか、皆さんとともに考える機会としたいと考えています。

#### 2. 分科会の様子

コロナ禍において積極的にオンライン授業を進める拓北養護学校の模擬授業を体験受講しました。自立活動「体操」は、オンラインでも保護者と子どもが触れ合うことができる内容となっていました。

続く「国語」は、人形劇風にアレンジされた展開により、児童・生徒が主体的に授業に参画できる工夫が感じられました。また「音楽」は、リズム活動が促進されるようこだわり抜かれた選曲で構成されていました。最後の自立活動「光の学習」は、視覚や触覚を刺激する環境づくりがされていました。

参加者からは「手づくりの教材や授業展開の工夫から、一時間の授業にかかる先生方の努力の尊さを感じた」という声が聞かれました。

### 3. 参加者アンケート

- 特別支援学校で勤務をするのですが、自立活動等、見たことがなかったので、肢体不自由児の授業を見るのが初めてでした。どの児童生徒にも障害の名前があっても特性や実態はそれぞれ異なります。教材を工夫するなど、今後に活かしていこうと思います。
- 先生方によって工夫された授業の中身を見ることができて、とても勉強になりました。教材も手作りのものが多く、感想を言われた方がおっしゃられたように、どこかでその知識を集約して、誰もが反映できるプラットフォームができると親や通常学校の先生、後進の育成にも役立ちそうだと感じました。

#### 第9分科会 「支援者の世界」

発表者：吉 成 亜 実氏（みらいづくり大学校・会員）

協力者：鷲 見 恵 氏、佐々木 敏 美 氏、橋 本 李 桜 氏（合同会社道草舎道草介護士）

#### 1. 分科会の紹介（参加者向けの事前メッセージ）

支援者とひと口に言っても、医療従事者、介護士、相談員、行政職など、その職種や立場はさまざまです。この分科会では、医師や看護師、介護士など、登壇者の支援にまつわるあるある話や失敗談を聞きながら、会場みなさんも巻き込んで、ざっくばらんに語り合います。MCは日常的に医療や介護を必要とする吉成さん。さまざまな経験や語りを通じて、支援者の世界を体験していただければと思います。さあ！ブラボーな支援者の世界に集いませんか？ 支援って何？支援者って誰？ そこにいる「人と人」が作り出す世界。皆さまのご参加をお待ちしております！

#### 2. 分科会の様子

「支援者の失敗談」、「支援者に聞いてみたいこと」、「支援者とは」などのテーマについて、発表者と協力者の7名が中心となり意見を交わしました。

参加者からは、「支援者側が支えられていることが多い」「みんなが支援者である」「コミュニケーションが大切」「互いが良い関係にあるのが支援である」など、人と人の関わりが、支援を行う上では土台になっている状況が確認されました。

#### 3. 参加者アンケート

- 吉成さんのリードで、発言者の支援者の皆さんもイキイキと発言されていたのが良かったです。支援者（看護師さん）の「お母さんとの交流のお話」から、子育て中のお母さんの例えエピソードがあり、発達障害の長女を育てていた時を思い出しました。
- 普段自分が考えたいことと同じようなことを考えている方がいて、解決のヒントが得られた。

## 第10分科会 「家族の世界」

発表者：太田 由美子 氏（北海道重症心身障害児（者）を守る会会長）

### 1. 分科会の紹介（参加者向けの事前メッセージ）

「重症心身障害のある子の学校卒業後の生活を豊かにしたい」「本人の希望を捉え、叶えてあげたい」。それは、親であれば誰しもが願う希望や夢です。とはいえ、日々の慌ただしい暮らしに追われるのが現実。悩みながらも重症心身障害のある本人の希望を汲み取ったとしても、それは親のエゴではないのかと自問する毎日。それでも、私たちの暮らしは人と人との「つながり」に学びがあふれています。学校に入学したら、家族以外の人たちとのつながりが増えました。社会とのつながりが得られた気がしました。学校卒業後はどうでしょう。再び、限られた人たちとのつながりに限定されるのでしょうか。

卒業後も様々な体験をしてほしい、他人（ひと）との関わりを楽しんでほしいと私たちは願います。今、提供されている障害福祉サービスにもたくさんの学びや人と人とのつながりがあふれているはずです。暮らしを維持していくためだけでなく、暮らしを豊かにするサービスとして活用していきたい。そうするために、私たちはどうしたらよいのでしょうか。家族だけではなく、関係者の皆さんとともに考えていきたい。そんな思いから、この分科会が企画されました。

### 2. 分科会の様子

「学校卒業後は学びの機会がない。留年したい！と思った」という、当事者や家族の思いをそのまま表現した言葉から始まりました。重度心身障害のある方の学校卒業後の活動の場は、医療的ケアの必要性から、多くはないそうです。無理をせず、強制せず、できることを、というのが、当事者や家族、支援者みんなが楽しんで続けられるコツで、重度の障がいがあっても、子どもが大人になる課程で当たり前にある「自立」を大切にしていきたいという家族の思いに、共感の言葉が寄せられました。

### 3. 参加者アンケート

○保護者や福祉関係者の実践と活動の報告があった。お互いの立場の紹介や感想をもとにした話し合いは、上手な司会で深められたと思います。そこに存在する諸課題の整理や、解決策の協議ができれば良かったと思います。

○教育関係者、福祉、行政など、家族も含めもう少し多くの方が参加して体験して欲しかったです。事例報告も良かったと思います。

## 第11分科会 「メタバースの世界」

協力者：和田 敦 氏、多々良 秀 典 氏（みらいつくり大学の「哲学学校」のメンバー）

### 1. 分科会の紹介（参加者向けの事前メッセージ）

最近よく耳にする「メタバース」。自分の分身である「アバター」を使って、ヴァーチャルな世界での交流ができます。なんだか面白そう。でも、なかなかチャレンジしづらいな…。と思っているそのアナタ！ぜひこの機会に体験・探検してみませんか？

メタバースは初めてという方がほとんどだと思いますので、今回はメタバースの世界をアバターで

散歩しながらおしゃべりをするという内容です。いまは寒い冬ですが、メタバースの世界では、砂浜で海を見たり、湖畔で座っておしゃべりしたり、山頂からゆっくり町を眺めたりすることができます。

メタバースの世界では、障害者も、健常者も、男性も、女性も、ぜんぜん関係ありません！「なりたい自分」になって、別の「世界」を体験・探検することができます！話題のメタバース、ぜひこの機会にお試しください！

## 2. 分科会の様子

個性溢れるアバターとして、メタバースの世界に入っていった参加者は、障害者も健常者も一切関係なく、きれいな景色を見たり、ダンスをともに行ったりするなどして、仮想現実(VR)と拡張現実(AR)を組み合わせた世界を楽しんでいました。

障害の有無に関わらず、別の世界を体験したり、未知のフィールドを探検したりすることで、メタバースを活用することの楽しさに触れるとともに、活用した取組の可能性を確認する機会となりました。

## 3. 参加者アンケート

○今回初めてメタバースのイベントに参加して、手が不自由なために操作上の問題についていくことで精一杯でしたが、改善点が見えてきて、その後に自分なりに改善に繋がりに参加して良かったと思いました。

○まったくの初対面の方々でも、メタバースでしたら気軽に声かけができるのですね。メタバース初心者の方が、しまいには走り回ったりボートに乗ったりしていました。

## 第3部 まとめ

コーディネーター：土 畠 智 幸 氏 (医療法人稲生会)

### 1. まとめの様子

各分科会から概要と参加者の感想が報告されました。多くの分科会に共通していたのは、普段自分が身を置く世界とは異なる世界の疑似体験や、そこでの相互交流を通して気付いた「自身の固定観念や思い込みへの率直な気付き」でした。

この「まとめ」の時間では、それぞれの参加者が各分科会で手に入れた「共生の鍵」を共有することができ、明日からの日常生活において、自分とは異なる世界の扉を開け、異なる立場の方同士が相互に声を掛け合うエネルギーを得ることができました。

全体進行や分科会に企画から関わった障害当事者からは、「自分にとっても大変良い機会となりました。今後も障害の有無に関わらず、それぞれの方が得意なことを発揮し、様々な分野で社会に参画できる世の中になることを望みたい」という感想が聞かれました。

最後に、今年度のコンファレンスは障害の有無に関わらず様々な立場の方が企画から加わることで、多様な学びの場を提供することができたという成果を全体で確認し、今後は、障害種をまたぐコラボレーション企画等にも挑戦し、新たな気づきを皆で共有していきたいという展望を共有しました。

## 2. 参加者アンケート

- 司会者の「障害のあるなしに関わらず得意な人に任せる環境作り」、とても重要だと感じました。
- 障がいの有無にかかわらず、様々な違いを楽しみながら、誰もが地域社会とつながっていくための仕組みを、身近な地域で作っていただけると意欲がわいてきました。
- 私が参加していない分科会に参加された方の感想を聞くことができ、その人自身が感じた学び、発見を聞くことができ、共感したり、疑問を持ったりさらに自分の中での学びが深まりました。
- 体験できなかった分科会の話聞いて良かった。チャットでのコミュニケーションも良かった。
- 主催者ではない様々な方の感想が聞けたのは、とても参考になった。

### 全体を通した感想

#### 1. コンファレンスに参加して得られた気付き

- 今回の体験を通して、手話ができなくても、自分ができるジェスチャーを行えば、伝えようとしていることは伝わることを実感し、少し自分の伝え方を変えたらみんなに分かりやすい伝え方になることを学びました。「障害を持っているから、こうしよう」ではなくて、人を思った行動をとることがその人以外のために繋がることを感じ、障害というのは一つの個性のような感じがしました。
- 通常のオンライン研修等では、一方的な説明となりがちですが、今回のコンファレンスはそこを凌ぐ工夫されていて。大変な苦勞をされたのだと感じ、参加できたことに感謝しております。コロナの影響でオンラインでの開催を余儀なくされたところから、ここまで持ってきたことに頭が下がります。もっと多くの方に参加してもらいたいと感じました。
- それぞれの領域の垣根が埋まるために、今回のような他領域を学ぶ場がもっとあると良いと思いました。また、それぞれの地域の事業所が、共生社会における学びの場作りに積極的に関わっていけるようになるためのきっかけや仕組み作りの重要性を改めて感じた次第です。

#### 2. オンラインの活用のあり方

- 地理上の問題なく参加できて、ありがたかったです。
- 素晴らしいかったです。なかには失敗もあったのかもかもしれませんが、それでもトライする前向きな姿勢が参加者に伝わりました。チャレンジする勇気をもらえました。
- 配信状況は良好でした。これまでの反省を踏まえ、今年はパソコンを2台用意してコンファレンス全体を見る画面と手話通訳を見る画面の2画面で見たので、スムーズでした。UDトークの字幕が画面内に出てきたのも助かりました。

#### 3. 今後取り上げて欲しいテーマ

- 一緒に学び楽しく活動する、本人（様々な障害）やスタッフの事例発表で福祉の人材を増やしていく仕掛けがあるといいなと思います。
- 共生とその歴史、世界の現状について知りたいです。
- インクルーシブなコミュニケーションの実践をメタバースの世界で実際に体験してみたいです。



### 3 成果と課題

## 1 成 果

- 地域連携コンソーシアムを形成することで、学校卒業後における障害者の学びの場の整備・拡充について協議を深めることができた。
- 医療法人稲生会が実施する定例講座や、道立青少年体験活動支援施設ネイパルが開催するイベントを通して、障害の有無に関わらず、誰もが参加できる学習プログラムの開発を行うことができた。
- 学校卒業後の学びの継続性を確保するため、大学や特別支援学校の関係者による協議会を設けることで、現状および課題を共有することができた。
- 大学や特別支援学校等に対するヒアリング調査を通して、地域協働で行なわれる取組の好事例を収集することができた。また、本コンソーシアムの構成団体による、地域と連携した新たな取組を開始することができた。
- 地方公共団体の職員を対象とする研修会を開催することによって、障害者の生涯学習の重要性について、理解を促進することができた。
- 北広島市や岩見沢市における取組を先行モデルに位置付け、地域住民からの理解や協力を得た事業展開についてのノウハウを蓄積することができた。また、北海道医療大学が実施した調査研究を通して、当事者ニーズの把握が今後の事業を展開する上で重要となることを再認識することができた。
- 北海道立生涯学習推進センターによる各種調査を通して、市町村における取組の現状と課題を明確にするとともに、今後の市町村等における障害者の学習支援の体制構築に向けた考察を行うことができた。
- 市町村立図書館や学校図書館の職員を対象とした学習機会を設けることで、障害者の読書活動の充実や図書館等の受入体制の構築に向けた理解を深めることができた。
- 共生社会の実現に向けたコンファレンスを開催することで、障害者の生涯学習への理解を深めるとともに、広域的なネットワークを構築することができた。

## 2 課 題

- 学校卒業後の学びを継続するためには、特別支援学校等への在学中から地域における学びに参加することや、就労企業等から理解を得ることも重要となることから、特別支援学校や労働・福祉部局との連携・協働体制の構築が一層必要である。
- 全道各地の医療や福祉の団体や教育委員会等が主催する、障害者の生涯学習に資する取組について、引き続き事例の収集と発信が必要である。
- 障害者の生涯学習の機会を充実させるためには、教育委員会等の行政担当者によるその重要性について理解を促す研修機会の設定や、コーディネーター等の中核的な役割を果たす人材の養成が必要である。
- コロナ禍もあって、当事者やその家族に対するニーズを把握する機会が不足していることから、大学や特別支援学校等からの協力も得て、調査を継続することが必要である。
- 障害者の生涯学習に限らず、誰一人として取り残さない包摂的な社会を実現するため、地域全体の障害者への理解を推進する機会の提供が必要である。

令和4年度「障害者の生涯学習推進コンソーシアム形成事業」実施報告書  
令和5年（2023年）3月

北海道教育庁生涯学習推進局社会教育課  
〒060-8544 札幌市中央区北3条西7丁目 電話 011-204-5994